

(財)名古屋市高齢者療養サービス事業団
平成 22 年度公益事業助成・研究成果物

事業名

居住環境から見た

在宅要支援高齢者の居室の用途変更に関する研究

高齢者居住環境研究会

竹中美智子(名古屋市社会福祉協議会)

大崎友記子(岐阜女子大学)

小野 全子(株)オーラッド)

谷村 留都(アール・アンド・エス設計工房)

筒井 裕子(筒井裕子建築研究所)

内藤 恵子(設計室ないとう)

渡辺 利美(名古屋市社会福祉協議会)

野口 定久(日本福祉大学)

第1章 調査の目的及び方法等

1 調査の目的

高齢期に心身機能が低下すると、住宅改修や福祉用具の購入、居室の用途変更など住まい方に変化が起こる。在宅介護を行っていく上で、こういった環境因子の適・不適が介護度や健康状態の変化及び在宅介護継続期間におよぼす影響は大きい。しかし、居室の用途変更に関する研究は少ない。

高齢期の住生活のコアスペースを把握すると、効果的な住宅改修を提案できるだけでなく、在宅介護継続期間が長くなることや訪問介護必要時間の軽減による介護保険コストを軽減できる。また、ライフサイクルに即した住宅を提案することで、建替え回数軽減によるサステナブル・デザインのエコ住宅を提言することもできる。在宅生活が継続できるという安心感が高齢者の意欲向上につながり、今後増大する高齢者世帯の住み方の提案ができるだけでなく、地域で豊かに生活するという地域福祉の向上や生活基盤のあり方を向上させる基礎資料となることを目的とする。

第2章 アンケート調査の方法等

1 調査対象者、調査事項及び調査方法等

(1)調査対象者

名古屋市の某包括支援センターが予防給付を行っている
要支援の一人暮らし又は夫婦二人暮らし世帯の高齢者

(2)調査方法

ケアマネジャーの訪問時に配布、郵送改修

(3)調査事項

- ア 調査対象者の基本属性に関する事項
- イ 介護保険の利用状況
- ウ 住宅に関する事項
- エ 生活環境に関する事項

(4)調査実施期間

平成22年5月1日～平成22年7月31日

(5)標本抽出法

無作為抽出法

(6)標本数及び有効回収数

- ア 標本数 180人
- イ 有効回収数(率) 107人 (59.4%)

第3章 アンケート調査の結果

1 調査対象者の基本属性

(1)性別

男	女	合計
38 35.5%	69 64.5%	107 100%

【表 3-1-1】 男女比

(2)年齢構成

65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上	合計
2 1.9%	14 13.1%	23 21.5%	38 35.5%	27 25.2%	3 2.8%	107 100%

【表 3-1-2】 年齢構成

(3)要介護度

	要支援 1	要支援 2	合計
アンケート調査	47 43.9%	60 56.1%	107 100%
某地域包括支援センター 予防給付者数 (H22.5 末)	210 40.1%	314 59.9%	524 100%

【表 3-1-3】 要介護度

(4)同居者の状況

	一人暮らし	夫婦二人暮らし	合計
アンケート調査	68 63.6%	39 36.4%	107 100%
某地域包括支援センター 予防給付者数のうち、 一人暮らしまたは 二人暮らしの数 (H22.5 末)	229 66.0%	118 34.0%	347 100%

【表 3-1-4】 同居者の状況

	一人暮らし	夫婦二人暮らし	合計
65～69 歳	2 100%	0 0%	2 100%
70～74 歳	8 57.1%	6 42.9%	14 100%
75～79 歳	7 30.4%	16 69.6%	23 100%
80～84 歳	34 89.5%	4 10.5%	38 100%
85～89 歳	14 51.8%	13 48.2%	27 100%
90 歳以上	3 100%	0 0%	3 100%
合計	68 63.6%	39 36.4%	107 100%

【表 3-1-5】 同居者の状況と年齢構成

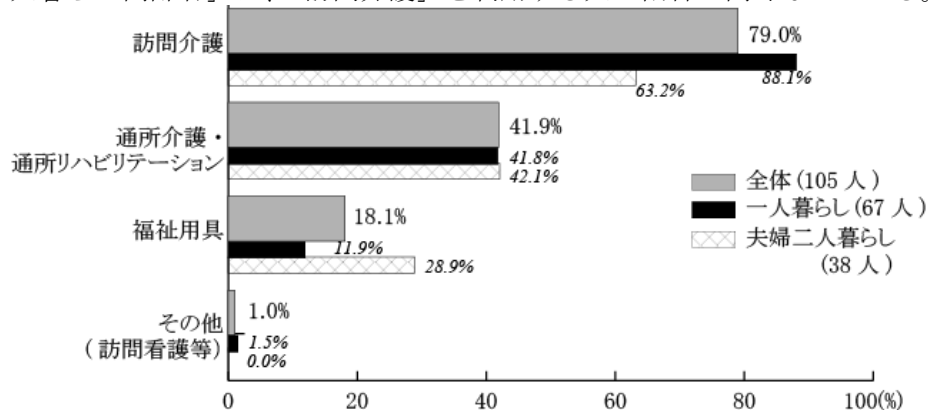
2 介護保険の利用状況

(1)現在のサービスの利用状況(Q4)

現在のサービスの利用状況についてみると、「訪問介護」が 79.0%と最も多く、ついで通所介護・通所リハビリテーション(41.9%)となっている。

福祉用具の利用は、手すり 9 人、特殊寝台 6 人となっている。

「一人暮らし高齢者」に、「訪問介護」を利用する人の割合が高くなっている。(88.1%)。



【図 3-2-1】現在のサービスの利用状況

週単位のヘルパーの利用回数では、「一人暮らし高齢者」の方がヘルパーを多く利用している割合が多い。

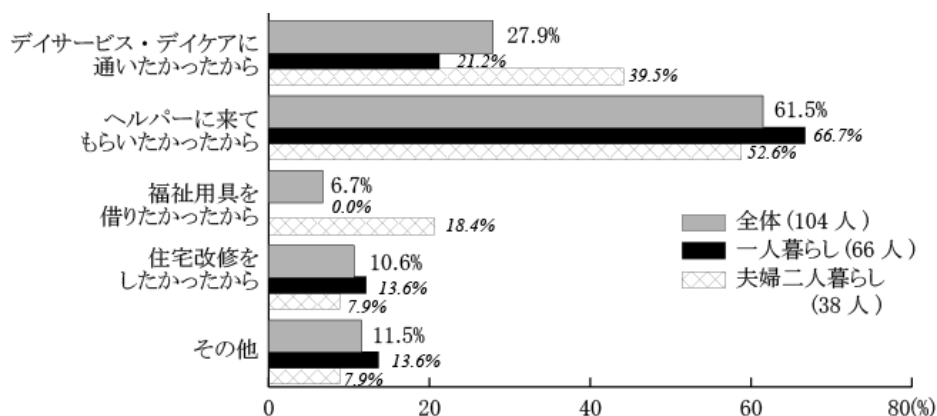
	週 1 回	週 2 回	週 3 回	合計
一人暮らし	33 55.9%	20 33.9%	6 10.2%	59 100%
夫婦二人暮らし	16 66.7%	8 33.3%	0 0%	24 100%
合 計	49 59.1%	28 33.7%	6 7.2%	83 100%

【表 3-2-1】ヘルパーの利用回数/週

(2)介護保険申請のきっかけ(Q6)

介護保険を申請したきっかけについてみると、「ヘルパーに来てもらいたかったから」が 61.5%と最も多い。

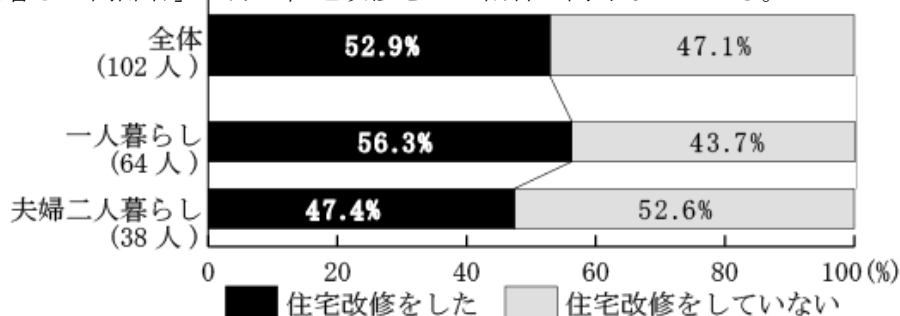
男女別にみると、「デイサービス・デイケアに通いたかったから」は「男性」16 人(43.2%)、「女性」13 人(19.4%)と男性に多く、「ヘルパーに来てもらいたかったから」は「男性」21 人(56.8%)、「女性」43 人(64.2%)と女性に多い。



【図 3-2-2】介護保険申請のきっかけ

(3)介護保険制度による住宅改修の有無(Q7)

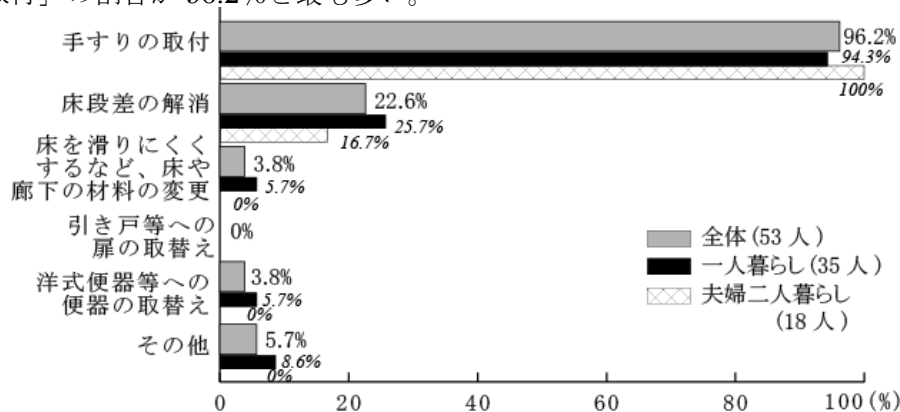
介護保険制度を利用した住宅改修の有無についてみると、全体の 52.9%が住宅改修をしている。
「一人暮らし高齢者」の方が住宅改修をした割合が高くなっている。



【図 3-2-3】 介護保険制度による住宅改修の有無

(4)介護保険制度利用による住宅改修の場所(Q8)

「介護保険制度を利用した住宅改修を行った」と回答したものに改修場所を尋ねたところ、「手すりの取付」の割合が 96.2%と最も多い。

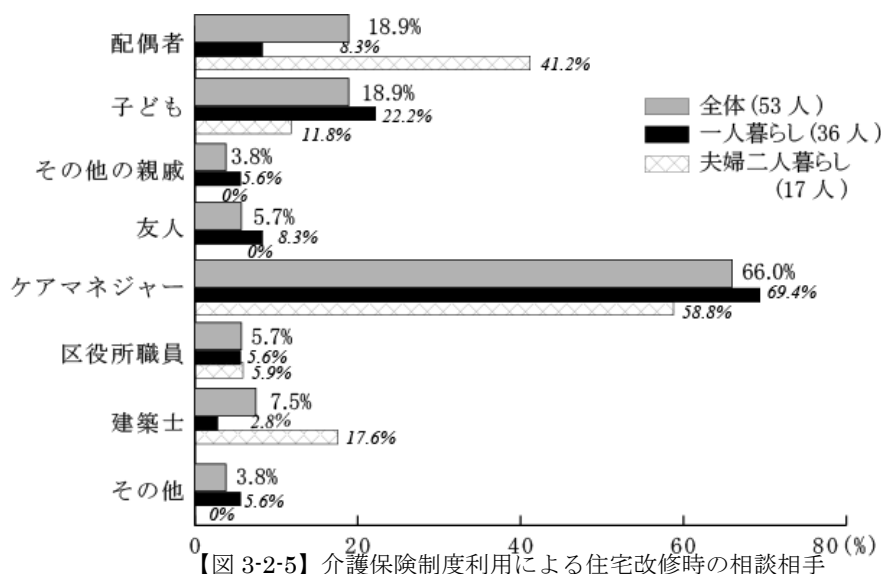


【図 3-2-4】 介護保険制度利用による住宅改修の場所

(5)介護保険制度利用による住宅改修時の相談相手(Q9)

「介護保険制度を利用した住宅改修を行った」と回答したものに改修時の相談相手を尋ねたところ、「ケアマネジャー」の割合が 66.0%と最も多い。

「子ども」に相談する人は、「一人暮らし高齢者(22.2%)」では、「夫婦二人暮らし高齢者(11.8%)」より多い割合となっている。



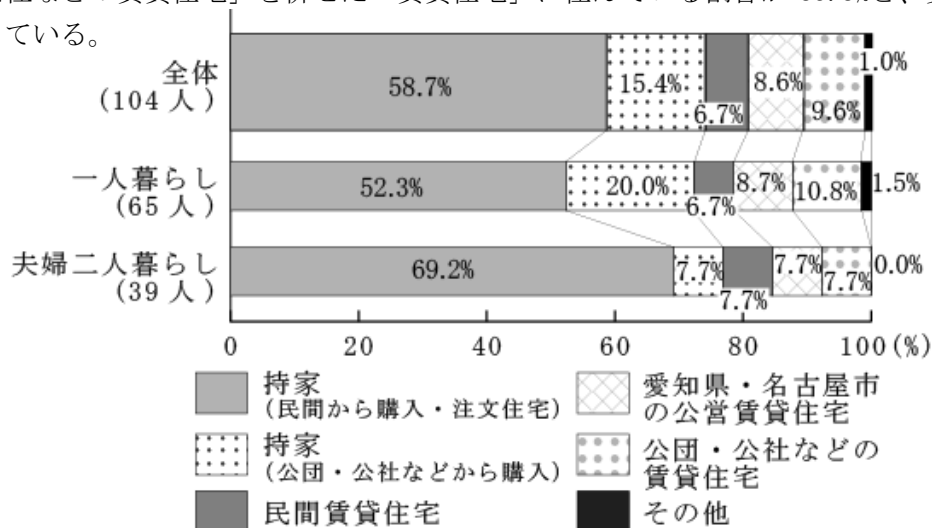
【図 3-2-5】 介護保険制度利用による住宅改修時の相談相手

3 住宅に関する事項

(1)住宅の所有状況(Q10)

住宅の所有状況についてみると、「持家(民間から購入・注文住宅)58.7%」と「持家(公団・公社などから購入)15.4%」を併せると74.1%と「持家」が多くなっている。

「男性」の「一人暮らし高齢者」は、「民間賃貸住宅」、「愛知県・名古屋市の公営賃貸住宅」「公団・公社などの賃貸住宅」を併せた「賃貸住宅」に住んでいる割合が35.3%と、女性に比べて高くなっている。



【図 3-3-1】住宅の所有状況

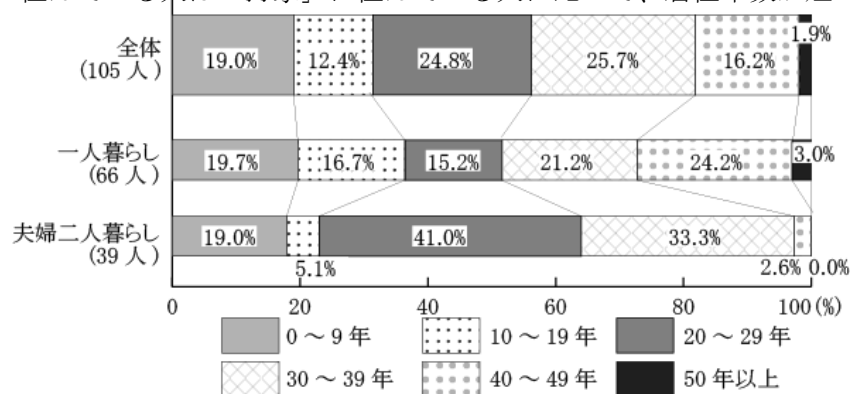
		持家	賃貸住宅	その他	合計
一人暮らし	男	10 58.8%	6 35.3%	1 5.9%	17 100%
	女	37 77.1%	11 22.9%	0 0%	48 100%
	合計	47 72.3%	17 26.2%	1 1.5%	65 100%
夫婦二人暮らし	男	14 66.7%	7 33.3%	0 0%	21 100%
	女	16 88.9%	2 11.1%	0 0%	18 100%
	合計	30 76.9%	9 23.1%	0 0%	39 100%

【表 3-3-1】住宅の所有状況

(2)住宅の居住年数(Q11)

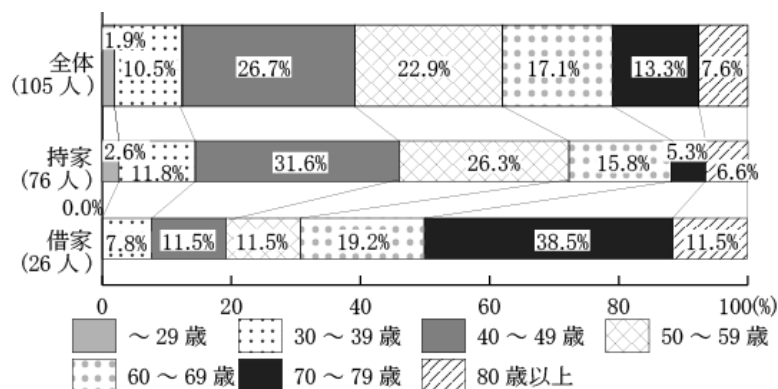
住宅の居住年数についてみると、平均 25.2 年であった。また、30 年以上住んでいる人が、全体の 43.8%となっている。

「借家」に住んでいる人は「持家」に住んでいる人に比べて、居住年数が短い傾向にある。



【図 3-3-2】住宅の居住年数

また、現在の「年齢」から「居住年数」を差し引いて、「住宅に移り住んだ年齢」についてみると、「持家」は 60 歳までに移り住む人が 72.3%という割合であるのに対して、「借家」は「60 歳以上」で移り住む人が 69.2%、「70 歳以上」でも 50.0%と、高齢になってからの転居が多くなっている。

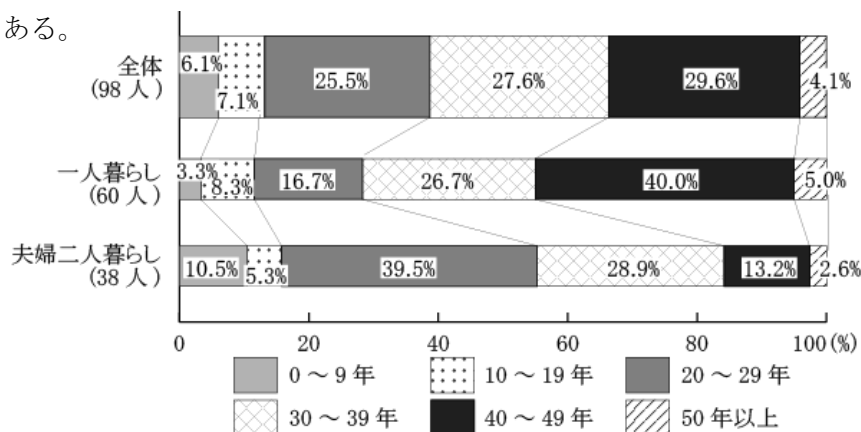


【図 3-3-3】現在の住宅に転居した時の年齢

(3)住宅の築年数(Q12)

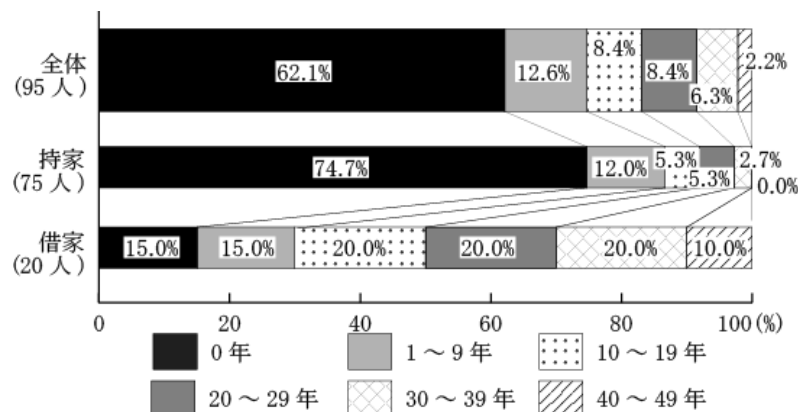
住宅の築年数についてみると、平均は 31.9 年となっている。

「一人暮らし高齢者」の方が、「夫婦二人暮らし高齢者」よりも築年数が長いところに住んでいる傾向がある。



【図 3-3-4】住宅の築年数(居住人数別)

「住宅の築年数」から「住宅の居住年数」を引いて、現在の住宅に入居した時の住宅の築年数についてみると、「借家」に住んでいる人は「持家」に住んでいる人に比べて、築年数が長い傾向にある。

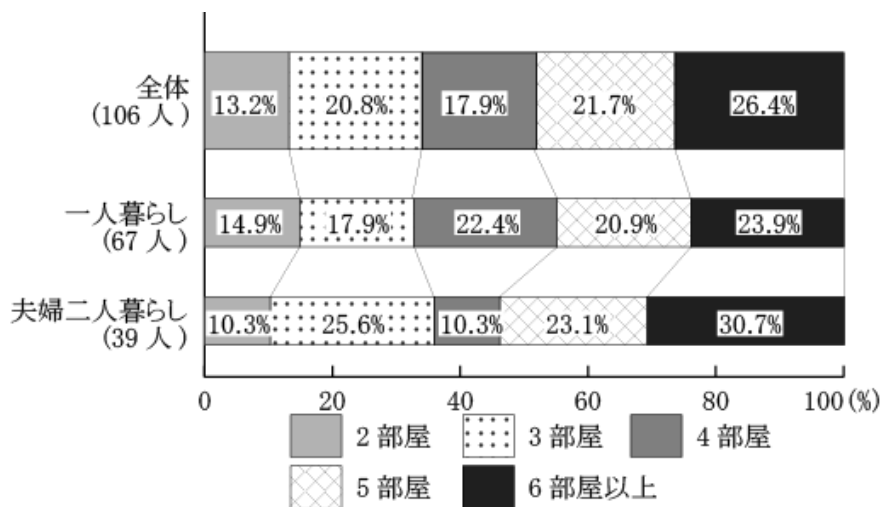


【図 3-3-5】入居時の住宅の築年数(所有形態別)

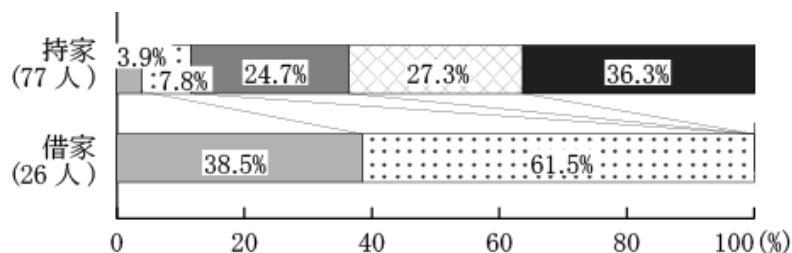
(4)居室の数(Q13)

居室の数についてみると、「6 部屋以上」が 26.4%で最も多い。「5 部屋以上」で 48.1%と約半数となる。平均は 4.4 部屋となっている。

「借家」に住んでいる人は「2 部屋」が 38.5%、「3 部屋」が 61.5%と「持家」に住んでいる人に比べて部屋数が少ない。



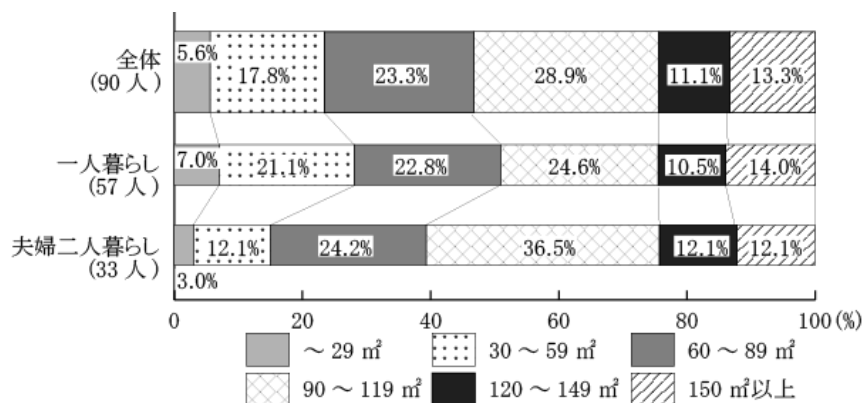
【図 3-3-6】 居室の数(居住人数別)



【図 3-3-7】 居室の数(所有形態別)

(5)住宅の広さ(Q14)

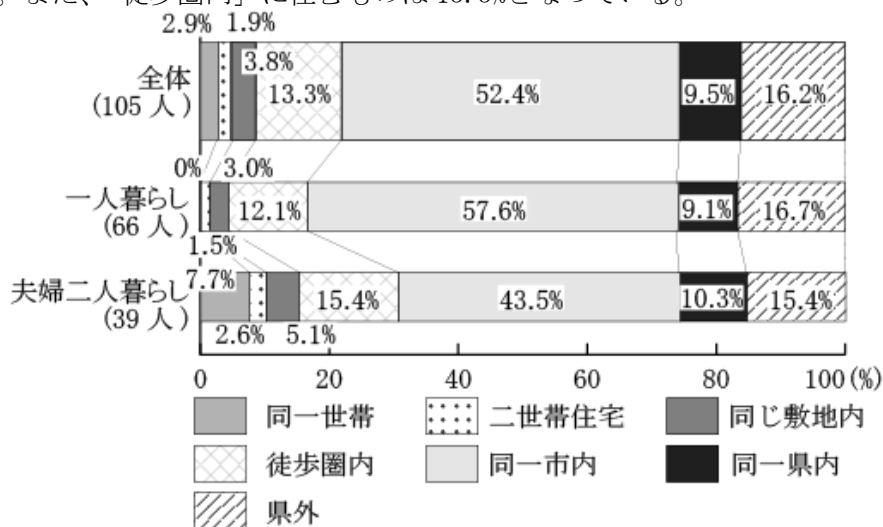
住宅の広さについてみると、平均が 96.8 m²となっている。「90～119 m²」が 28.9%で最も高く、「60～89 m²」が 23.3%となっている。



【図 3-3-8】 住宅の広さ

(6)親族との距離(Q16)

一番近くに住む親族世帯との距離についてみると、「同一市内」に住むが最も多く、52.4%となっている。また、「徒歩圏内」に住むものは13.3%となっている。

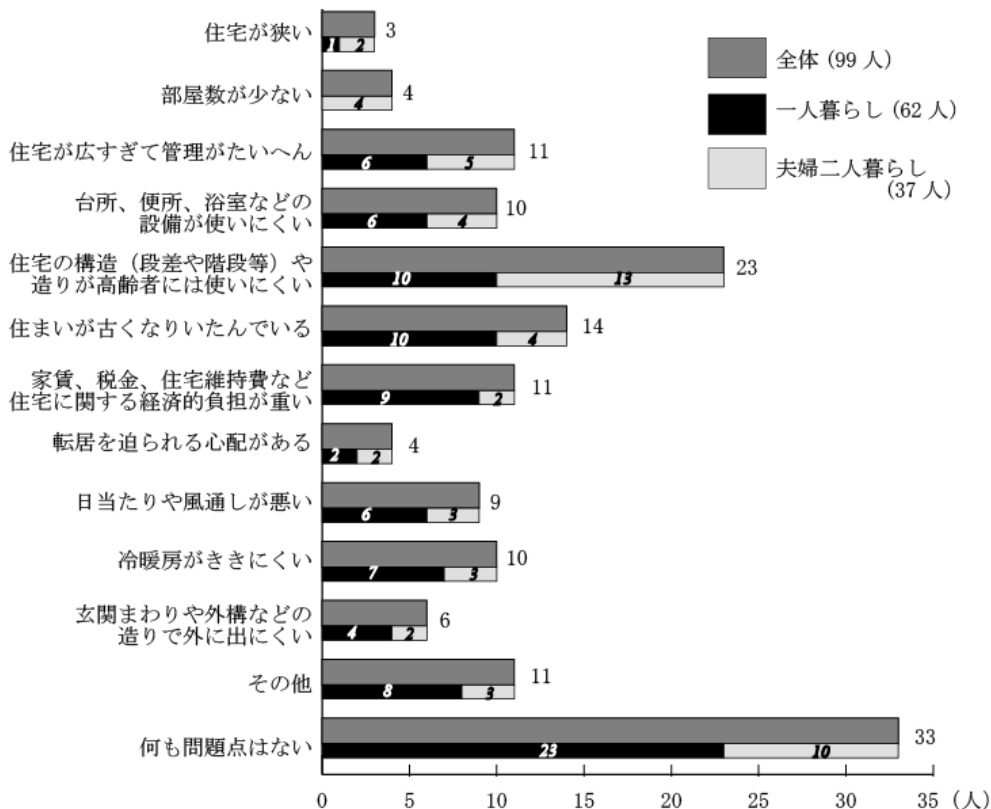


【図 3-3-9】 親族との距離

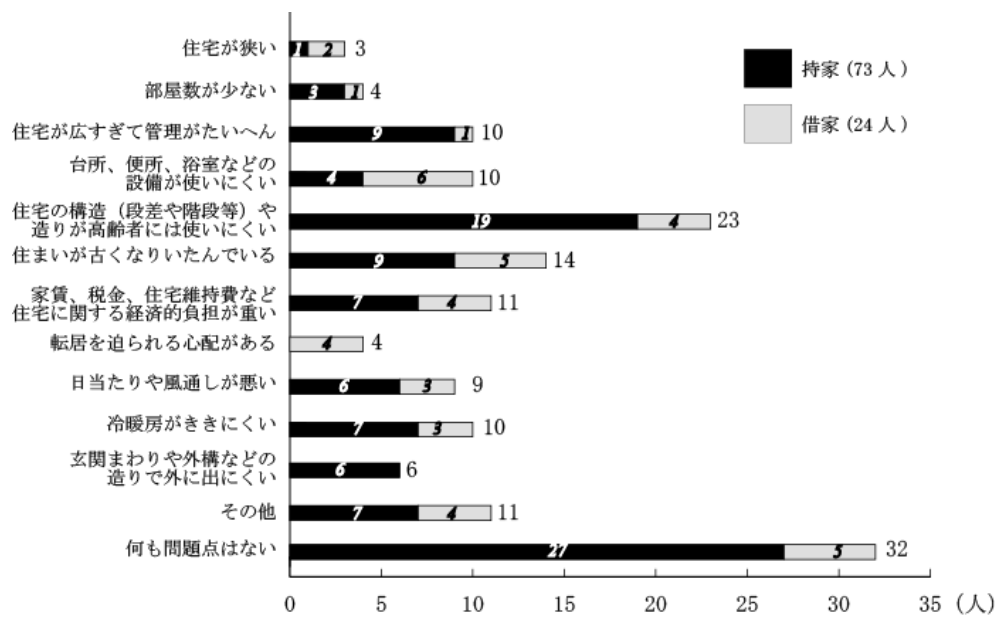
(7)現在の住宅で困っていること(Q17)

現在の住宅で困っていることについてみると、「何も問題はない」が 33 人と最も多く、「住宅の構造（段差や階段など）や造りが高齢者には使いにくい」が 23 人、「住まいが古くなりいたんでいる」が 14 人と続く。

「持家」では「住宅の構造(段差や階段など)や造りが高齢者には使いにくい」が 19 人、「住宅が広すぎてたいへん」「住宅が古くなりいたんでいる」が 9 人と、「借家」に比べ多くなっている。



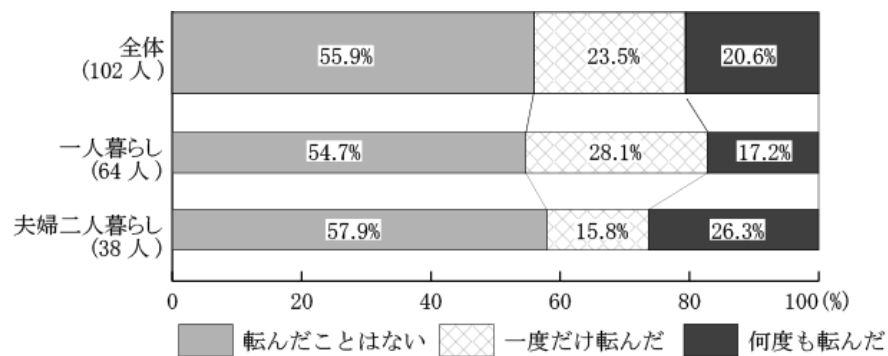
【図 3-3-10】 現在の住宅で困っていること(居住人数別)



【図 3-3-11】現在の住宅で困っていること（所有形態別）

(8)1 年間の転倒(Q18)

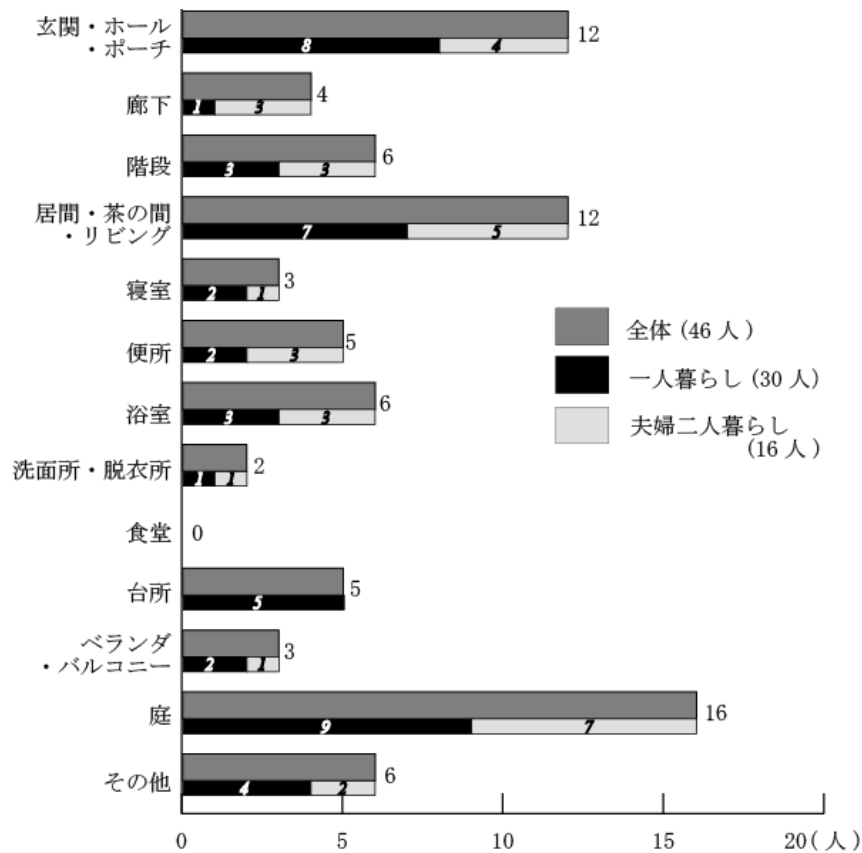
1 年間の住宅での転倒についてみると、「一度も転んだことはない」が 55.9%と最も多いが、「一度だけ転んだ」と「何度も転んだ」をあわせ「一度以上転んだ」は 44.1%となっている。



【図 3-3-12】1 年間の転倒

(9) 転んだ場所(Q19)

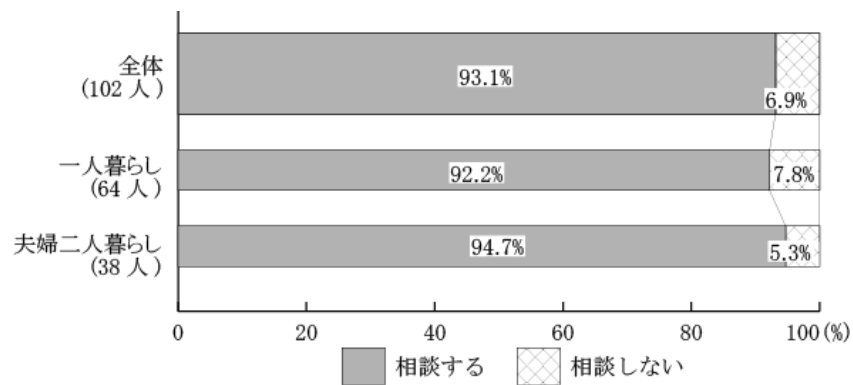
この1年間に住宅で転倒した人のうち、転んだ場所についてみると、「庭」で転んだ人が16人と最も多く、次いで「玄関・ホール・ポーチ」12人、「居間・茶の間・リビング」12人となっている。



【図 3-3-13】 転んだ場所

(10) 虚弱化した場合の住まい方の相談(Q20)

虚弱化した場合の今後の住まい方について相談するかについてみると、「相談する」は 93.1% になっている。

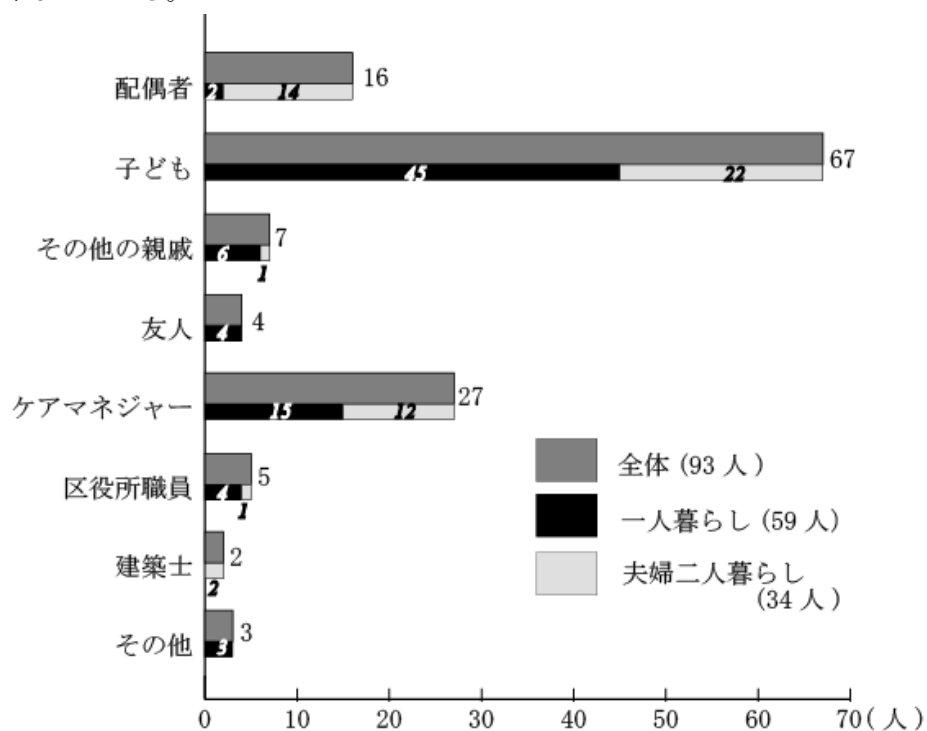


【図 3-3-14】 虚弱化した場合の住まい方の相談

(11)虚弱化した場合の住まい方の相談相手(Q21)

虚弱化した場合の今後の住まい方についての相談相手についてみると、「子ども」が67人と最も多く、続いて「ケアマネジャー」が27人となっている。

「一人暮らし高齢者」(45/59人)の方が「夫婦二人暮らし」(22/34人)より、子どもに相談する人が多くなっている。

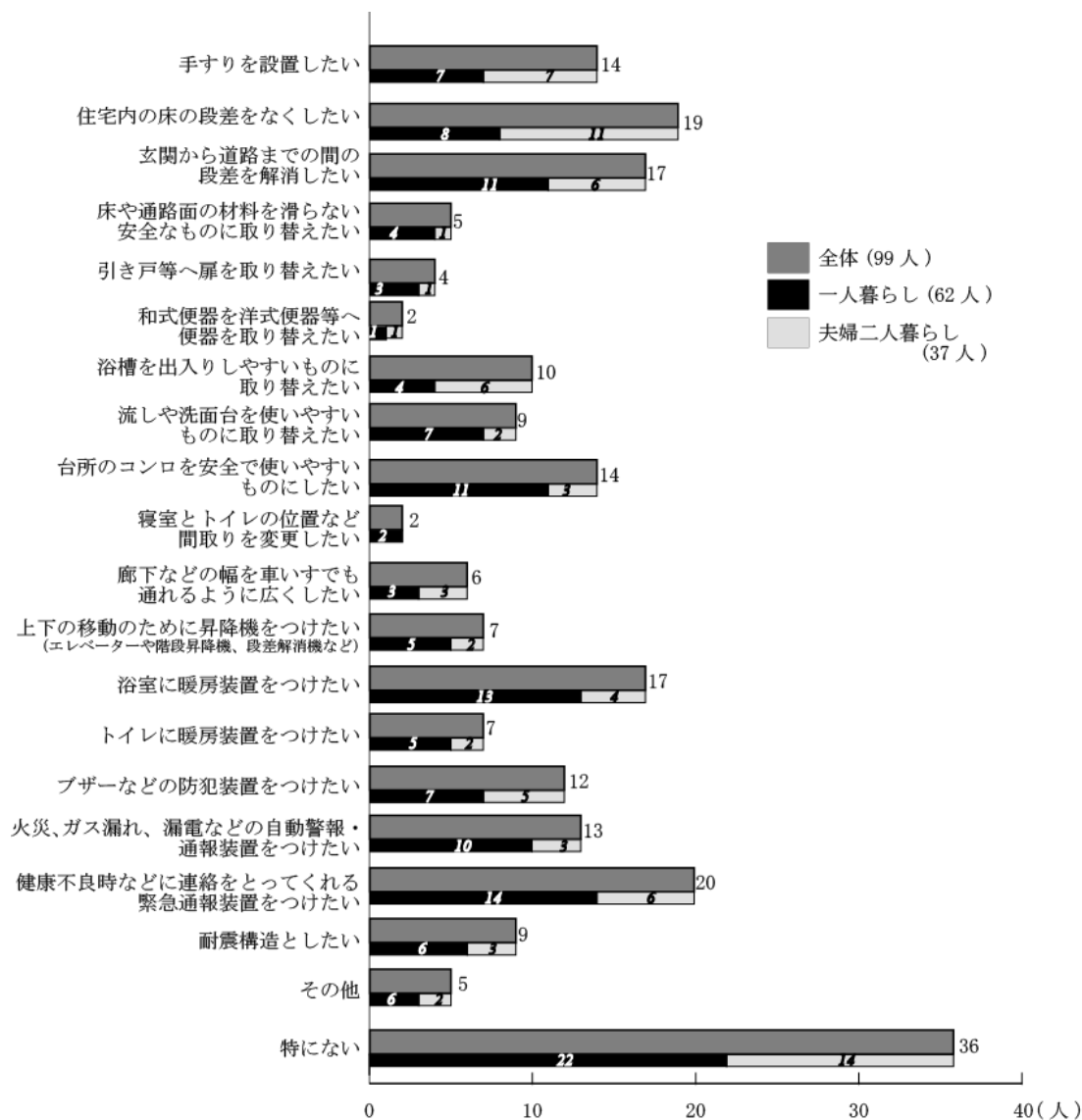


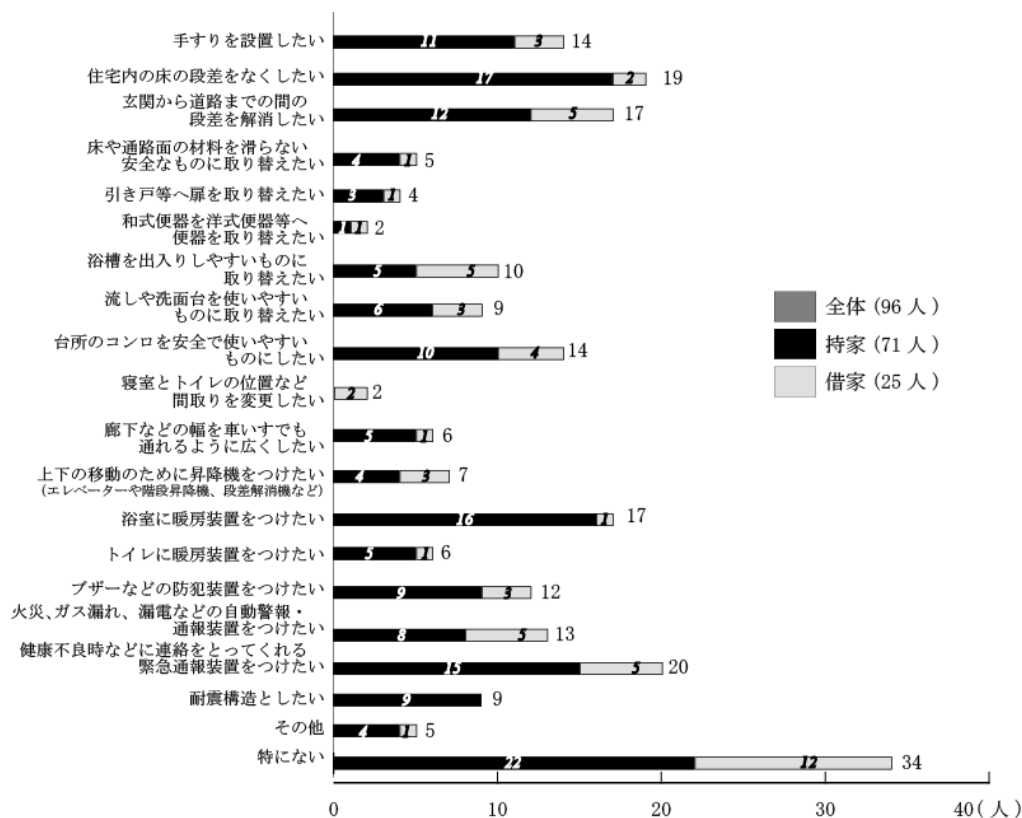
【図 3-3-15】虚弱化した場合の住まい方の相談相手

(12)希望する住宅改修(Q22)

現在の住宅において高齢者が安全で便利に過ごすためにどんな改造をしたいかについてみると、「特にない」が36人と最も多く、続いて「健康不良時などに連絡をとってくれる緊急通報装置をつけたい」が20人、「住宅内の床の段差をなくしたい」が19人となっている。

「住宅内の床の段差をなくしたい」は「持家」(17人)の方が「借家」(2人)より多く、「浴室に暖房装置をつけたい」も「持家」(16人)の方が「借家」(1人)より多くなっている。



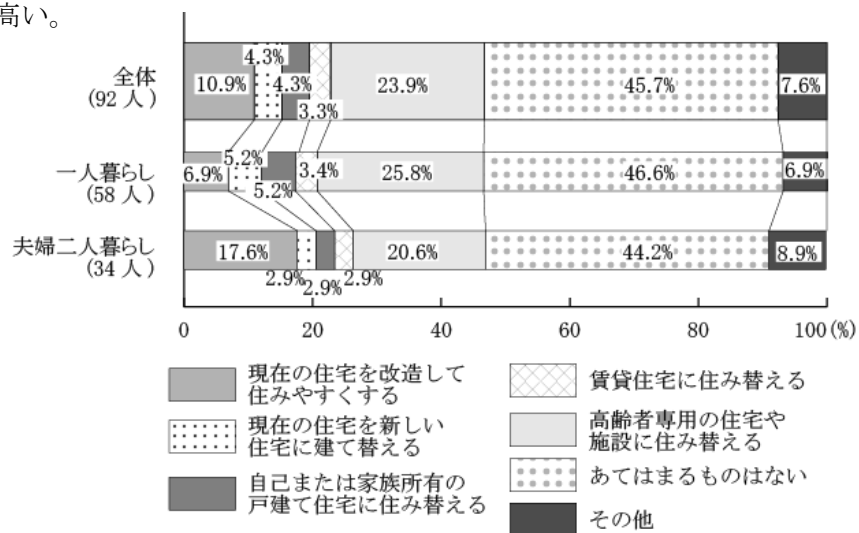


【図 3-3-17】 希望する住宅改修(所有形態別)

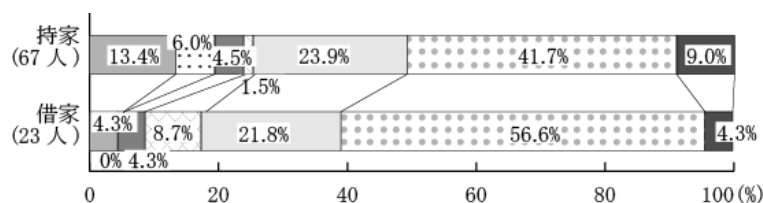
(13)住宅の改善・住み替え希望(Q23)

資金面等の問題を別にした今後の住宅の改善・住み替え希望についてみると、「あてはまるものはない」が 45.7%と最も多く、「高齢者専用の住宅や施設に住み替える」が 23.9%と続く。

「現在の住宅を改造して住みやすくする」は、「夫婦二人暮らし高齢者」(17.6%)や「持家」(13.4%)で高い。



【図 3-3-18】 住宅の改善・住み替え希望(居住人数別)



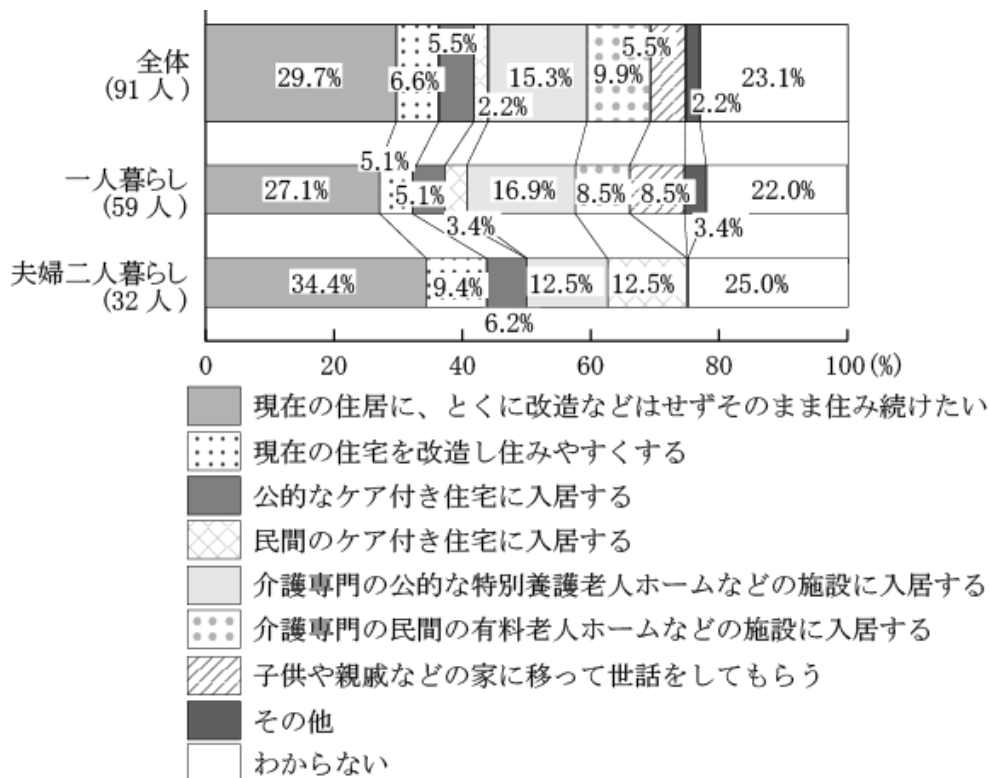
【図 3-3-19】 住宅の改善・住み替え希望(所有形態別)

(14)虚弱化した時の住まいの希望(Q24)

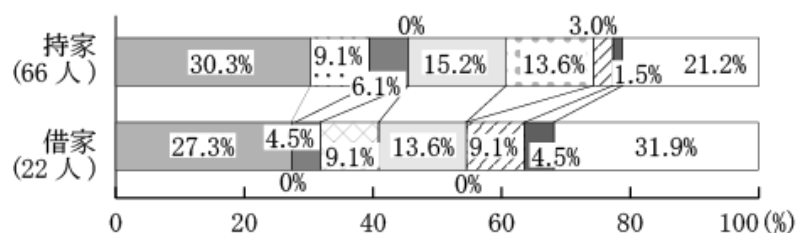
身体が虚弱化した時の住まい希望についてみると、「現在の住宅に、とくに改造などはせずそのまま住み続けたい」が29.7%と最も多く、「わからない」(23.1%)と続く。

「現在の住宅に、とくに改造などはせずそのまま住み続けたい」は、「夫婦二人暮らし高齢者(34.4%)」の方が「一人暮らし高齢者(27.1%)」よりも割合が高くなっている。

また、「持家(30.3%)」の方が「借家(27.3%)」よりも「現在の住宅に、とくに改造などはせずそのまま住み続けたい」割合が高い。



【図 3-3-20】虚弱化した時の住まいの希望(居住人数別)

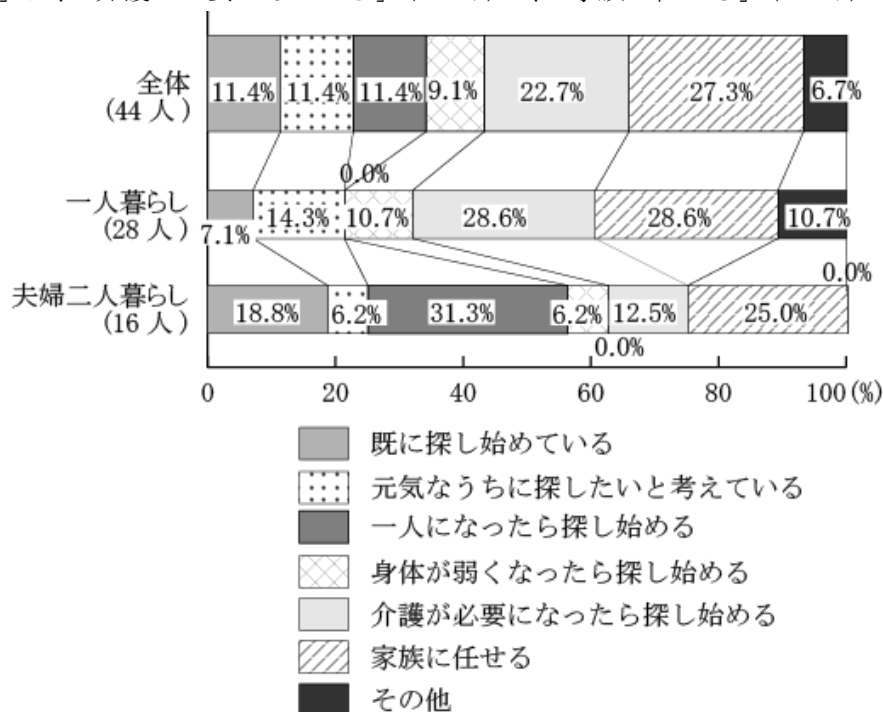


【図 3-3-21】虚弱化した時の住まいの希望(所有形態別)

(15)住まいの検索時期(Q25)

「身体が虚弱化したときの住まいの希望」について回答したもののうち、「いつ探すか」についてみると、「家族に任せる」とするものが 27.3%と最も多く、「介護が必要になったら探し始める」(22.7%)と続く。

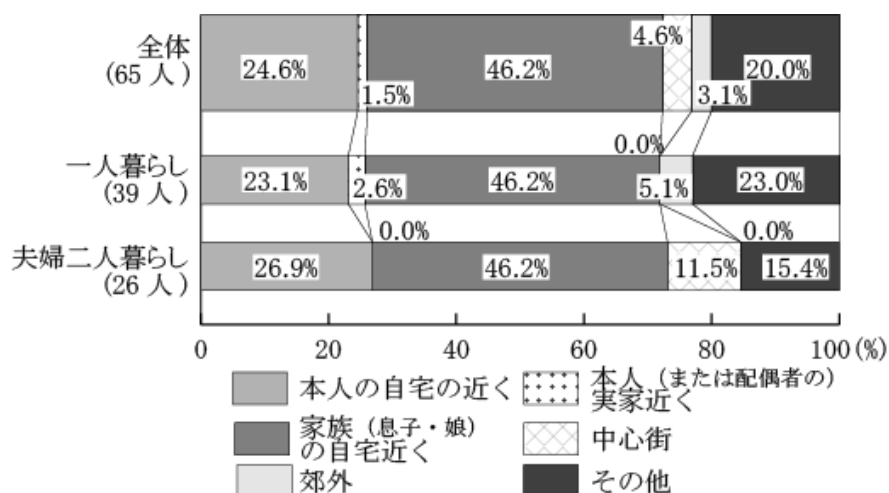
「夫婦二人暮らし高齢者」は、「一人になったら探し始める」が 31.3%と最も多く、「一人暮らし高齢者」は、「介護が必要になったら」(28.6%)が、「家族に任せる」(28.6%)とともに多くなっている。



【図 3-3-22】住まいの検索時期

(16) 住まいの検索場所(Q26)

どのあたりに探すかについてみると、「家族(息子・娘)の自宅近く」とするものが 46.2%と最も多く、「本人の自宅近く」(24.6%)と続く。



【図 3-3-23】住まいの検索場所

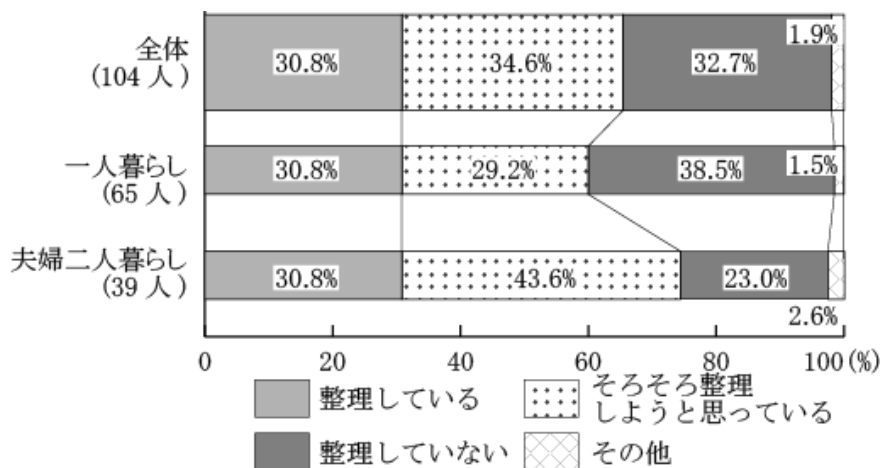
4 生活環境に関する事項

(1)衣類等の整理(Q27)

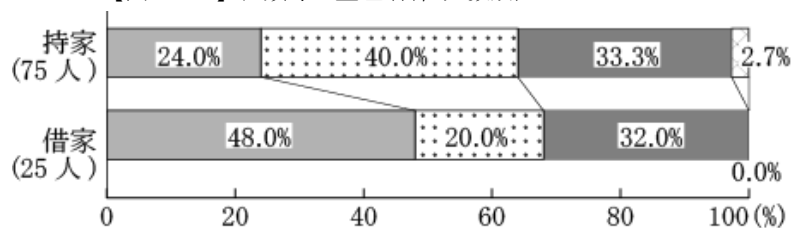
衣類等の整理についてみると、「そろそろ整理しようと思っている」が34.6%と最も多く、「整理していない」(32.7%)と続く。

「夫婦二人暮らし高齢者」(43.6%)の方が、「一人暮らし高齢者」(29.2%)より、「そろそろ整理しようと思っている」の割合が高い。

「借家」(48.0%)の方が、「持家」(24.0%)よりも「整理している」割合が高い。



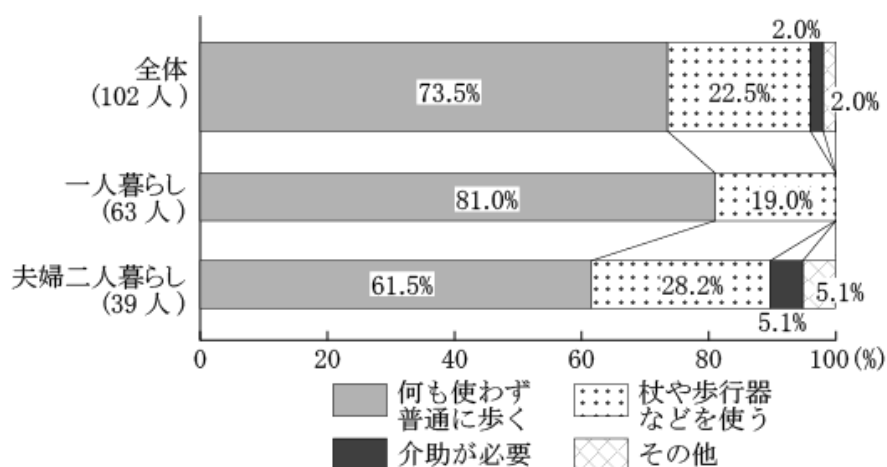
【図 3-4-1】衣類等の整理(居住人数別)



【図 3-4-2】衣類等の整理(所有形態別)

(2)屋内での歩行方法(Q28)

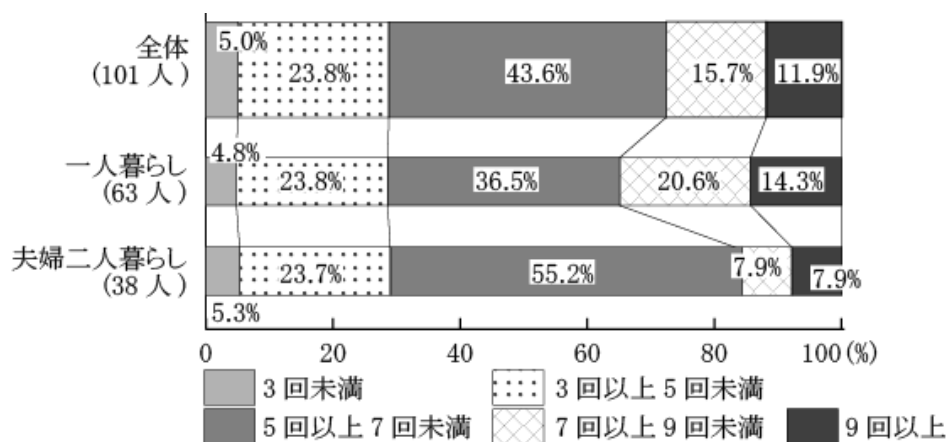
屋内の歩行方法についてみると、「何も使わず普通に歩く」が73.5%と最も多く、「杖や歩行器などを使う」(22.5%)と続く。「その他」は「手すりをつたいながら歩く」であった。



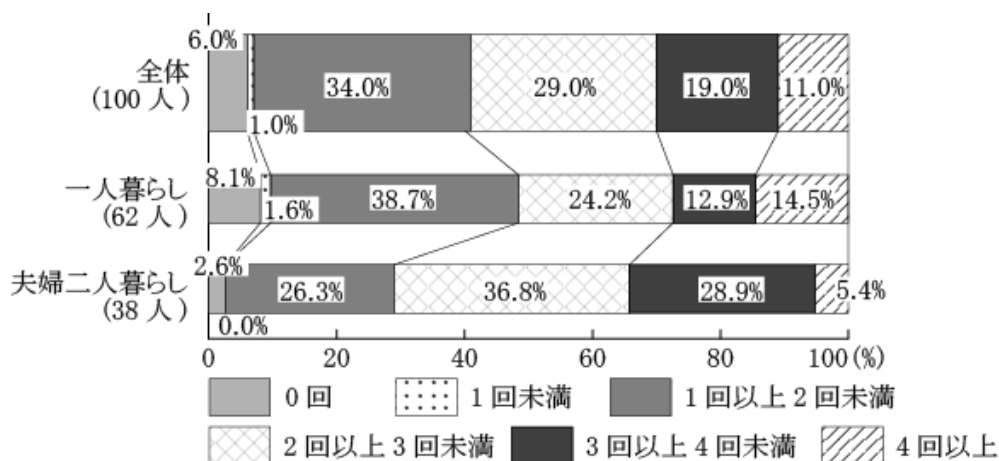
【図 3-4-3】屋内での歩行方法

(3)トイレの利用回数(Q29)

トイレの利用回数についてみると、「日中」は平均 5.7 回、「夜間」は平均 2.0 回利用している。
「日中」は「5 回以上 7 回未満」が 43.6%と一番高く、「3 回以上 5 回未満」が 23.8%と続く。
「夜間」は「1 回以上 2 回未満」が 34.0%と一番高く、「2 回以上 3 回未満」が 29.0%と続く。



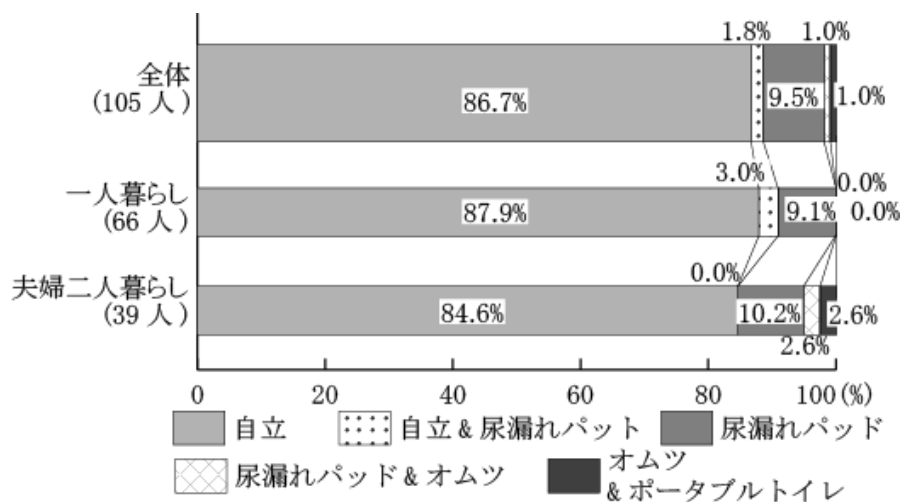
【図 3-4-4】トイレの利用回数(日中)



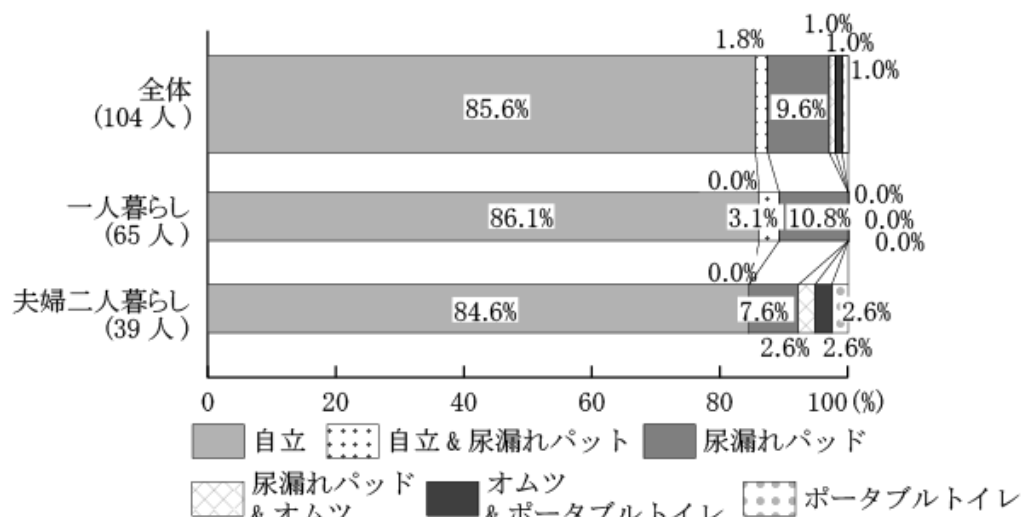
【図 3-4-5】トイレの利用回数(夜間)

(4)トイレの方法(Q30)

トイレの方法についてみると、「日中」「夜間」とも「自立」の割合が最も高くなっている。



【図 3-4-6】トイレの方法(日中)

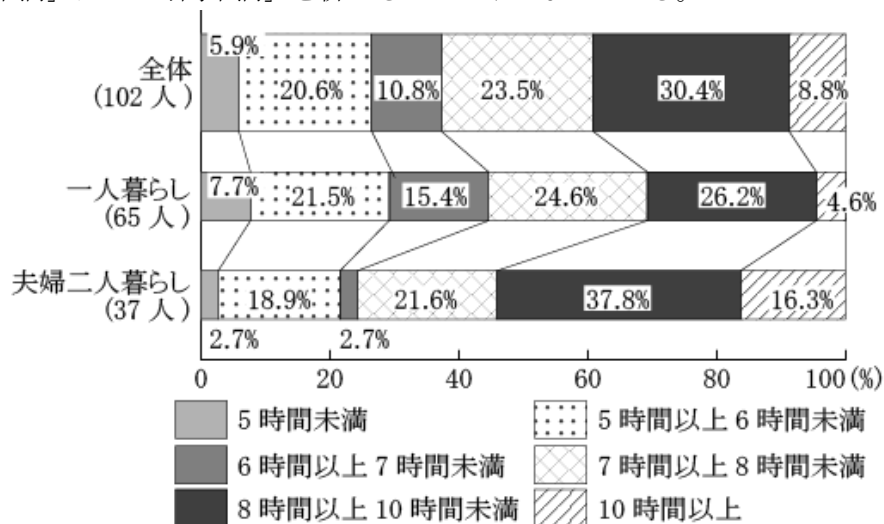


【図 3-4-7】 トイレの方法(夜間)

(5)睡眠時間(Q31)

睡眠時間についてみると、平均 7.1 時間となっている。

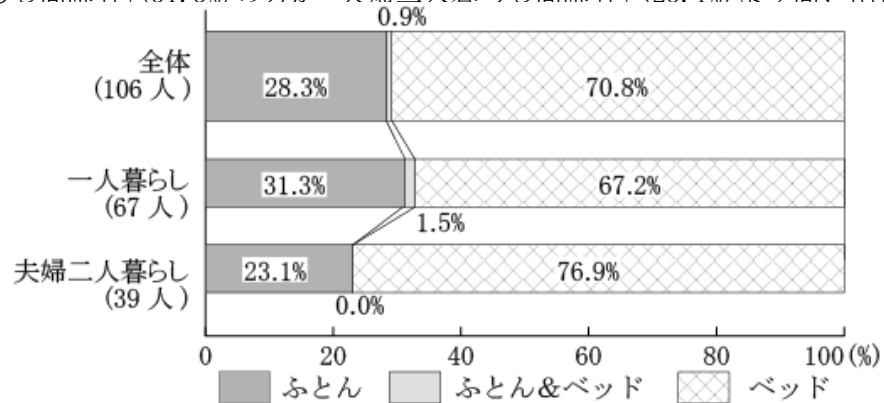
「8 時間以上 10 時間未満」の割合が 30.4%と最も高く、「7 時間以上 8 時間未満」23.5%と続く。「6 時間未満」は「5 時間未満」を併せると 26.5%となっている。



【図 3-4-8】 睡眠時間

(6)寝具(Q32)

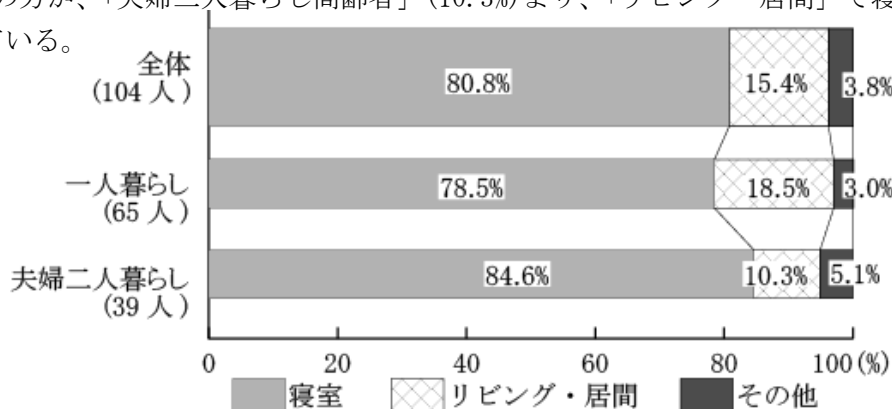
寝具についてみると、「ベッド」で寝ている人が 70.8%となっている。ふとんで寝ている人は、「一人暮らし高齢者」(31.3%)の方が「夫婦二人暮らし高齢者」(23.1%)より高い割合となっている。



【図 3-4-9】 寝具

(7)寝る場所(Q33)

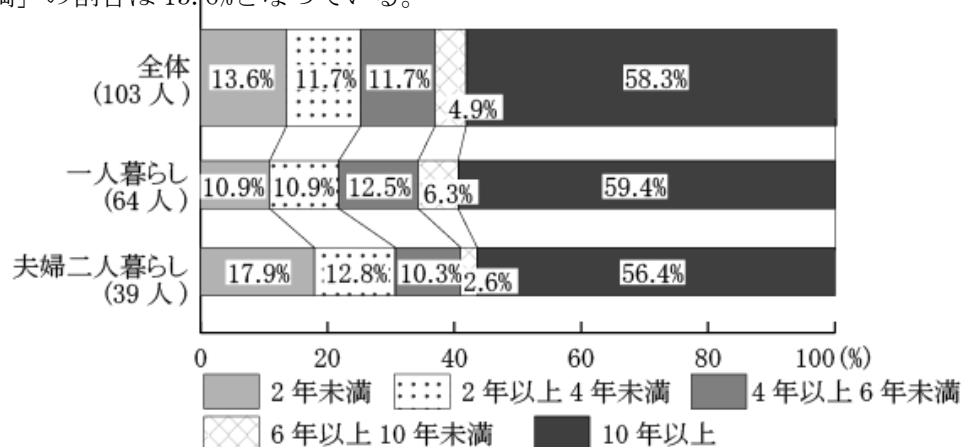
寝る場所についてみると、「寝室」が80.8%と最も高い割合となっている。「一人暮らし高齢者」(18.5%)の方が、「夫婦二人暮らし高齢者」(10.3%)より、「リビング・居間」で寝る人が高い割合となっている。



【図 3-4-10】寝る場所

(8)現在の寝室になった時期(Q34)

現在の寝室になった時期についてみると、「10年以上」が58.3%と最も高い割合となっている。「2年未満」の割合は13.6%となっている。

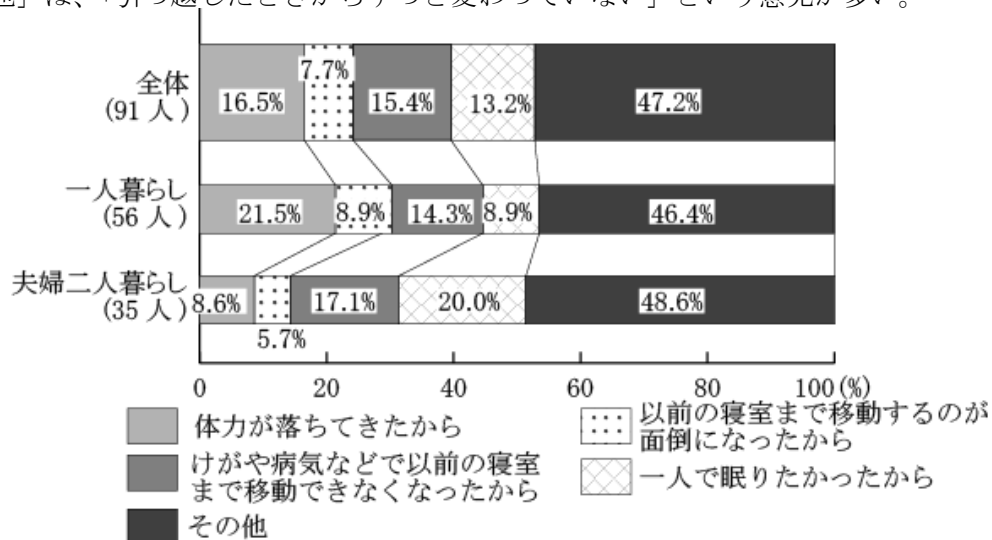


【図 3-4-11】現在の寝室になった時期

(9)現在の寝室になった理由(Q35)

現在の寝室になった理由についてみると、「体力が落ちてきたから」が16.5%と最も高い割合となっている。「けがや病気などで以前の寝室まで移動できなくなったから」が15.4%と続く。

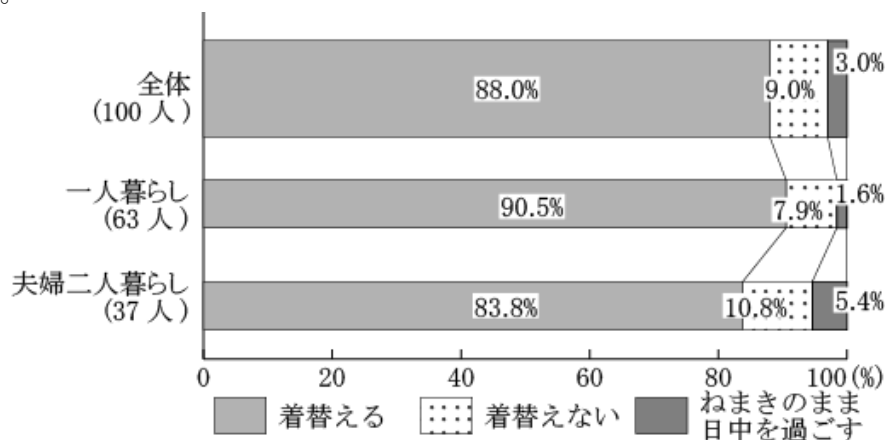
「その他」は、「引っ越したときからずっと変わっていない」という意見が多い。



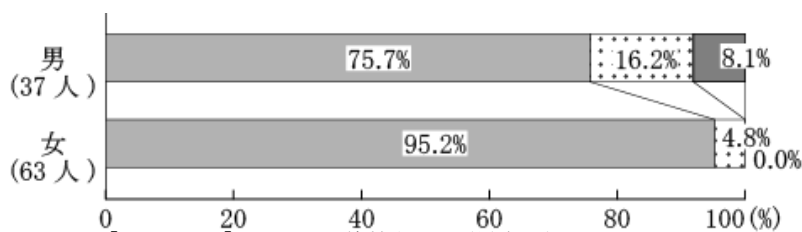
【図 3-4-12】現在の寝室になった理由

(10)ねまきに着替えるか(Q36)

ねまきに着替えるかどうかについてみると、「着替える」が88.0%と最も高い割合となっている。「男性」の方が「着替えない」(16.2%)や「ねまきのまま日中を過ごす」(8.1%)の割合が高くなっている。

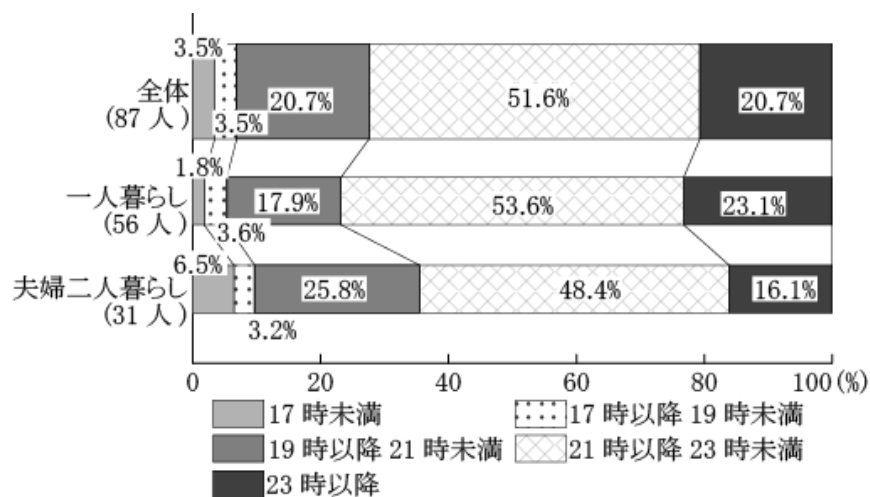


【図 3-4-13】ねまきに着替えるか



【図 3-4-14】ねまきに着替えるか(男女別)

ねまきに着替える時間についてみると、「21時以降 23時未満」が51.6%と最も高い割合となっている。「19時以降 21時未満」(20.7%)、「23時以降」(20.7%)と続いている。

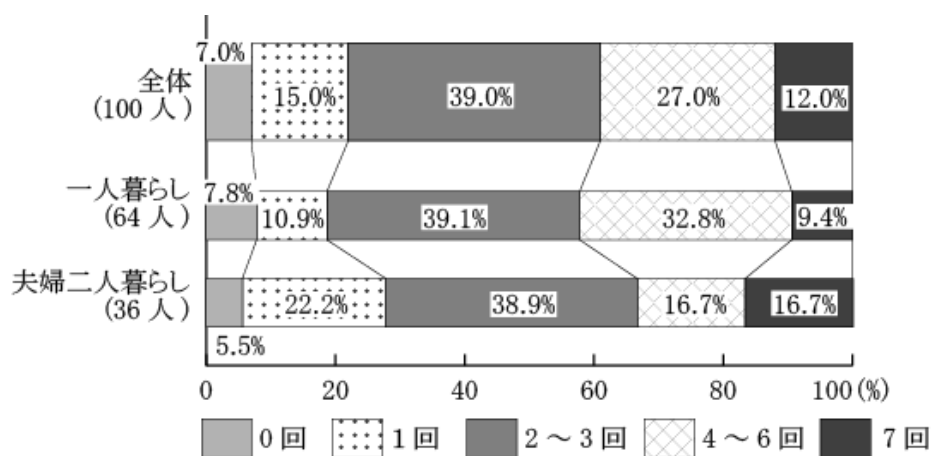


【図 3-4-15】ねまきに着替える時間

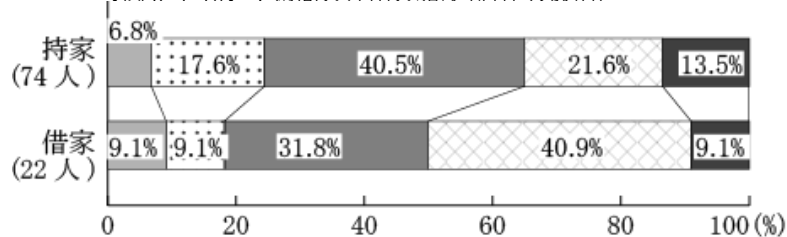
(11)1週間の外出の頻度(Q37)

1週間の外出の頻度についてみると、平均3.3回の外出があり、「2～3回」が39.0%と最も多い割合で、「4～6回」が27.0%と続く。「0回」も7.0%ある。

「3回以下」は「持家」(64.9%)の方が「借家」(50.0%)よりも高い割合となっている。



【図 3-4-16】 1週間の外出の頻度(居住人数別)

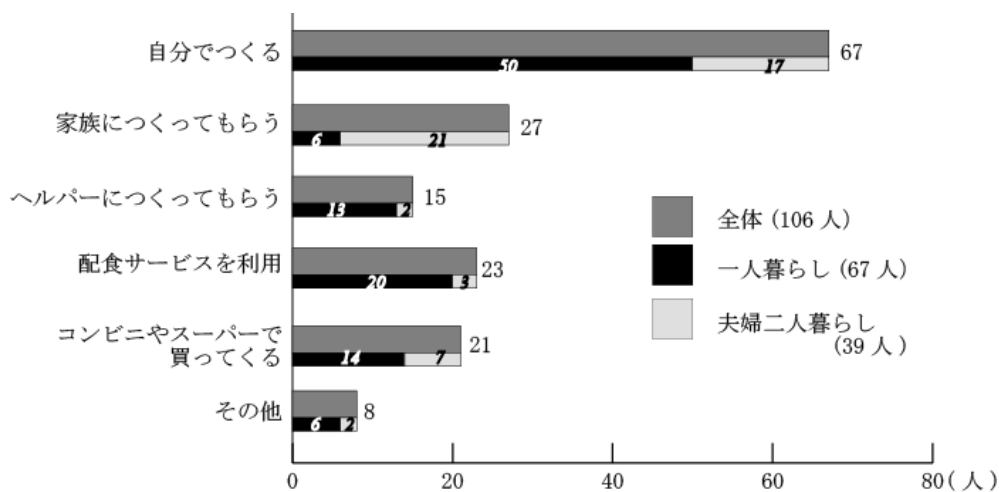


【図 3-4-17】 1週間の外出の頻度(所有形態別)

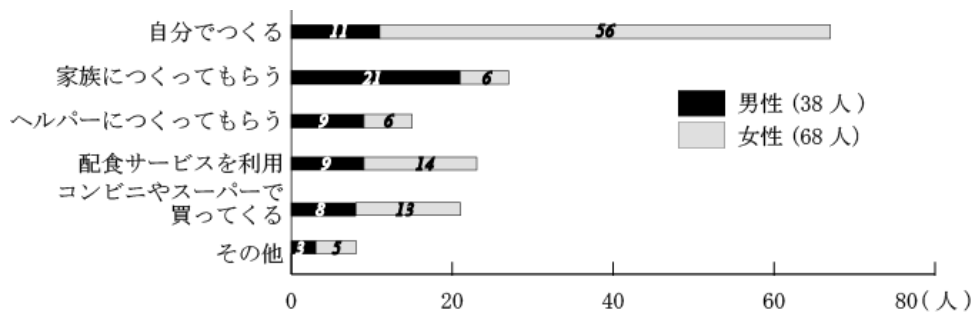
(12)食事の調達方法(Q38)

食事の調達方法についてみると、「自分でつくる」が67人と最も多い割合で、「家族につくってもらう」が27人と続く。

「自分でつくる」は「女性」(56/68人)に多く、「男性」は「家族につくってもらう」(21/38人)「ヘルパーにつくってもらう」(9/38人)「配食サービスを利用する」(9/38人)の割合が高い。



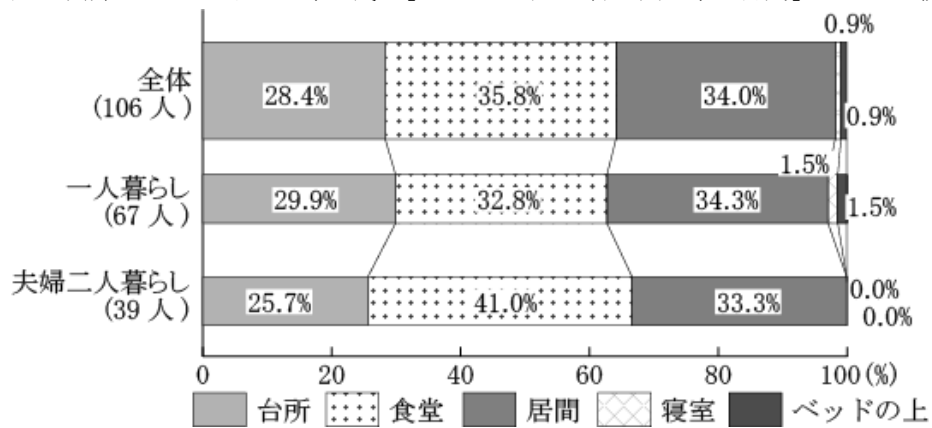
【図 3-4-18】 食事の調達方法(居住人数別)



【図 3-4-19】 食事の調達方法(男女別)

(13)食事を取る場所(Q39)

食事を取る場所についてみると、「食堂」が 35.8%と最も高く、「居間」34.0%と続く。

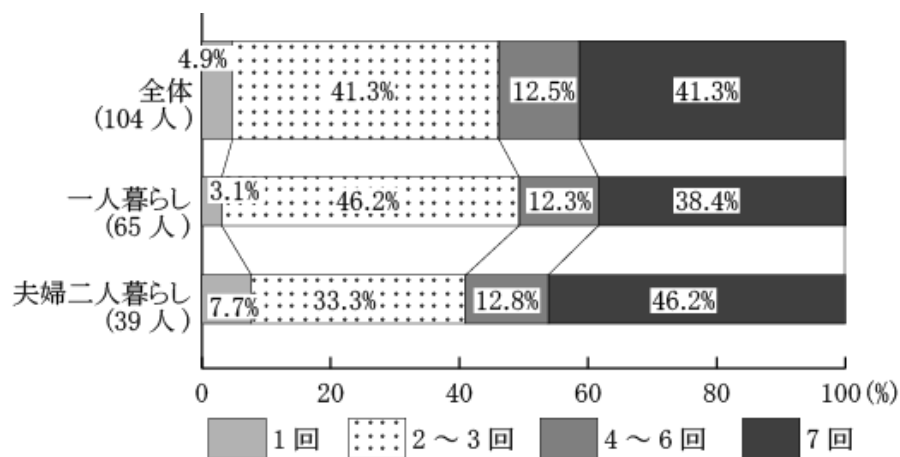


【図 3-4-20】 食事を取る場所

(14)1 週間の入浴回数(Q40)

1 週間の入浴回数についてみると、平均 4.6 回入浴している。「2～3 回」と「7 回 (毎日)」入浴者が 41.3%と最も多い割合となった。

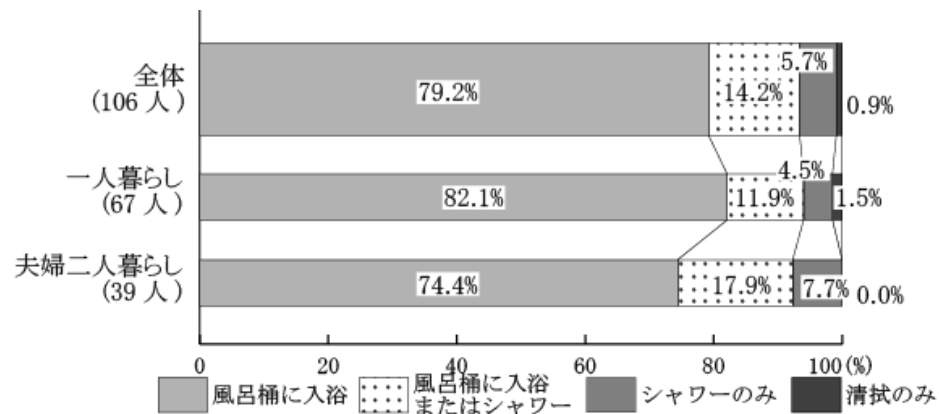
「一人暮らし高齢者」は「夫婦二人暮らし高齢者」に比べて全体的に入浴回数が少ない。



【図 3-4-21】 1 週間の入浴回数

(15)入浴方法(Q41)

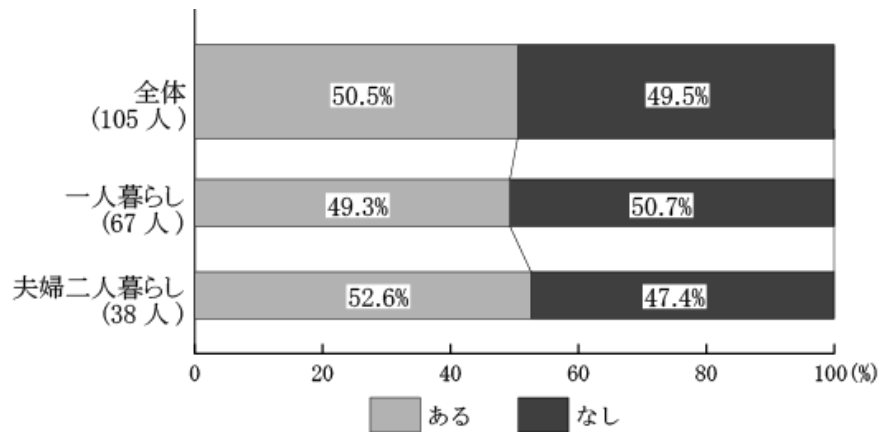
入浴方法についてみると、「風呂桶に入浴」が 79.2%と最も多い割合で、「風呂桶に入浴又はシャワー」が 14.2%と続く。



【図 3-4-22】入浴方法

(16)入浴の不安(Q42)

入浴の不安の有無についてみると、「不安がある」が 50.5%となっている。

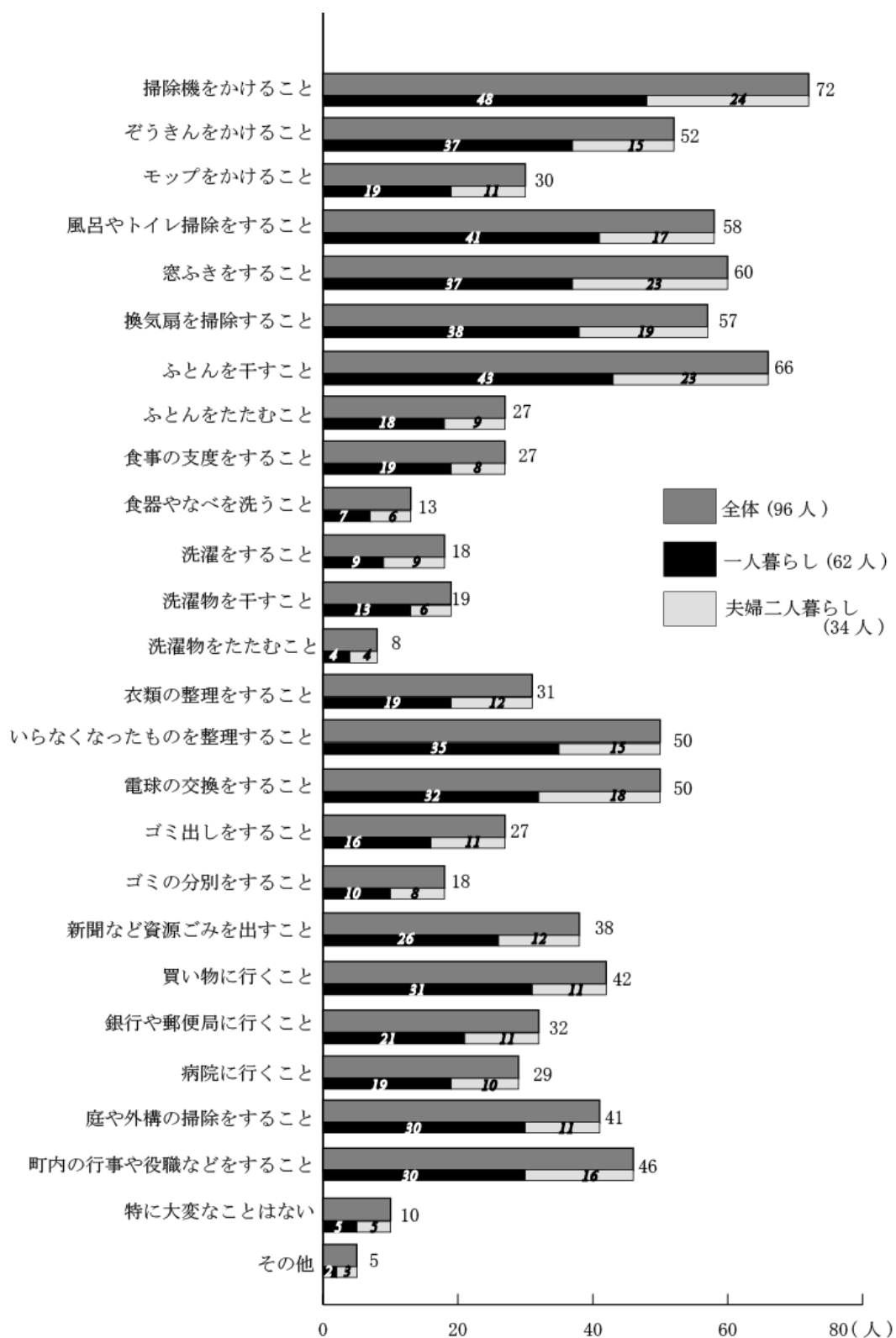


【図 3-4-23】入浴の不安

(17)家事で大変なこと(Q43)

家事で大変なことについてみると、「掃除機をかけること」が 72 人と最も高くなり、「ふとんを干すこと」66 人、「窓ふきをする事」60 人と続く。

「窓ふきをする事」は「夫婦二人暮らし高齢者」(23/34 人)の方が、「一人暮らし高齢者」(37 人/62 人)より割合が高い。

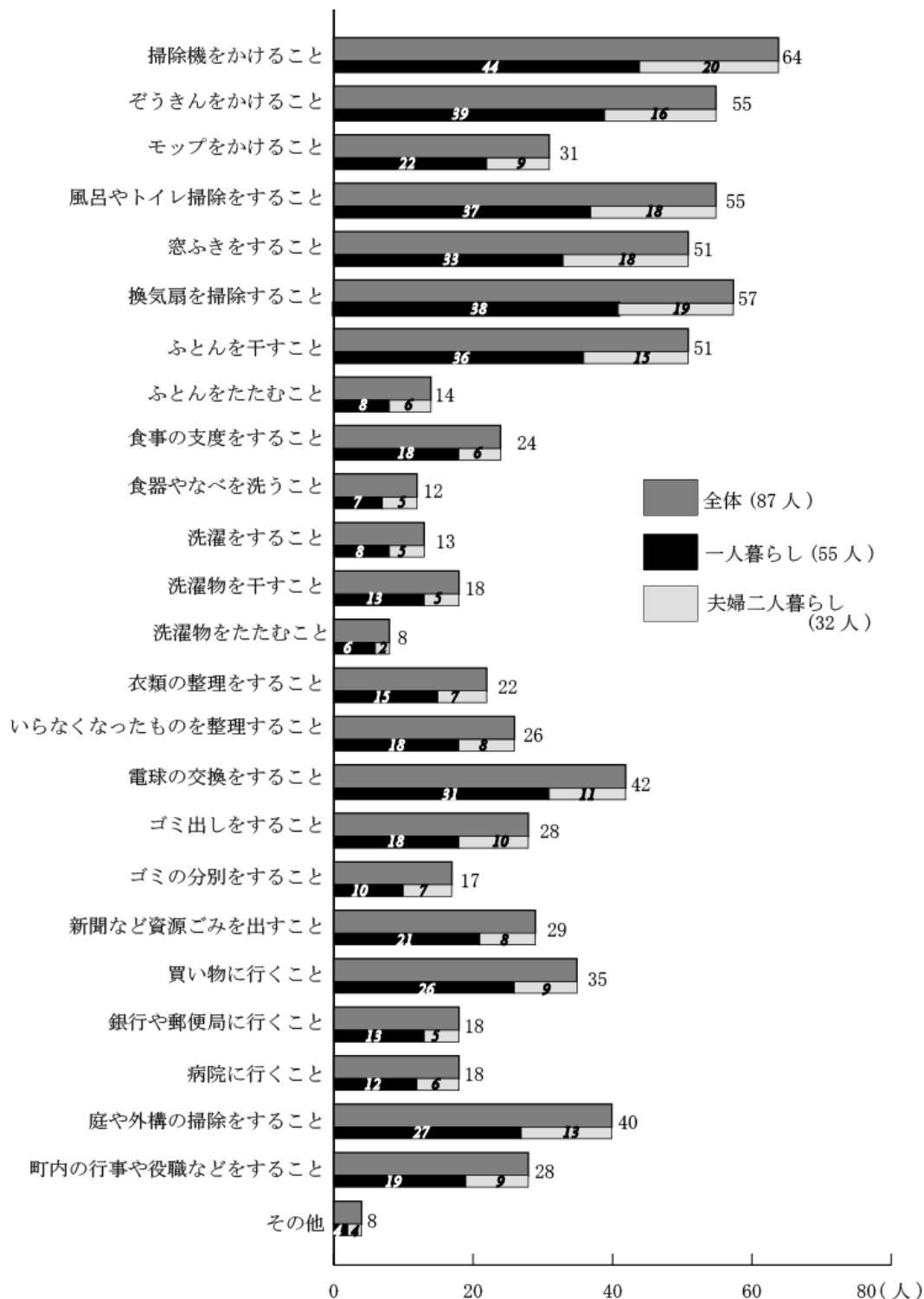


【図 3-4-24】家事で大変なこと

(18)支援を受けたい家事(Q44)

支援を受けたい家事についてみると、「掃除機をかけること」が 64 人と最も多くなっている。「換気扇を掃除すること」57 人、「雑巾をかけること」55 人、「風呂やトイレ掃除をすること」55 人と続く。

「電球の交換をすること」は「一人暮らし高齢者」(31/55 人)の方が、「夫婦二人暮らし高齢者」(11/32 人)より支援を受けたいと思っている人が多い。

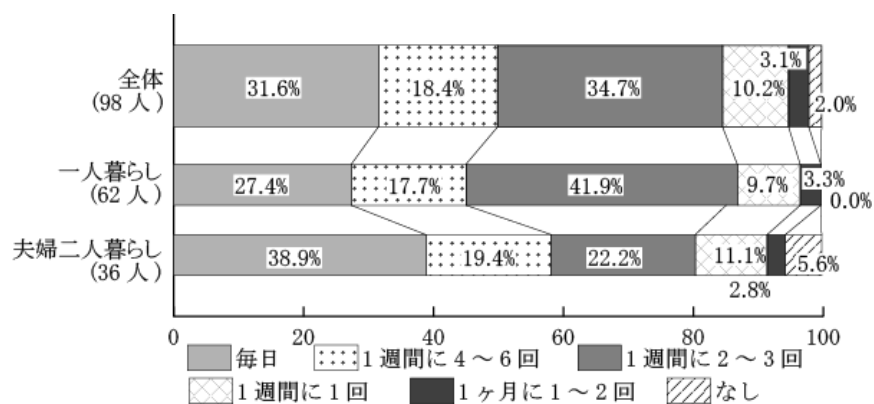


【図 3-4-25】 支援を受けたい家事

(19)コミュニケーションの回数(Q45)

コミュニケーションの回数についてみると、「1週間に2～3回」が34.7%と最も多く、「毎日」が31.6%と続く。「1週間に1回以下」は全体の15.3%となっている。

「一人暮らし高齢者」で「毎日」コミュニケーションをとるが27.4%と、一人暮らしでも毎日家族や友人とコミュニケーションを図っている割合が高い。



【図 3-4-26】 コミュニケーションの回数

第4章 聞き取り調査の方法等

1 調査対象者、調査事項及び調査方法等

(1)調査対象者

22年5月～7月に名古屋市の某包括支援センターが予防給付を行っている
要支援の一人暮らし又は夫婦二人暮らし世帯の高齢者アンケート調査を行ったもののうち、
聞き取り調査に協力をいただけると回答したもの

(2)調査方法

建築関係者と福祉関係者による訪問・聞き取り調査

(3)調査事項

- ア 寝室に関すること
- イ 食事に関すること
- ウ 家事に関すること
- エ 入浴に関すること
- オ 排泄に関すること
- カ 居場所に関すること
- キ 住宅に関すること

(4)調査実施期間

平成22年7月1日～平成22年9月30日

(5)標本抽出法

アンケート調査対象者

(6)標本数及び有効回収数

- ア 標本数 92人
- イ 有効回収数(率) 72人 (78.3%)

第5章 聞き取り調査の結果

1 調査対象者の基本属性

(1)性別

男	女	合計
28 38.9%	44 61.1%	72 100%

【表 5-1-1】男女比

(2)年齢構成

65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上	合計
1 1.4%	9 12.5%	14 19.4%	30 41.7%	16 22.2%	2 2.8%	72 100%

【表 5-1-2】年齢構成

(3)要介護度

	要支援 1	要支援 2	合計
アンケート調査	34 47.2%	38 52.8%	72 100%
某地域包括支援センター 予防給付者数(H22.5 末)	210 40.1%	314 59.9%	524 100%

【表 5-1-3】要介護度

(4)同居者の状況

	一人暮らし	夫婦二人暮らし	合計
アンケート調査	48 66.7%	24 33.3%	72 100%
某地域包括支援センター 予防給付者数のうち、 一人暮らしまたは 二人暮らしの数(H22.5 末)	229 66.0%	118 34.0%	347 100%

【表 5-1-4】同居者の状況

	一人暮らし	夫婦二人暮らし	合計
65～69 歳	1 100%	0 0%	1 100%
70～74 歳	4 44.4%	5 55.6%	9 100%
75～79 歳	6 42.9%	8 57.1%	14 100%
80～84 歳	27 90.0%	3 10.0%	30 100%
85～89 歳	8 50.0%	8 50.0%	16 100%
90 歳以上	2 100%	0 0%	3 100%
合計	48 66.7%	24 33.3%	72 100%

【表 5-1-5】同居者の状況と年齢構成

(5)住宅の所有状況

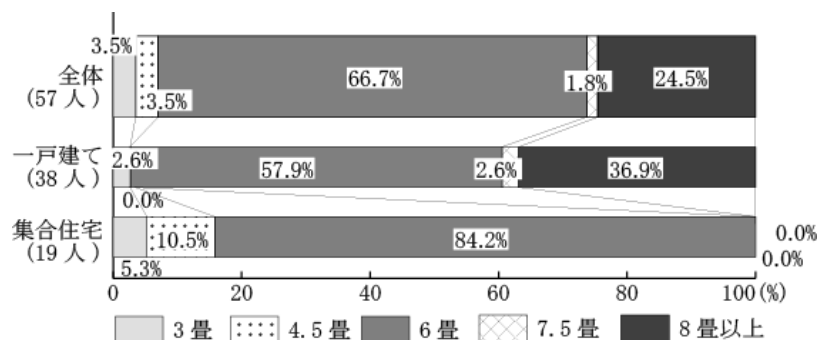
	戸建	集合住宅	合計
持家	45 81.8%	10 18.2%	55 100%
借家	2 11.8%	15 88.2%	17 100%
合計	47 65.3%	25 34.7%	72 100%

【表 5-1-6】住宅の所有状況

2 寝室に関すること

(1)現在の寝室の広さ

現在の寝室の広さは、「6畳」が66.7%と最も多く、続いて「8畳」24.5%となっている。

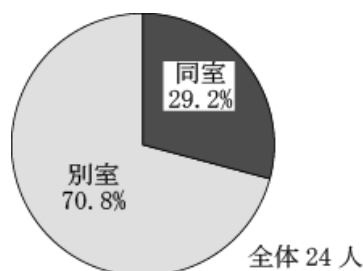


【図 5-2-1】現在の寝室の広さ

(2)夫婦の寝室の状況

夫婦二人暮らしのうち、「同室」で寝ている人は29.2%で、約7割が夫婦「別室」で寝ている。

別室になった理由は、「子どもが独立し、部屋が余っていたから」、「夫のいびきが気になった」「夫の帰宅時間が遅く生活サイクルが違ったから」「夫婦で体感温度が違い、冷房や暖房が気になった」などとなっている。反対に、夫婦別室だったが、「夫の病気により夫婦同室で寝るようになった」という人もいる。

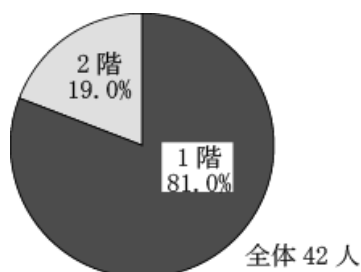


【図 5-2-2】夫婦の寝室状況

(3)寝室の場所

平屋ではない住宅に住む人うち、1階に寝室があるものは81.0%となっている。1階を寝室としている人は、2階を「物置」としている人がほとんどで、1件だけ2階を「物干し」として利用していた。

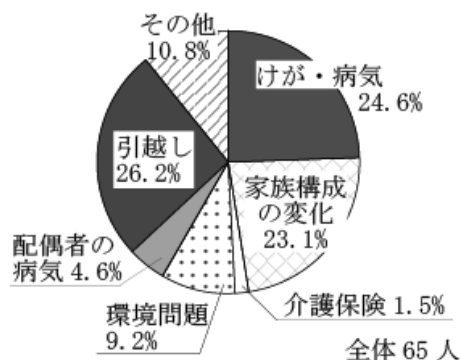
以前は2階に寝室があり、1階に移ったものは16人で、1階で寝ている34人のうちの約半数が2階から1階に移っている。



【図 5-2-3】寝室の場所

(4) 寝室の変更理由

寝室の変更理由は、「引越し」によるものの方が 26.2%と最も多いが、「けが・病気」が 24.6%と続いている。「家族構成の変化」は「配偶者の死亡」や「子どもの独立」などが、「介護保険」には「介護保険導入で特殊寝台を搬入したため」、「環境問題」には「部屋が寒い」や「暑い」などが含まれている。

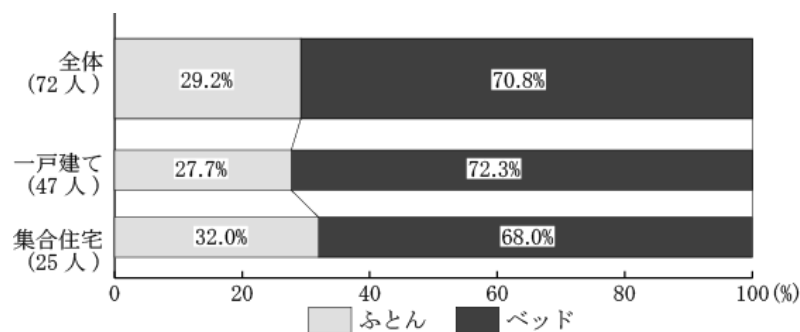


【図 5-2-4】 寝室の変更理由

(5) 寝具の種類

寝室の種類は、「ベッド」が 70.8%、「ふとん」が 29.2%となっている。「ベッド」のうち、特殊寝台を使っているのは 6.9%であった。

ベッドに変更した理由は、「病気やけがによるもの」や、「息子がベッドを購入してくれたから」「娘が利用していたベッドが空いていたから」などとなっている。



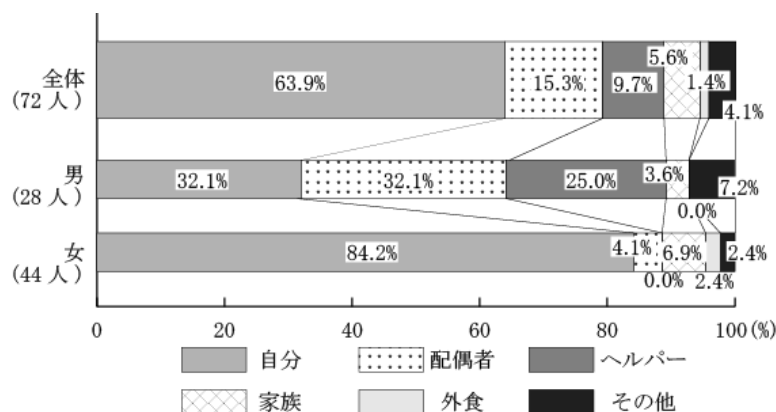
【図 5-2-5】 寝具の種類

3 食事に関すること

(1) 食事をつくる人

食事をつくる人についてみると全体で 63.9%が「自分」でつくっている。男女別では、男性の方が、「配偶者」や「ヘルパー」に依頼するものが多くなっている。

また、「居住人数別」と「男女別」にみると、「男性」の一人暮らしは「ヘルパー」に食事を依頼するが 42.9%となっている。娘や嫁によるおかずの差し入れを、小分けにして食べる人もいる。



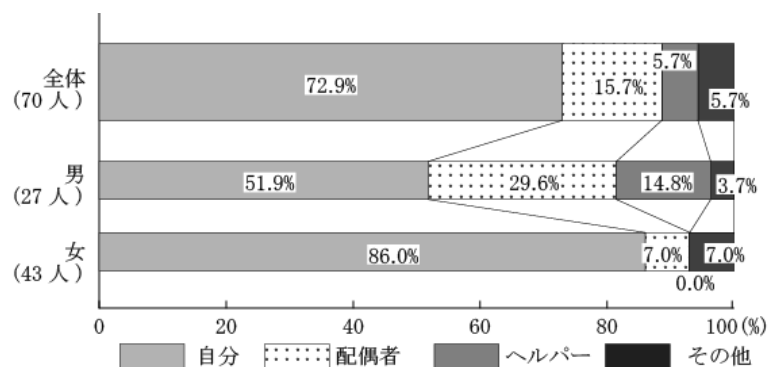
【図 5-3-1】 食事をつくる人

		自分	配偶者	家族	ヘルパー	外食	その他	合計
一人暮らし	男	5 35.7%	0 0.0%	1 7.1%	6 42.9%	0 0.0%	2 14.3%	14 100%
	女	30 88.3%	0 0.0%	2 5.9%	0 0.0%	1 2.9%	1 2.9%	34 100%
	合計	35 72.9%	0 0.0%	3 6.3%	6 12.5%	1 2.0%	3 6.3%	48 100%
夫婦二人暮らし	男	4 35.7%	9 0.0%	0 7.1%	1 42.9%	0 0.0%	0 14.3%	14 100%
	女	7 70.0%	2 20.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 100%
	合計	11 45.8%	11 45.8%	1 4.2%	1 4.2%	0 0.0%	0 0.0%	24 100%

【表 5-3-1】 食事をつくる人

(2) 後片付けをする人

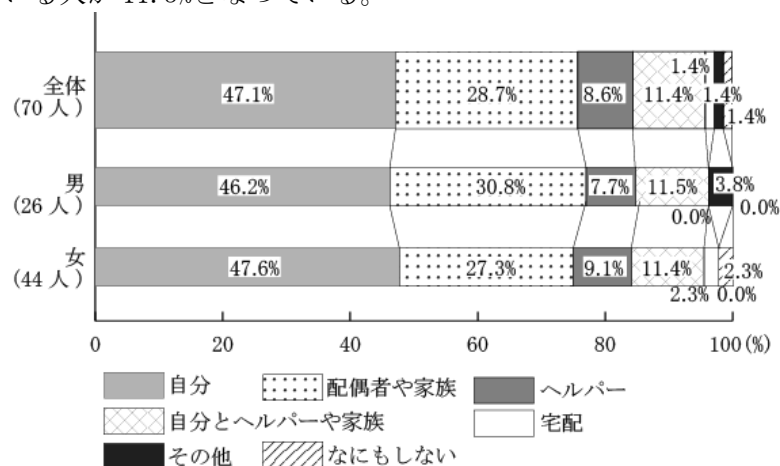
「後片付けをする人」についてみると、「自分」で片付けるが 72.9%が最も多くなっている。「男性」の方がヘルパーに依頼する割合が高い。



【図 5-3-2】 後片付けをする人

(3)買い物に行く人

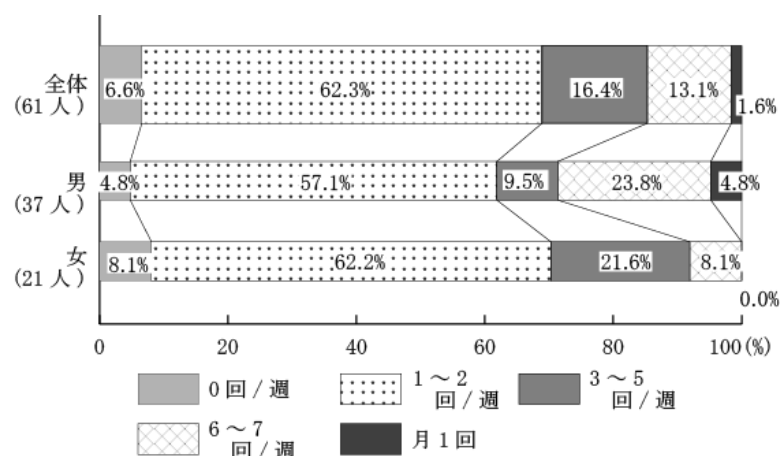
買い物に行く人についてみると、「自分」が 47.1%で最も多いが、「自分とヘルパーや家族」付き添いを依頼している人が 11.3%となっている。



【図 5-3-3】 買い物に行く人

(4)買い物回数

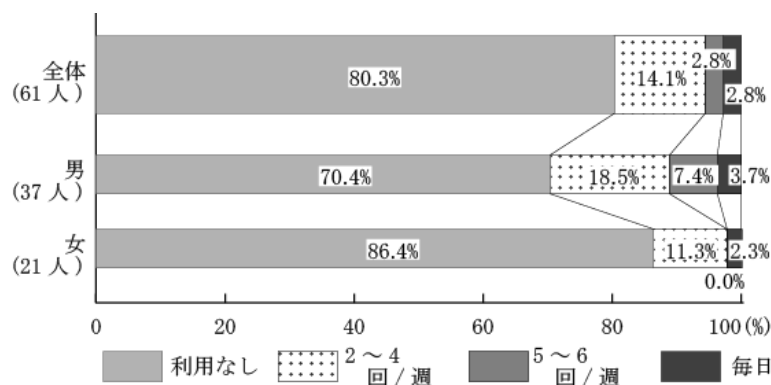
「買い物回数」は「1～2 回/週」が 62.3%と最も多くなっている。女性の方が買い物回数は少ない傾向にある。



【図 5-3-4】 買い物回数

(5)配食回数

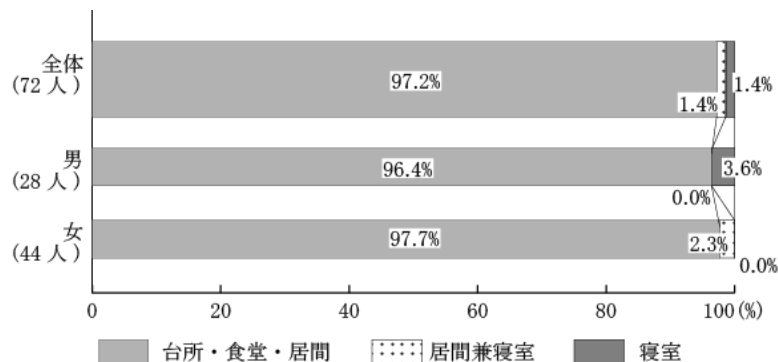
1週間の配食回数についてみると、80.3%が配食を利用していない。「週2～4回」利用している人の中には「配食は量が多いので2回に分けて食べている」という回答や、「配食サービスは味が同じなので3ヶ月くらいで飽きることが多い」という回答もあった。



【図 5-3-5】配食回数

(6)食事場所

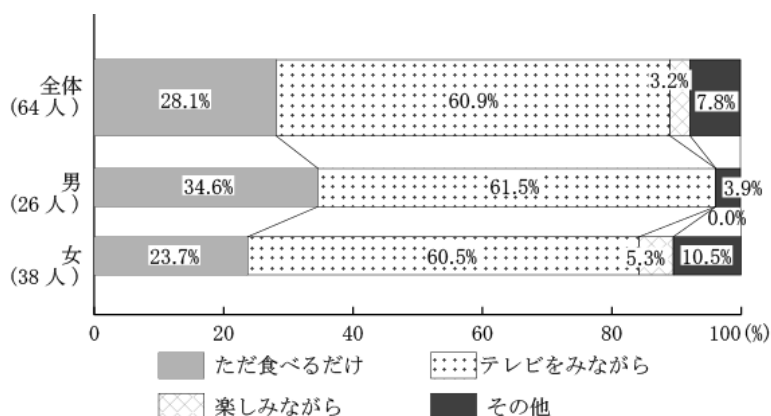
食事場所についてみると、「台所・食堂・居間」で食べている人が97.2%であった。



【図 5-3-6】食事場所

(7)食事方法

食事方法についてみると、「テレビをみながら」ご飯を食べているが60.9%と最も多かった。

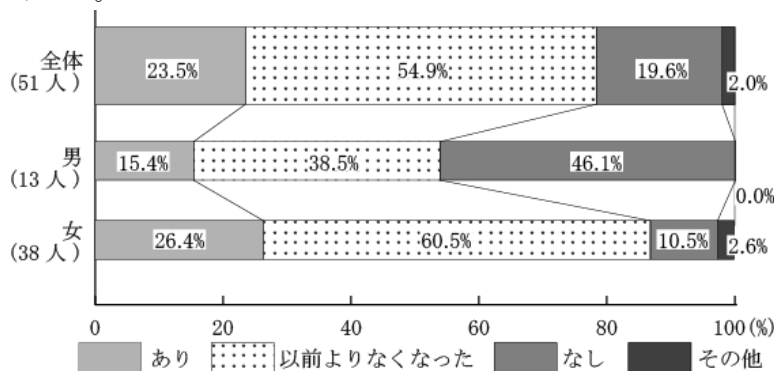


【図 5-3-7】食事方法

(8)調理の意欲

調理の意欲についてみると、「以前よりなくなった」が 54.9%となっている。「以前よりなくなった」は「女性(60.5%)」の方が「男性(38.5%)」より多くなっている。

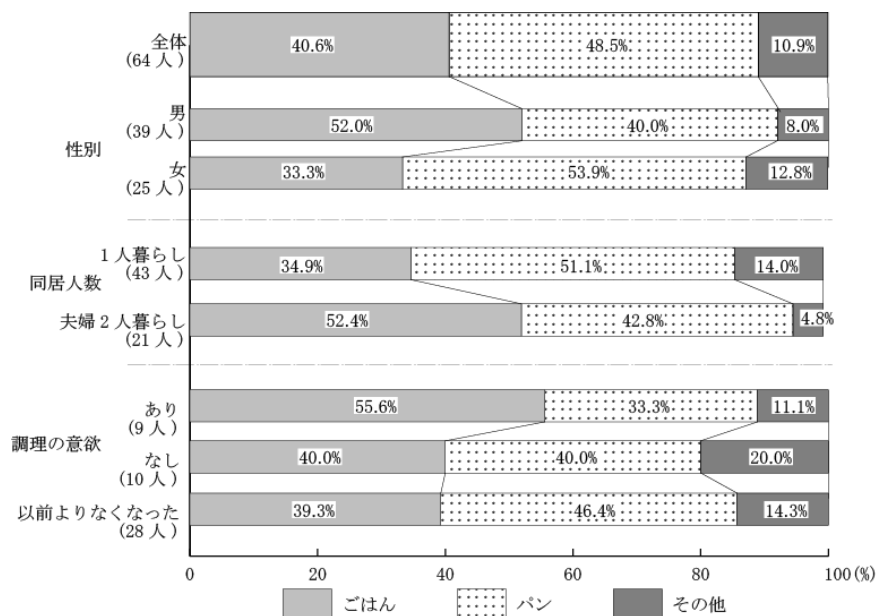
「子どもがいた頃は生ジュースを作っていたが、今は菓子パンが多い」「毎日 2～3 品はおかずをつくるが、面倒くさくなると 1 品減らすこともある。」「一人なので火はあまり使わない。レンジで温野菜を作る。」「朝はみそ汁をつくるのが面倒で、インスタントのみそ汁を使うことがある。」などの意見があった。



【図 5-3-8】 調理の意欲

(9)朝食の主食

朝食の主食についてみると、全体の 48.5%が「パン」となっている。これは「一人暮らし(51.2%)」の方が、「夫婦二人暮らし(42.8%)」よりも多くなっており、「調理の意欲」が「ない(40.0%)」や「以前よりなくなった(46.4%)」の方が、「あり(33.3%)」よりも朝食を「パン」にしている人が多い。「昔の朝ごはんは米を食べていたが、面倒になったので今はパン」という意見もある。

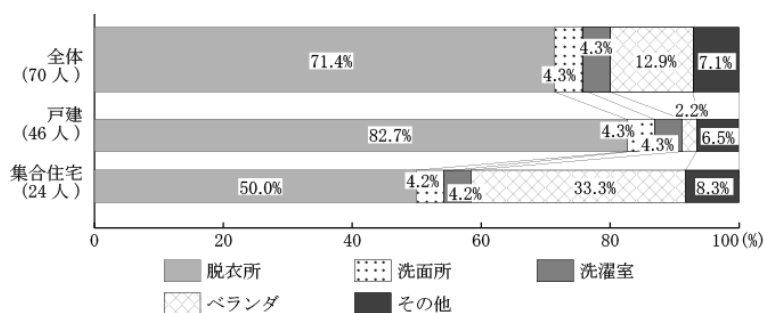


【図 5-3-9】 朝食の主食

4 家事に関すること

(1)洗濯機の置き場

洗濯機の置き場についてみると、「脱衣所」が 71.4%と最も多く、続いて「ベランダ」(12.9%)となっている。「ベランダ」は「戸建(2.2%)」よりも「集合住宅(33.3%)」の方が多い。

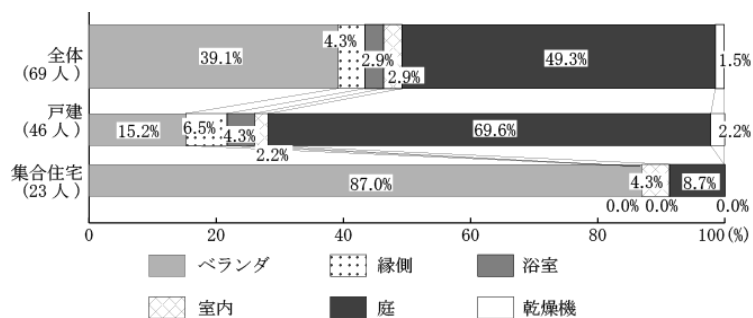


【図 5-4-1】洗濯機の置き場

(2)洗濯物を干す場所

洗濯物を干す場所についてみると、「庭」が 49.3%と最も多く、続いて「ベランダ」(39.2%)となっている。「庭」は「集合住宅(8.7%)」よりも「戸建(69.6%)」の方が多く、「ベランダ」は「戸建(15.2%)」よりも「集合住宅(87.0%)」の方が多い。

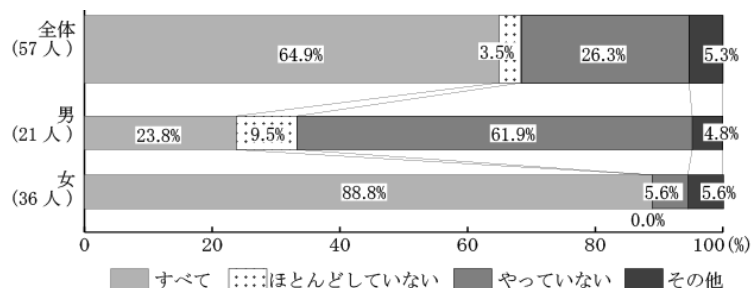
「庭に出られないので室内に干す」人や「縁側から物干しへ寄りかかるようにして干している」とするものもある。



【図 5-4-2】洗濯物を干す場所

(3)昔の家事の習慣

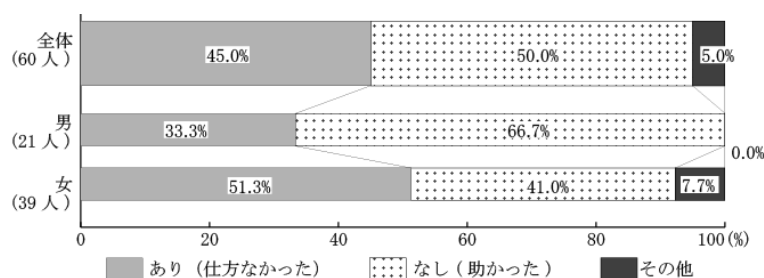
昔の家事の習慣についてみると、自分で「すべて」行ったが 64.9%と最も多く、「女性」は 88.8%となっている。



【図 5-4-3】昔の家事の習慣

(4)ヘルパーが入ることへの抵抗感

ヘルパーが入ることへの抵抗感についてみると、「助かった」を含む抵抗感が「なし」が50.0%となっている。自分が病気や虚弱化したことで意思に反するが「仕方がなかった」などを含む抵抗感が「あり」も45.0%となっている。抵抗「あり」は女性の方が多い。



【図 5-4-4】 ヘルパーが入ることへの抵抗感

(5)家事についての自由回答

家事についてみると、「腰や肩、手首が痛いので掃除機をかけられない」とする人が12人いる。その方は、ヘルパーや家族に依頼するか、ほうきや棒状のお掃除キットで掃除をしている。

「風呂やトイレの掃除」については、「かがむことが辛いのでできない」人や「風呂掃除に半日くらいかかる」というような意見があった。

「窓ふきや換気扇の掃除」については、介護保険の訪問介護でサービスを受けることができないため「(汚れているが)見ないふりをしている」や「子どもに頼む」という人もいる。

「ふとんや洗濯物を干すこと」については、「外に干すことができないため、日のあたる室内に干す」ことや「縁側から庭の物干しに干す。不安定なのでみんなが心配している」など、身体機能の低下にあわせた工夫をしている。

「食事の支度」については、支度ができないので「買い物に出たときに出来合いのおかずを買ってくる」「ヘルパーにまとめてつくってもらおう」などの意見があった。

「電球の交換」については、家族などに頼んでいることが多く、「町内の役職」は「高齢のものには役が当たらないようになっている」「高齢を理由に断っている」という意見があった。

「ゴミ出し」については、「重くて運べないので小出しにする」「近隣に依頼する」などの意見があった。

「買い物」については、子どもや兄弟・親類などの定期的な訪問のときに、近隣のスーパーまで連れて行ってもらおうという意見が多かった。その際に米や調味料、トイレットペーパーなどの重いもの、大きなものを買っている。

「銀行や郵便局」は、「歩くのが辛いので、長年付き合いのあった銀行をやめて、近くの金融機関に変えた」という意見もあった。

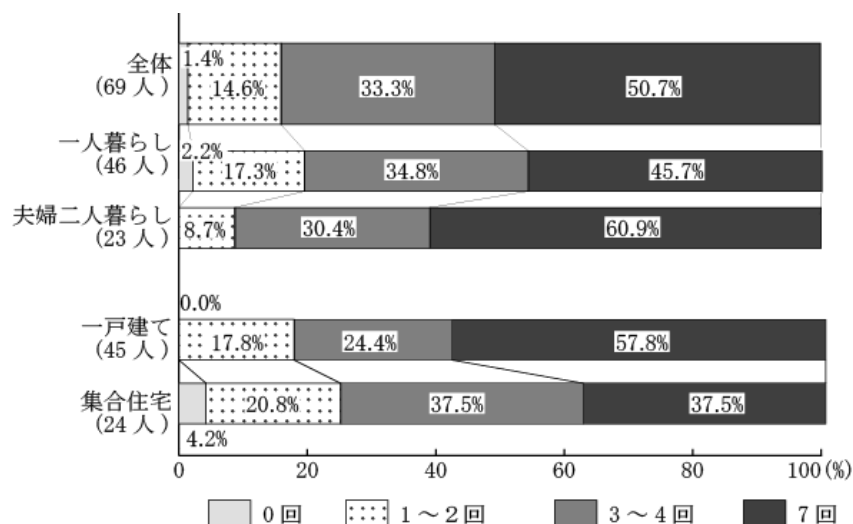
5 入浴に関すること

(1)1週間の入浴回数

1 週間の入浴回数は、「毎日」入浴するが 50.7%となっている。

「一人暮らし」の方が、「夫婦二人暮らし」よりも入浴回数が少ない傾向にある。

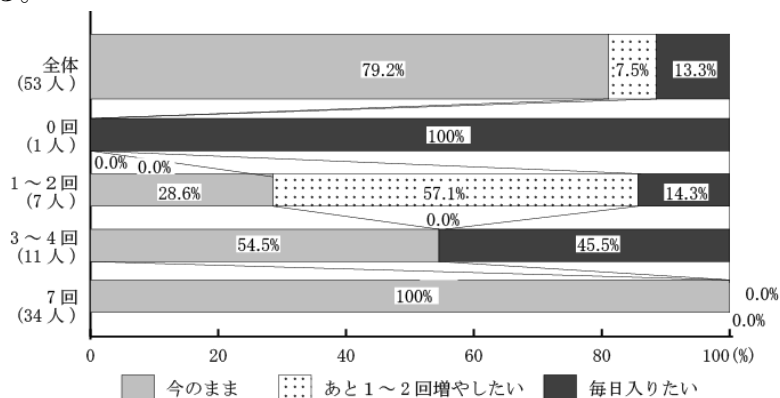
毎日入らない理由は、「元気なときは毎日入っていたが、今はあまり入りたくない」「入浴すると疲れる」「一人なのでお湯を毎日変えるのはもったいなくて、入浴剤を入れて3回くらい追い炊きする」などとなっている。



【図 5-5-1】1 週間の入浴回数

(2)1週間の入浴回数と入浴の希望回数

1 週間の入浴回数と入浴の希望回数についてみると、入浴回数が少ないほど、回数を増やしたいという傾向にある。

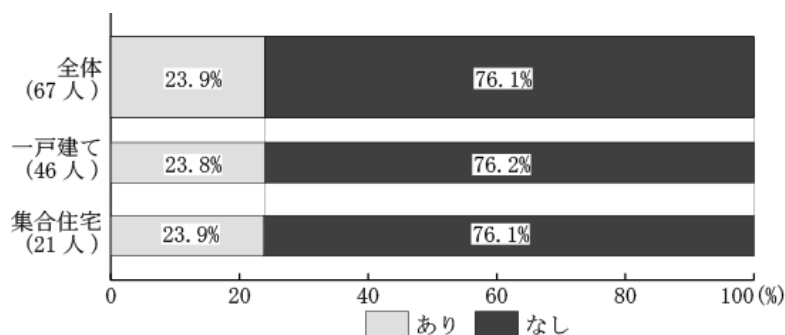


【図 5-5-2】1 週間の入浴回数と入浴希望回数

(3)入浴時の寒さの感じ方

入浴時の寒さの感じ方についてみると、「寒い」は22.6%となっている。

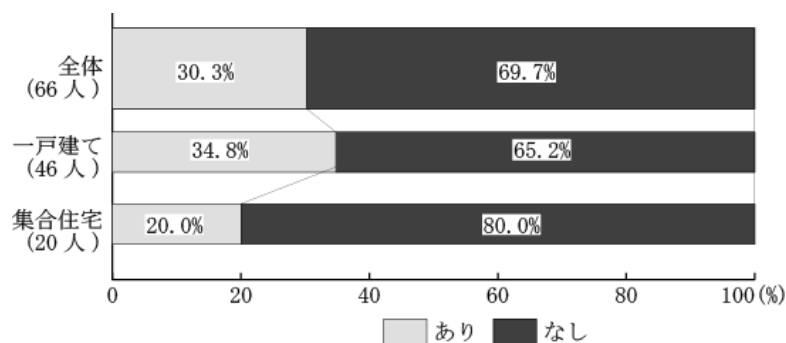
寒さを感じない理由は、「湯を入れてから(湯気が立ち上がっているところに)入るので寒さを感じることはない」「寒がりだが、住宅改修をしてユニットバスにしたら、寒くなくなった」などとなっている。



【図 5-5-3】入浴時の寒さの感じ方

(4)浴室の暖房器具の有無

浴室の暖房器具の有無についてみると、暖房器具「あり」は30.3%となっている。

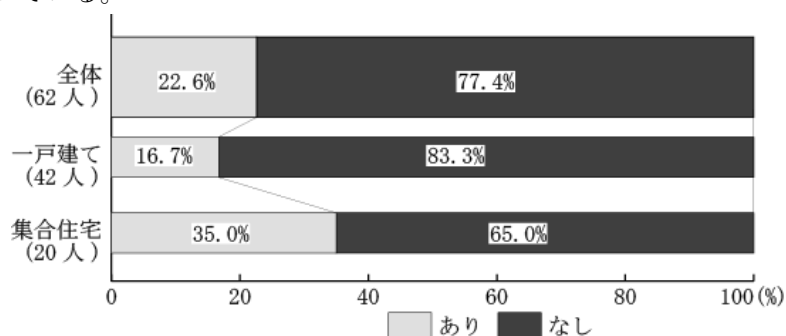


【図 5-5-4】浴室の暖房器具の有無

(5)転倒の有無

転倒の有無についてみると、77.4%が転倒をしていない。

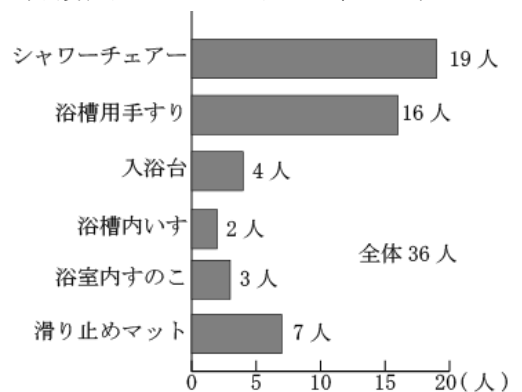
転倒していない理由は、「手すりを持っているので、転びそうになることはない」「手が痛い」と風呂には入らないことにしているので風呂で転倒したことはない」「ふらっとすることはあるが、狭いので壁につかまれる」「裸で転んだところを見つかるのは恥ずかしいから、慎重に入浴している」などとなっている。



【図 5-5-5】転倒の有無

(6)浴室にある福祉用具

浴室にある介護器具についてみると、「シャワーチェア」が最も多く、19人となっている。

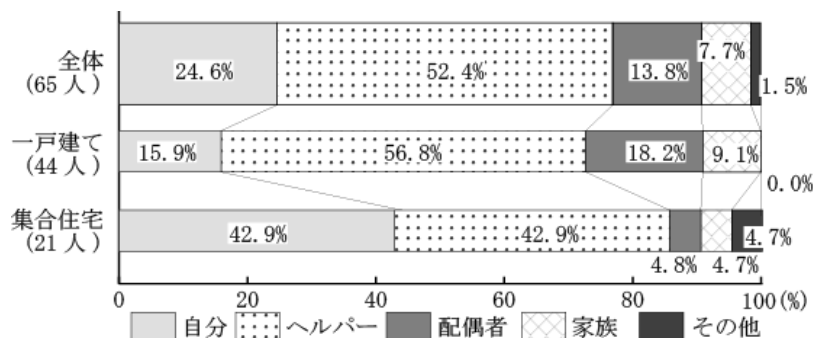


【図 5-5-6】浴室にある福祉用具

(7)浴室を掃除する人

浴室を掃除する人についてみると、「ヘルパー」が52.4%と最も多くなっている。

浴室を自分で掃除できない理由は「かがむとたつのが大変なので」「腰がいたいので」などとなっている。



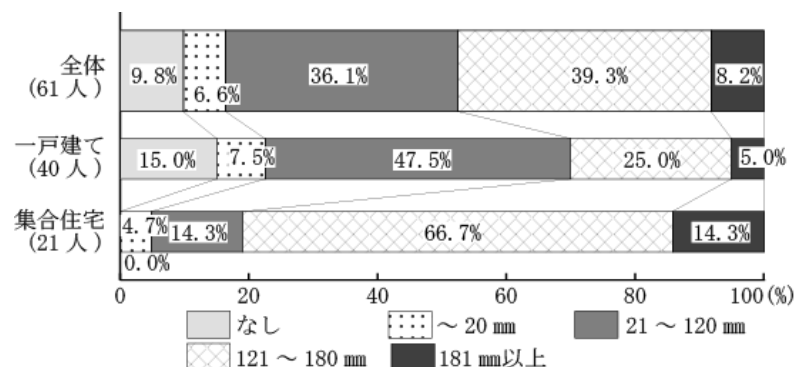
【図 5-5-7】浴室を掃除する人

(8)浴室への段差

浴室への段差についてみると、「121～180 mm」の段差があるが39.3%と最も多くなっている。

続いて「21～120 mm」36.1%となっている。

「高齢者の居住の安定確保に関する法律」の「高齢者が居住する住宅の設計に関する指針」では、浴室の出入り口の段差は、「20 mm以下の単純段差または浴室内外の高低差を120 mm以下、またぎ高さを180 mm以下とし、かつ手すりを設置したもの」となっている。

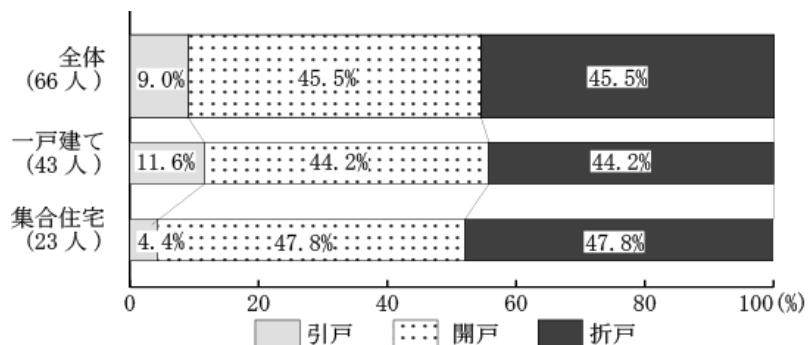


【図 5-5-8】浴室への段差

(9)戸の形状

戸の形状についてみると、「引戸」と「折戸」が45.5%となっている。

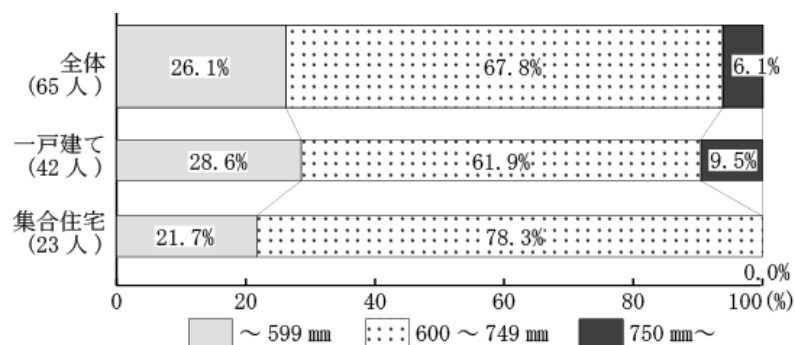
「一戸建て」9.8%の方が「引戸」が多い。



【図 5-5-9】 戸の形状

(10)戸の有効開口幅

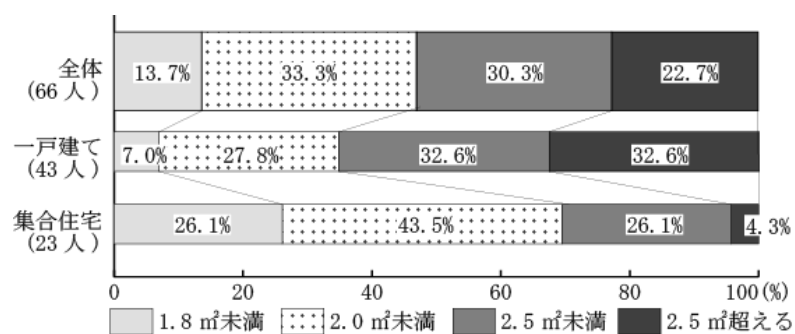
戸の有効開口幅についてみると、「600～749 mm」が67.8%と最も多くなっている。



【図 5-5-10】 戸の有効開口幅

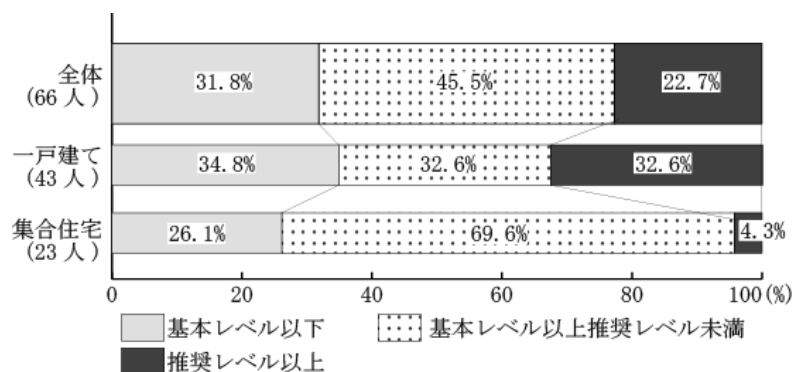
(11)浴室面積

浴室面積についてみると、内法寸法で「2.0㎡未満」が33.3%と最も多くなっている。「一戸建て」は「集合住宅」よりも浴室のサイズが大きい傾向にある。



【図 5-5-11】 浴室面積 1

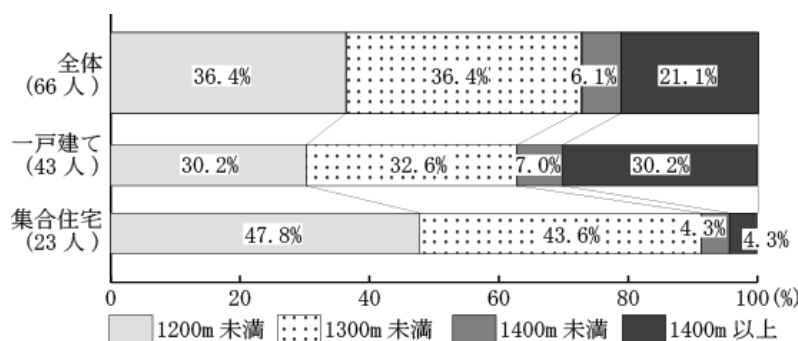
「高齢者の居住の安定確保に関する法律」の「高齢者が居住する住宅の設計に関する指針」では、浴室面積の内法寸法は、基本レベルでは「一戸建て」が 2.0 m²以上、「集合住宅」では 1.8 m²以上、推奨レベルでは「一戸建て」「集合住宅」とも 2.5 m²となっている。基本レベル条件を満たさないのは、全体の 31.8%となっている。「一戸建て」の方が、「集合住宅」よりも「基本レベル以下」の割合が多くなっている。



【図 5-5-12】浴室面積 2

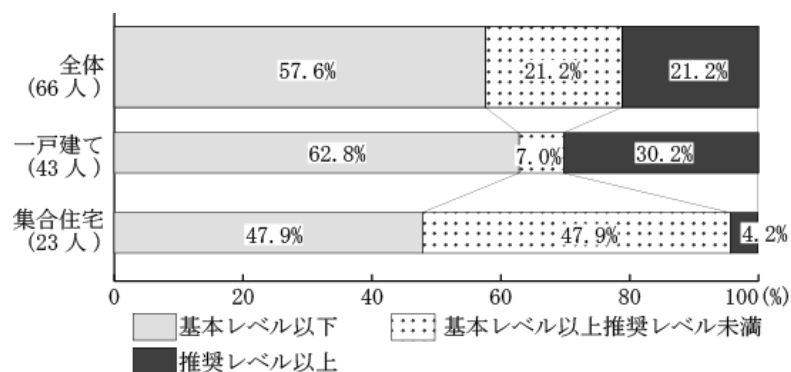
(12)浴室の短辺方向

浴室の短辺方向（主に浴槽の長辺に接する面）についてみると、「1200mm 未満」「1300mm 未満」とともに 36.4%となっている。「集合住宅」の方が「一戸建て」よりも狭い傾向にある。



【図 5-5-13】浴室の短辺方向 1

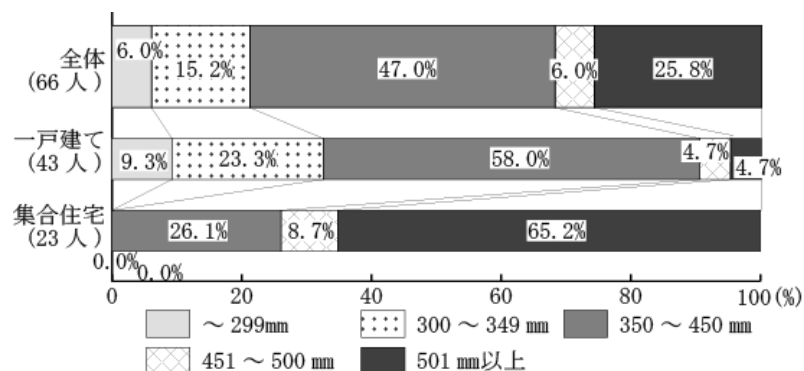
「高齢者が居住する住宅の設計に関する指針」では、浴室の短辺方向の内法寸法は、基本レベルでは「一戸建て」が 1300 mm以上、「集合住宅」では 1200 mm以上、推奨レベルでは「一戸建て」「集合住宅」とも 1400mm となっている。基本レベル条件を満たさないのは、全体の 57.8%となっている。「一戸建て」の方が、「集合住宅」よりも「基本レベル以下」の割合が多くなっている。



【図 5-5-14】浴室の短辺方向 2

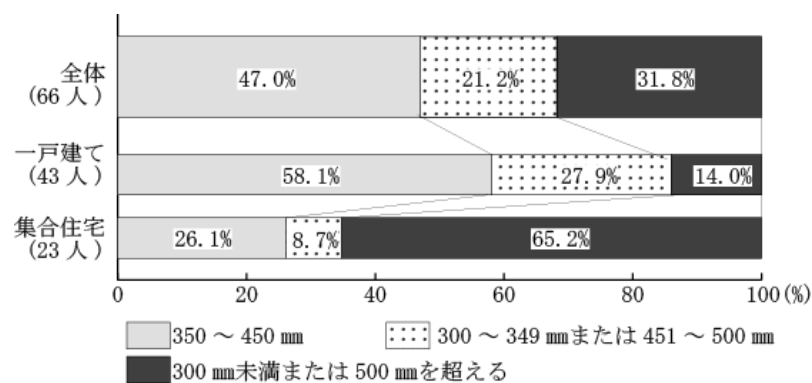
(13)またぎ高さ

またぎ高さについてみると、「350～349 mm」が47.0%と最も多くなっている。「集合住宅」の方が「一戸建て」よりもまたぎ高さが高い傾向にある。



【図 5-5-15】 またぎ高さ 1

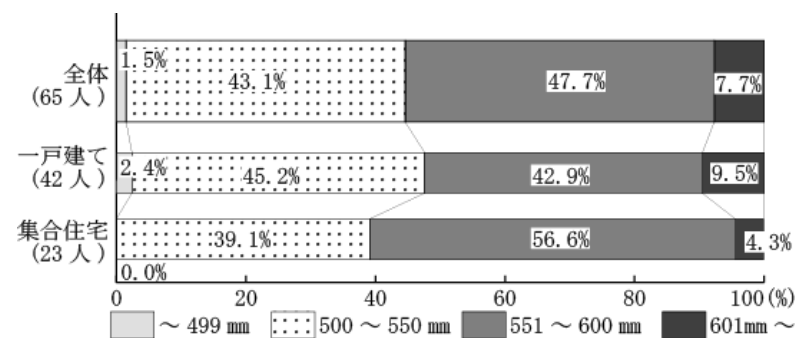
またぎ高さは、一般的にまたぎやすいといわれる「350～450 mm」は 47.0%と最も多くなっている。



【図 5-5-16】 またぎ高さ 2

(14)浴槽の深さ

浴槽の深さについてみると、「551～600 mm」が47.7%と最も多くなっている。「借家」の方が「持家」よりも深い傾向にある。

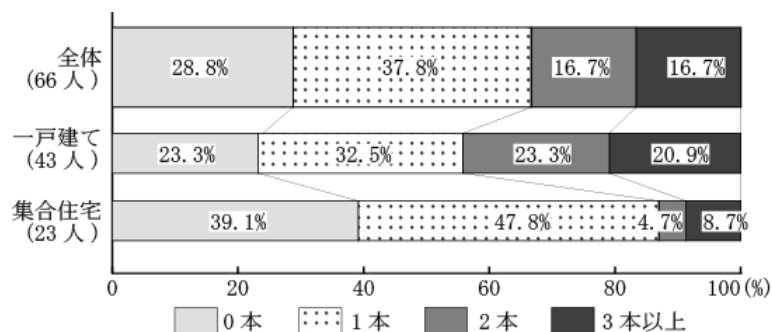


【図 5-5-17】 浴槽の深さ

(15)手すりの本数

浴室内の手すりの本数についてみると、「1本」が37.8%と最も多くなっている。

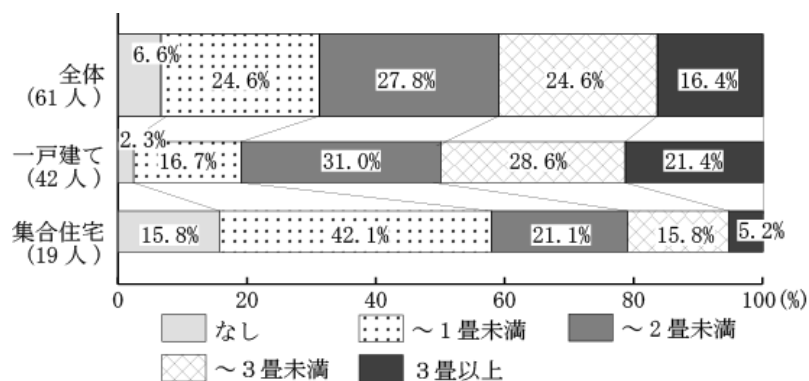
「一戸建て」の方が、「集合住宅」よりも手すりが多い傾向にある。



【図 5-5-18】手すりの本数

(16)脱衣所の広さ

脱衣所の広さについてみると、「1～2畳」が27.8%と最も多くなっている。「一戸建て」の方が「集合住宅」よりも広い傾向にある。

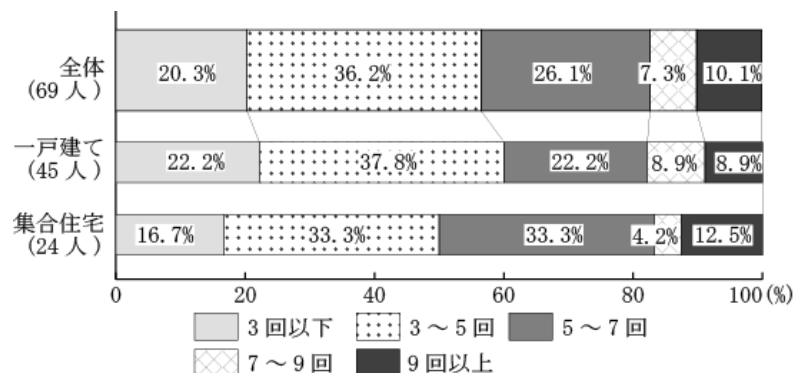


【図 5-5-19】脱衣所の広さ

6 トイレに関すること

(1)トイレの回数(日中)

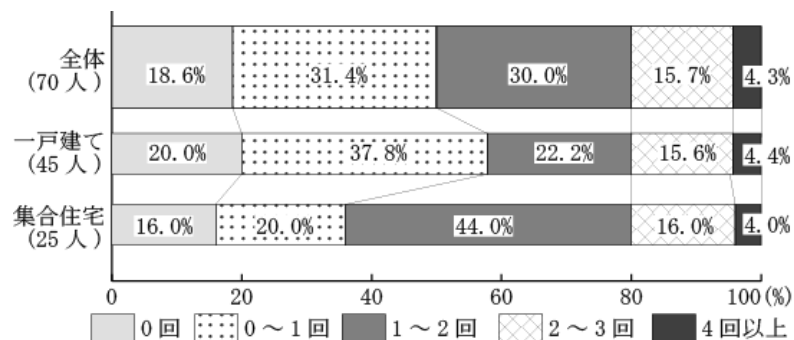
日中のトイレの回数についてみると、「3～5回」が最も多く 36.2%となっている。



【図 5-6-1】 トイレの回数(日中)

(2)トイレの回数(夜)

夜間のトイレの回数についてみると、「0～1回」が最も多く 31.4%で、「1～2回」が 30.0%と続く。夜間のトイレについて「夜トイレに行かなくてよいように、早く寝ないようにしている」「水分を取るとトイレに行きたくなるので、水分はあまり取らないようにしている」などの意見があった。

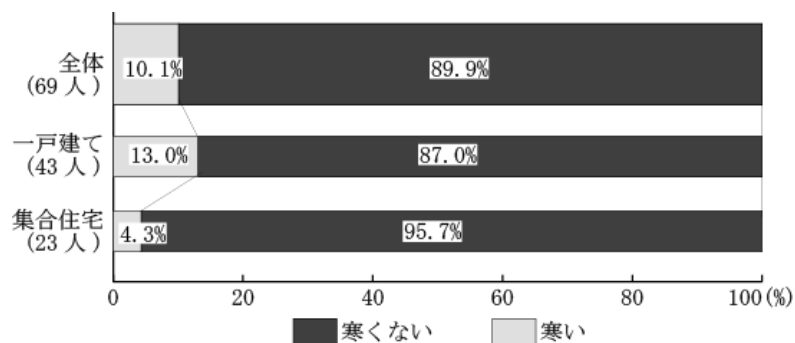


【図 5-6-2】 トイレの回数(夜)

(3)トイレ利用時の寒さの感じ方

トイレ利用時に寒さを感じるかについてみると、89.9%が寒さを感じないとなっている。

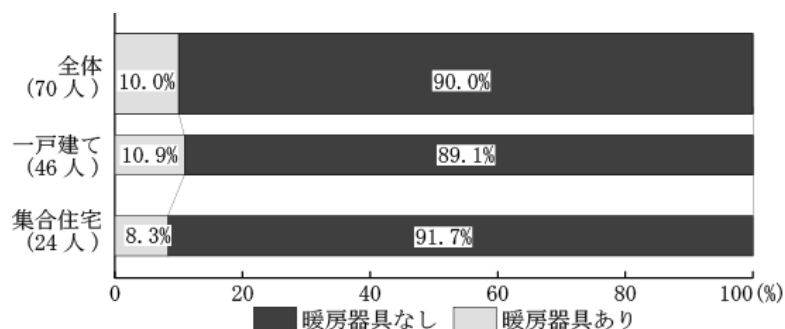
寒さを感じない理由は、「寒いと思うほどトイレには長居しない」「暖房便座があるから暖かい」という意見があった。



【図 5-6-3】 トイレ利用時の寒さの感じ方

(4)トイレの暖房器具の有無

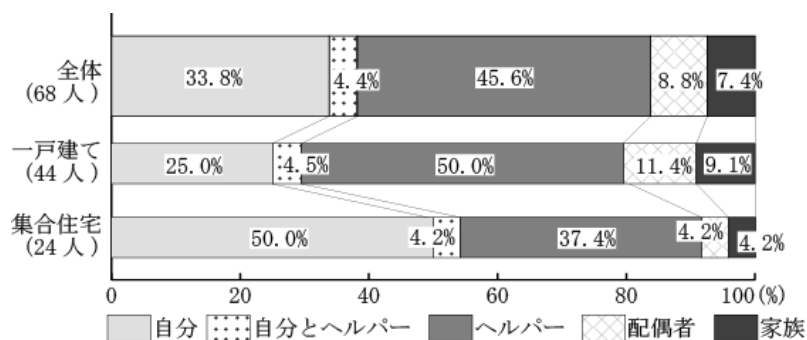
トイレの暖房器具の有無についてみると、90.0%が暖房器具を設置していない。



【図 5-6-4】 トイレの暖房器具の有無

(5)掃除をする人

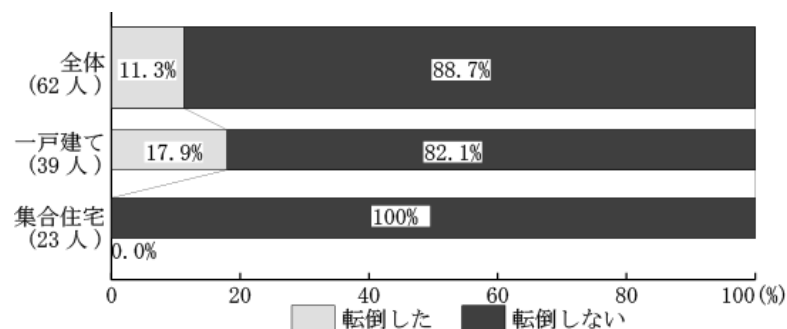
トイレの掃除をする人についてみると、「ヘルパー」に依頼するが 45.6%と最も多くなっている。



【図 5-6-5】 掃除をする人

(6)転倒の有無

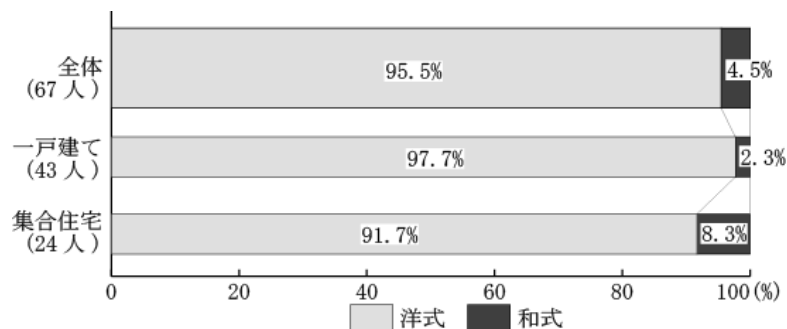
転倒の有無についてみると、「転倒していない」が 88.7%となっている。転ばない理由について「転ばないようにゆっくりと歩いている」「狭いから転びようがない」「手すりが付いているので転ばない」などの意見があった。



【図 5-6-6】 転倒の有無

(7)便器の様式

便器の様式についてみると、「洋式」が 95.5%となっている。「一戸建て(97.7%)」の方が「集合住宅(91.7%)」よりも「洋式」の割合が高い。

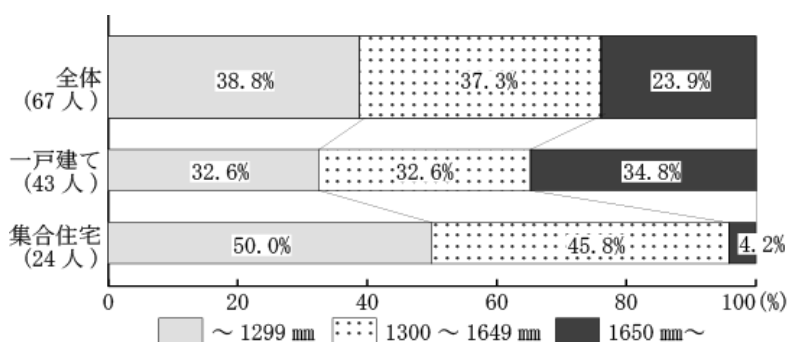


【図 5-6-7】 便器の様式

(8)トイレの長辺方向

便器を正面にみたときの奥行きを「トイレの長辺方向」とすると、「トイレの長辺方向」は「～1299 mm」が 38.8%と最も多くなっている。「集合住宅」の方が「一戸建て」よりも短い傾向にある。

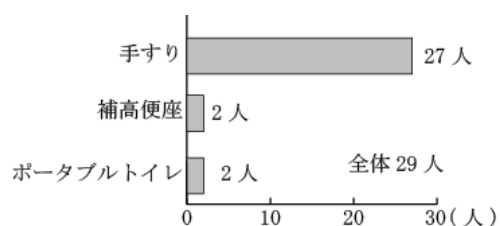
「高齢者の居住の安定確保に関する法律」の「高齢者が居住する住宅の設計に関する指針」では、トイレの長辺方向は、基本レベル、推奨レベルともに 1300 mm以上となっている。



【図 5-6-8】 トイレの長辺方向

(9)トイレにある福祉用具

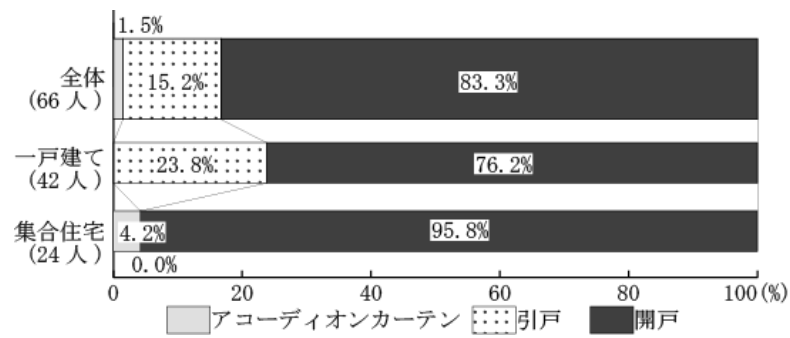
トイレにある福祉用具についてみると、「手すり」が 27 人となっている。



【図 5-6-9】 トイレにある福祉用具

(10)戸の形状

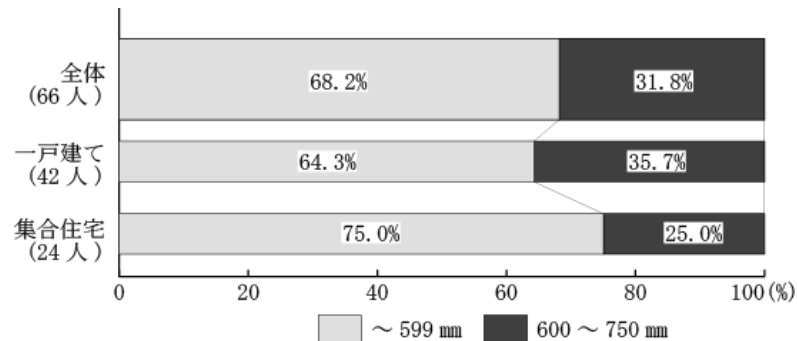
トイレの戸の形状についてみると、「開戸」が 83.3%となっている。



【図 5-6-10】 戸の形状

(11)戸の有効開口幅

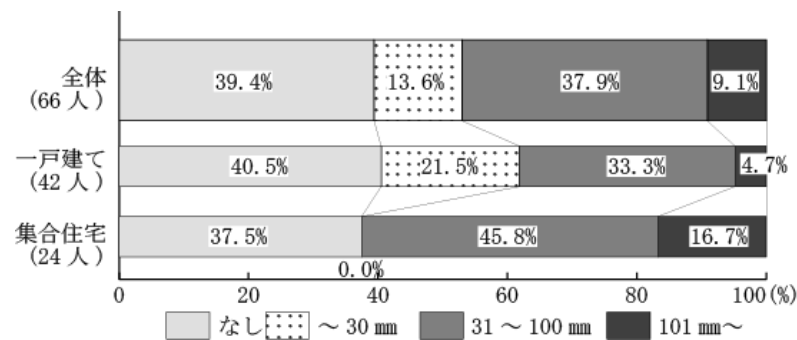
戸の有効開口幅についてみると、「599 mm以下」が 68.0%となっている。



【図 5-6-11】 戸の有効開口幅

(12)段差

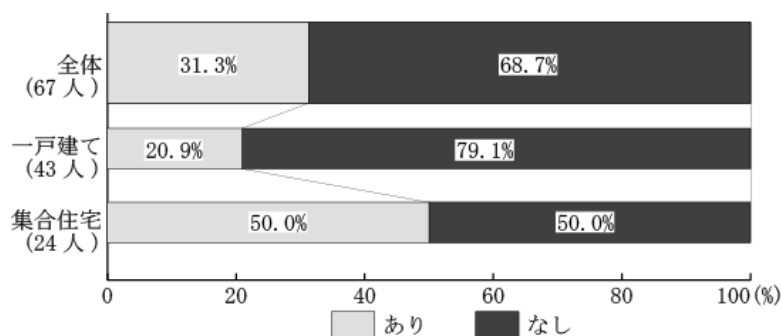
段差についてみると、「段差がない」が 39.4%と最も多く、「31～100 mm」が 37.9%と続く。



【図 5-6-12】 段差

(13)手すり

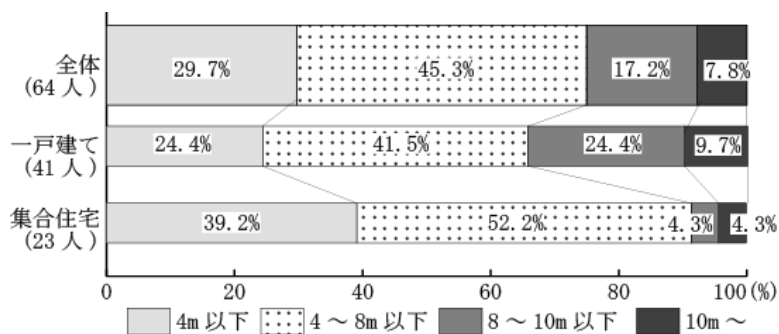
手すりについてみると、全体の68.7%が手すりを設置している。



【図 5-6-15】 手すり

(14)昼間いる場所とトイレの距離

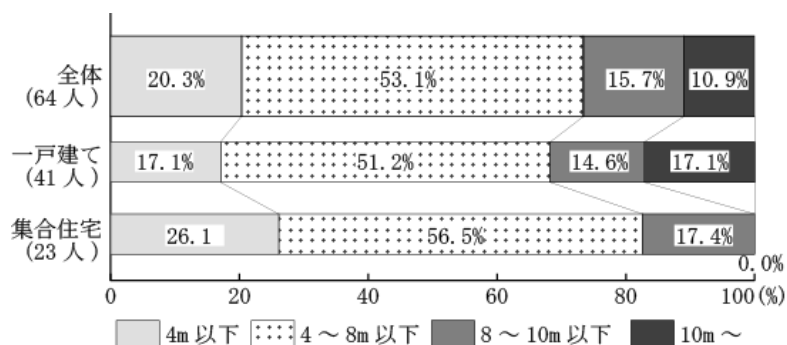
昼間いる場所とトイレの距離についてみると、「4～8m」が45.3%と最も多くなっている。「一戸建て」よりも「集合住宅」の方が、距離が短い傾向にある。



【図 5-6-14】 昼間いる場所とトイレの距離

(15)寝室とトイレの距離

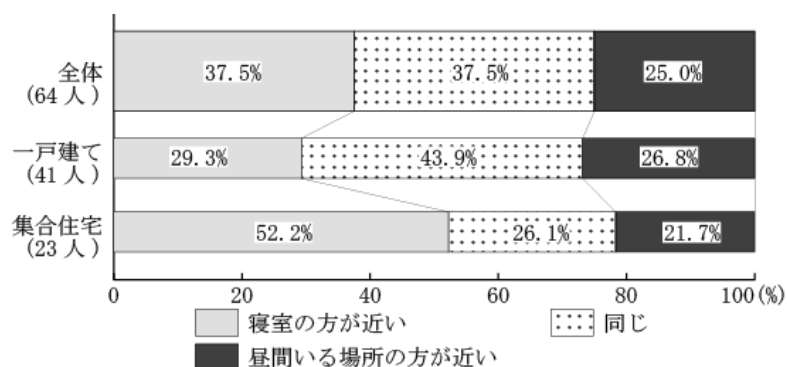
寝室とトイレの距離についてみると、「4～8m」が53.1%と最も多くなっている。



【図 5-6-15】 寝室とトイレの距離

(16) 昼間いる場所と寝室とのトイレ距離の関係

昼間いる場所と寝室で、どちらがトイレに近いのかについてみると、「寝室の方が近い」が37.5%となっている。「一戸建て(29.3%)」よりも「集合住宅(52.2%)」の方が、「寝室の方が近い」割合が多い。



【図 5-6-16】 昼間いる場所と寝室のトイレの距離の関係

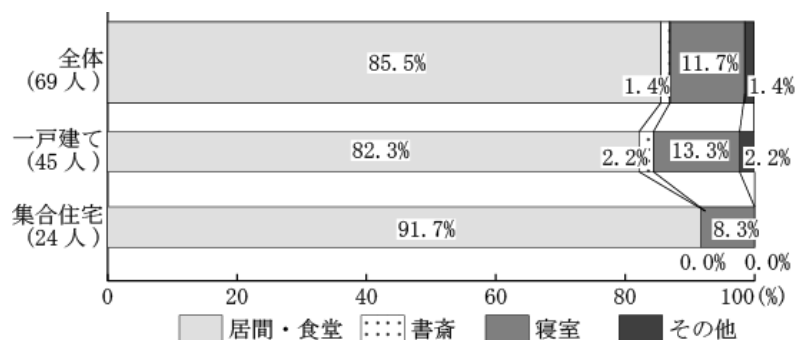
(17) 排泄に関する将来のこと

排泄に関する将来のことについてみると、「最後まで自分で行きたい」とする人が18人いた。そのために、「トイレ近くの部屋に移動を考えている」人や「ポータブルトイレの利用を考える」「這ってでもトイレに行く」という人もいる。

7 居場所に関すること

(1) 昼間よくいる場所

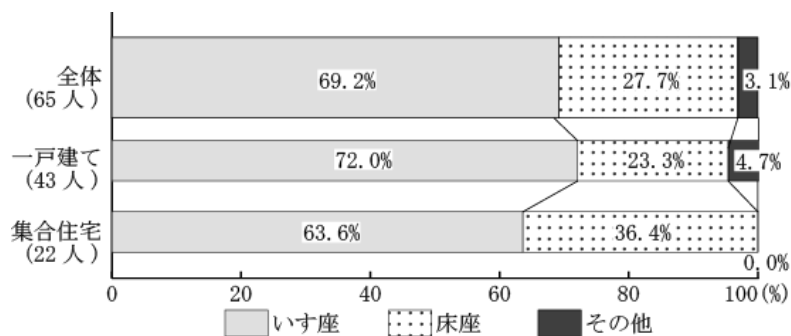
昼間よくいる場所についてみると、「居間・食堂」が85.5%となっている。



【図 5-7-1】 昼間よくいる場所

(2) 座位

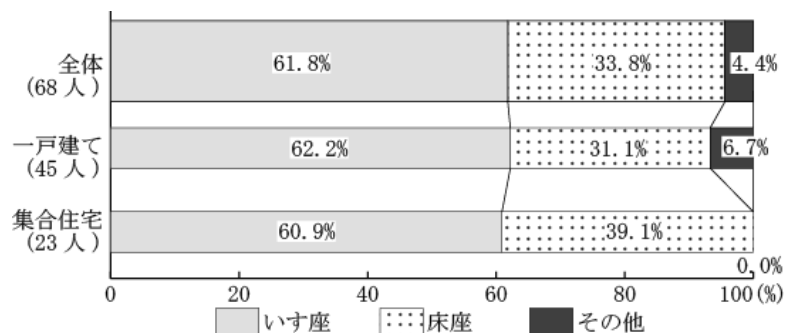
座位についてみると、「いす座」が69.2%となっている。



【図 5-7-2】 座位

(3) 好みの座位

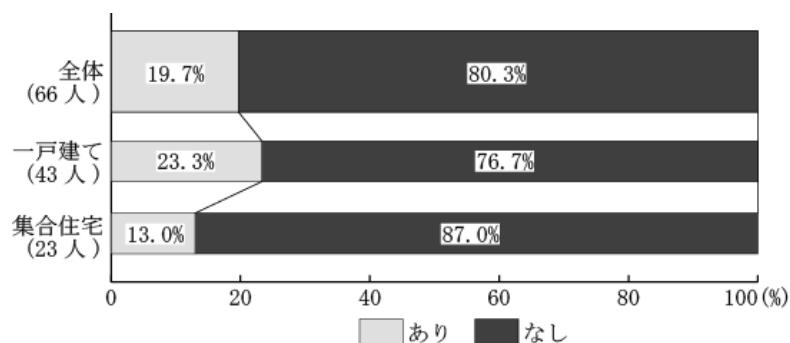
好みの座位についてみると、61.8%が「いす座」となっている。理由は、「床に座ると左足がしびれてくる」「膝が痛いのでいす座にした」などと身体機能の低下により、いす座にしたものが多い。



【図 5-7-3】 好みの座位

(4) いす座への抵抗感

いす座への抵抗感についてみると、全体の 80.3%が「なし」となっている。

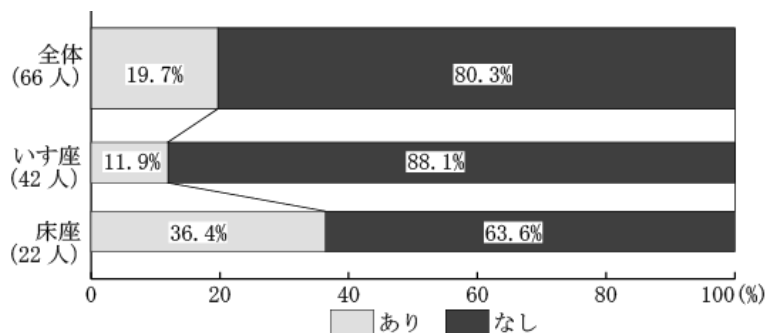


【図 5-7-4】 いすへの抵抗感

(5) 好みの座位といすへの抵抗感

好みの座位といすへの抵抗感についてみると、「いす座」を好む方が「抵抗感がなし」(88.1%)の割合が高かった。

いすに座りながらも、床座を好む人もいる。「膝が悪くなったので、70 歳代からいすになった。床に座った方が楽だがもう無理だと思う」「タタミに座る方が好きだが、立つのがつらい」などとなっている。

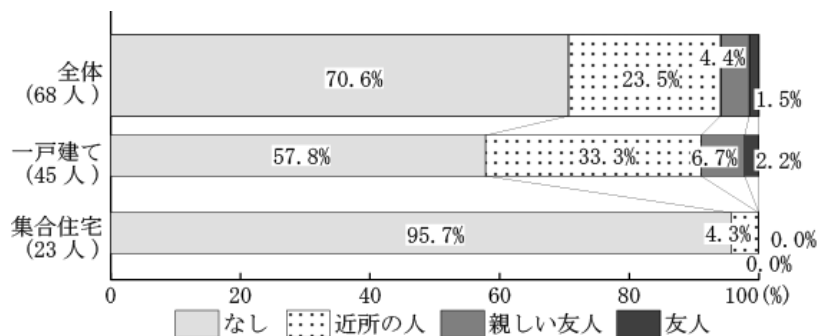


【図 5-7-5】 好みの座位といすへの抵抗感

(6) 玄関まで招き入れる人

玄関まで招き入れる人についてみると、全体の 70.6%が「なし」となっている。「一戸建て」は「近所の人」を 33.3%招き入れている。

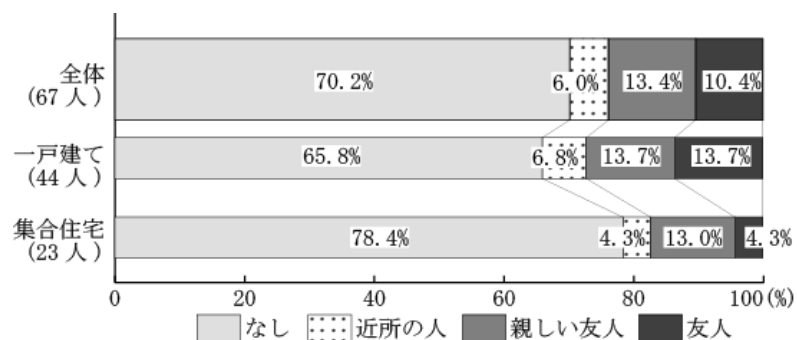
「友人はほとんどいないので招き入れない」「隣の人とはモノのやり取りをしているが、近所の方は玄関まで」などの意見があった。



【図 5-7-6】 玄関まで招き入れる人

(7)応接室・居間まで招き入れる人

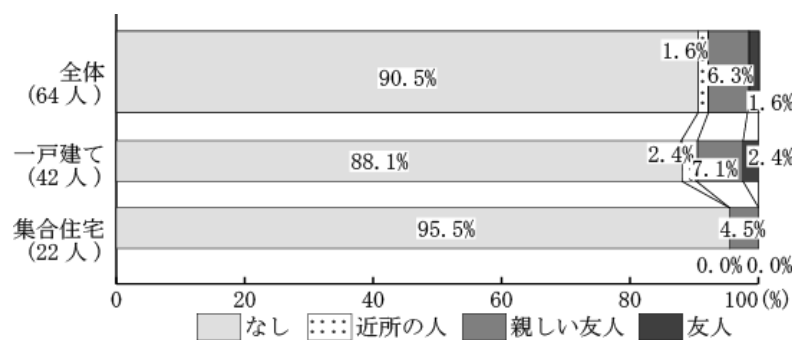
応接室・居間まで招き入れる人についてみると、全体の70.2%が「なし」となっている。



【図 5-7-7】 応接室・居間まで招き入れる人

(8)自分の部屋まで招き入れる人

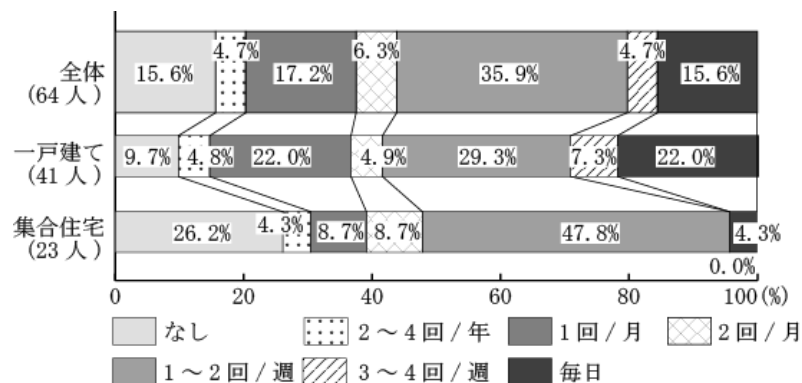
自分の部屋まで招き入れる人についてみると、全体の90.5%が「なし」となっている。



【図 5-7-8】 自分の部屋まで招き入れる人

(9)別居家族の訪問回数

別居家族の訪問回数についてみると、「1回/月」が36.9%と最も多くなっている。



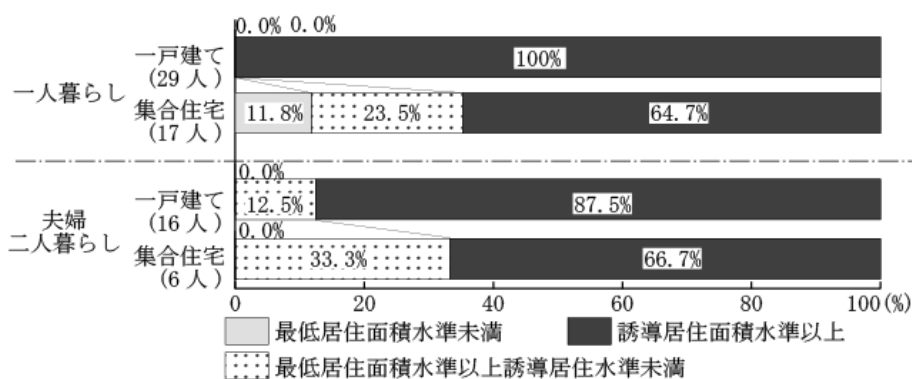
【図 5-7-9】 別居家族の訪問回数

(10)住生活基本計画の居住水準

住生活基本法では、世帯人数に応じて、健康で文化的な住生活の基礎として必要不可欠な住宅の面積に関する水準「最低居住水準面積」として一人暮らし 25 ㎡、二人暮らし 30 ㎡となっている。

世帯人数に応じて、豊かな住生活の実現の前提として、多様なライフスタイルを想定した場合に必要と考えられる住宅の面積に関する水準「誘導居住面積水準」として、都心とその周辺での共同住宅居住を想定している「都市住宅型」では一人暮らし 40 ㎡、二人暮らし 55 ㎡、郊外や都市部以外での戸建住宅居住を想定している「一般型」では、一人暮らし 55 ㎡、二人暮らし 75 ㎡となっている。

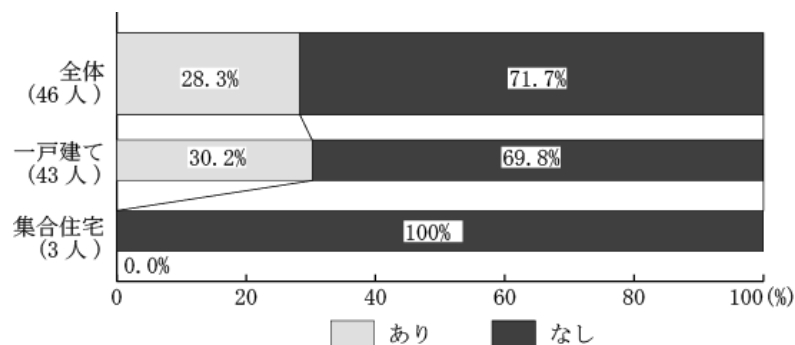
「集合住宅」に住んでいる「一人暮らし」では、「最低居住水準未満」に 11.8%が住んでいる。



【図 5-7-10】住生活基本計画の居住水準

(11)2階の利用

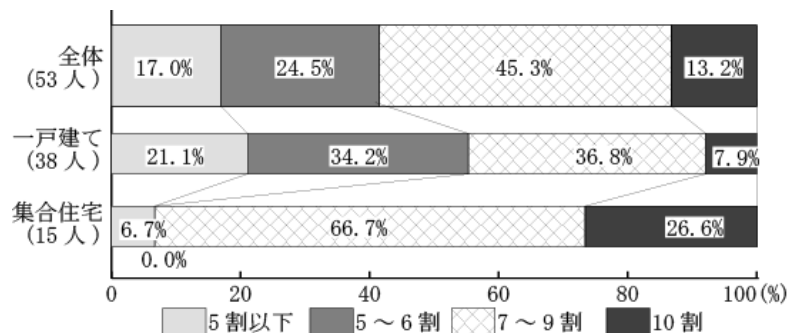
2 階の利用についてみると、全体の 71.7%が「なし」となっている。



【図 5-7-11】2 階の利用

(12)住宅全体の利用範囲

住宅全体の利用範囲についてみると、全体の「7～9 割」が 45.3%となっている。「5～6 割」が 24.5%と続く。

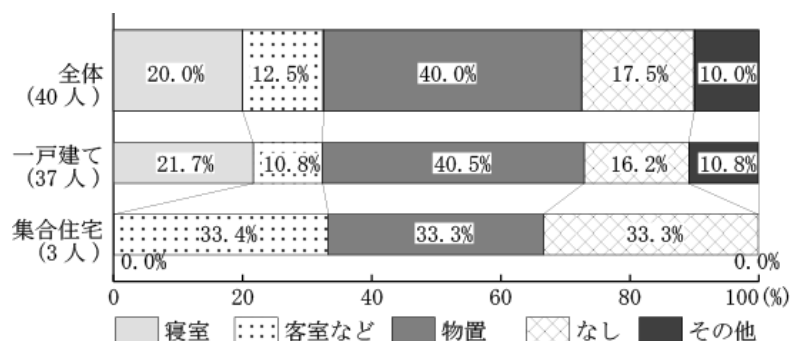


【図 5-7-12】住宅全体の利用範囲

(13)2階の利用方法

2階の利用方法についてみると、全体の40.0%が「物置」として利用している。続いて「寝室」(20.0%)となっている。

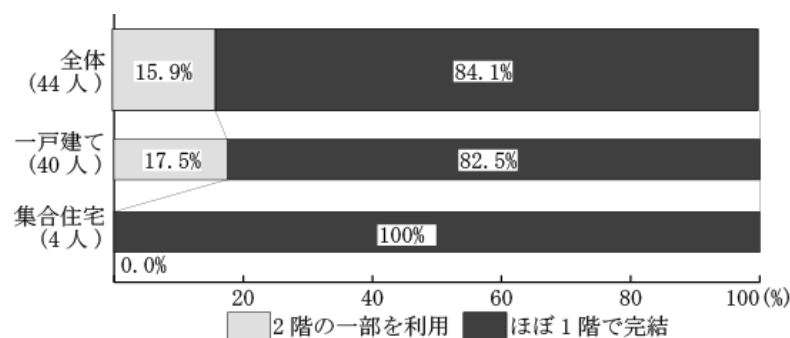
「2階は別居の息子の荷物置きになっている。自分は洗濯物を干しに行く程度」「雨戸をあけるために朝夕と2階に上る。生活の中でリハビリができています」などの意見があった。



【図 5-7-13】 2階の利用方法

(14)生活範囲

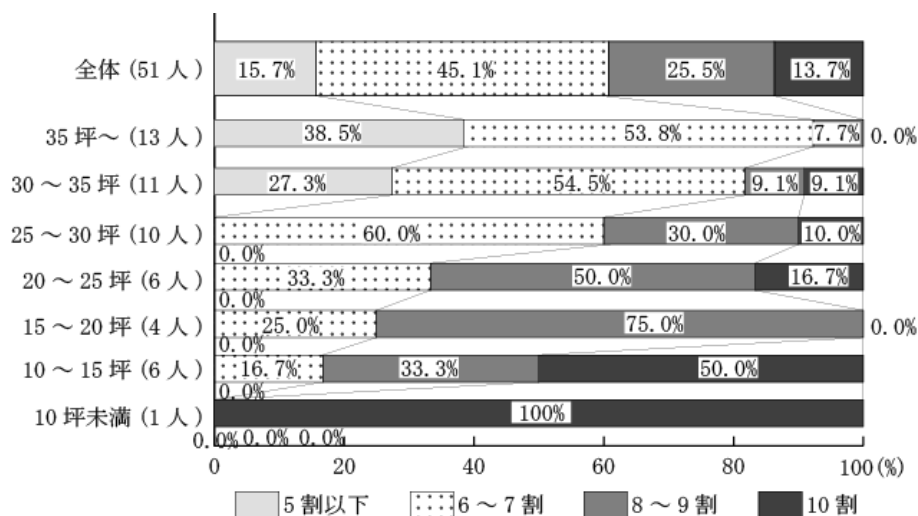
生活範囲についてみると、「ほぼ1階で完結」が84.1%となっている。



【図 5-7-14】 生活範囲

(15)住宅全体の利用範囲と住宅の規模

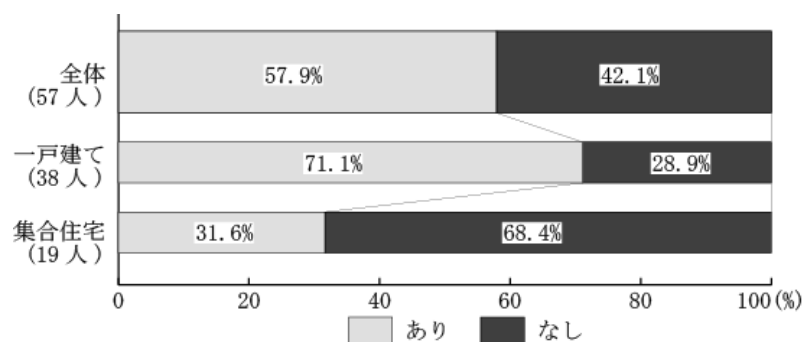
住宅全体の利用範囲と住宅規模についてみると、住宅規模が広がるほど、利用範囲が狭くなっている。



【図 5-7-15】 住宅全体の利用範囲と住宅の規模

(16)敷居の段差

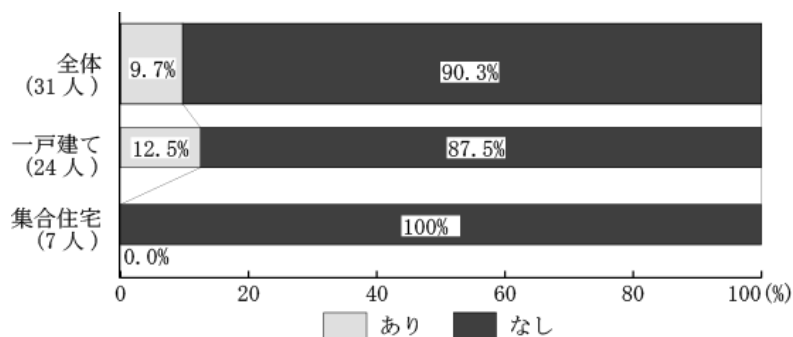
敷居の段差についてみると、全体の 57.9%が段差「あり」となっている。



【図 5-7-16】 敷居の段差

(17)すりつけ板

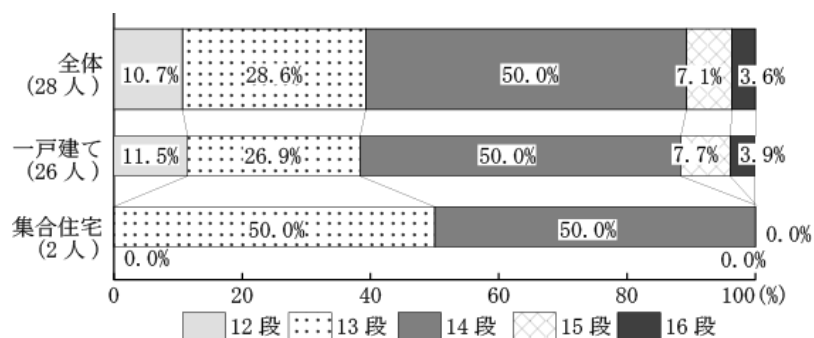
すりつけ板についてみると、全体の 9.7%が「すりつけ板」をつけている。



【図 5-7-17】 すりつけ板

(18)階段数

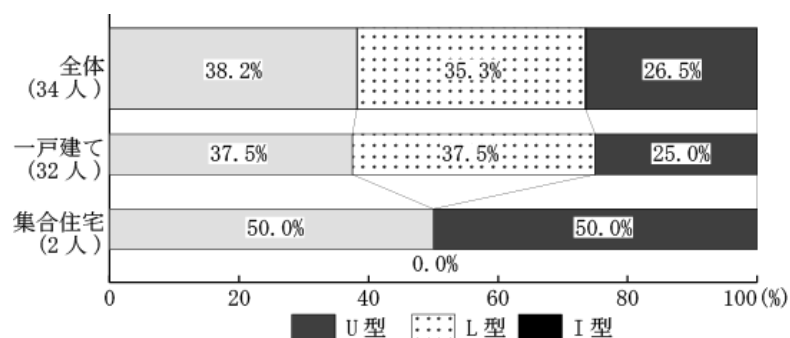
階段数についてみると、「14 段」が全体の 50.0%となっている。



【図 5-7-18】 階段数

(19)階段の形状

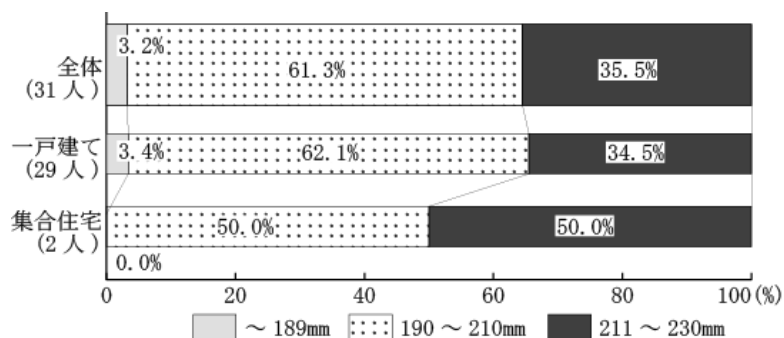
階段の形状についてみると、「U 型」が 38.2%と最も多く、続いて「I 型」35.3%となっている。



【図 5-7-19】 階段の形状

(20)階段の蹴上げ高さ

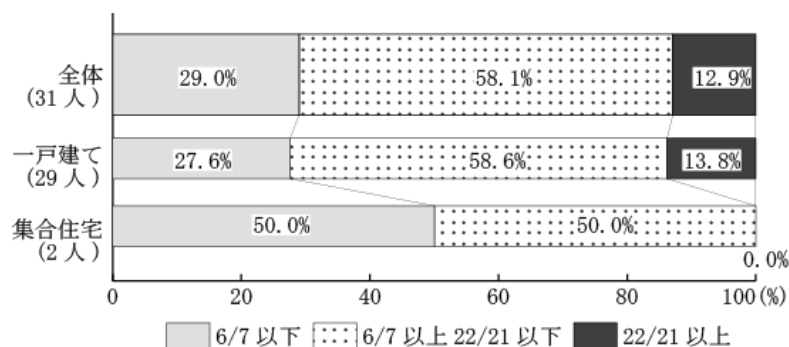
階段の蹴上げ高さについてみると、「190～210mm」が 61.3%と最も多くなっている。続いて、「210～230mm」(35.5%)となっている。



【図 5-7-20】 階段の蹴上げ高さ

(21)階段の勾配1

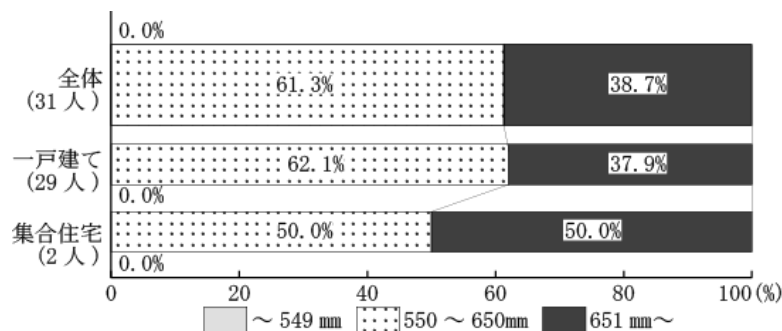
踏み面を蹴上げで割ったものとして階段の勾配についてみると、「高齢者の居住の安定確保に関する法律」の「高齢者が居住する住宅の設計に関する指針」での基本レベル「6/7 以上 22/21 以下」58.1%が最も多く、推奨レベルである「22/21 以上」は 12.9%となっている。



【図 5-7-21】 階段の勾配 1

(22) 階段の勾配2

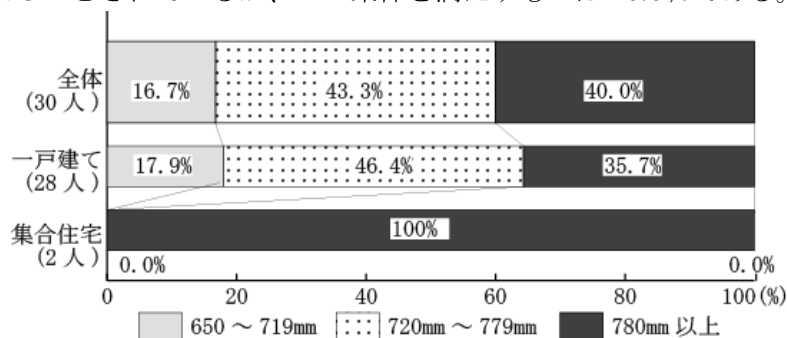
「高齢者の居住の安定確保に関する法律」の「高齢者が居住する住宅の設計に関する指針」では踏み面と蹴上げの2倍の合計が550mm以上650mm以下($550 \leq T(\text{踏み面}) + 2R(\text{蹴上げ}) \leq 650$)に階段の勾配をすることが望ましいとされている。その条件を満たすものは全体で61.3%となっている。



【図 5-7-22】 階段の勾配(T+2R)

(23) 階段の幅

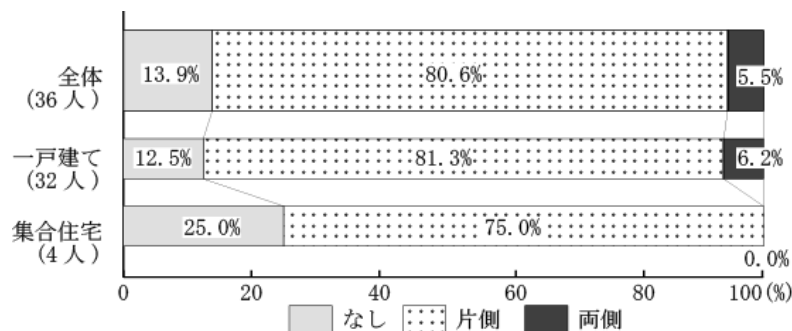
階段の幅についてみると、「720~779mm」が最も多く、43.3%となっている。「高齢者の居住の安定確保に関する法律」の「高齢者が居住する住宅の設計に関する指針」では「780mm 以上」とすることが望ましいとされているが、この条件を満たすものは40.0%である。



【図 5-7-23】 階段の幅

(24) 階段の手すり

階段の手すりについてみると、「片側」に設置されているが全体の80.6%となっている。

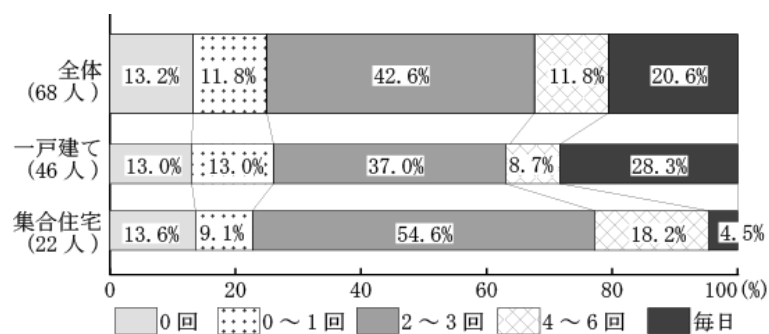


【図 5-7-24】 階段の手すり

8 外出に関すること

(1)外出回数

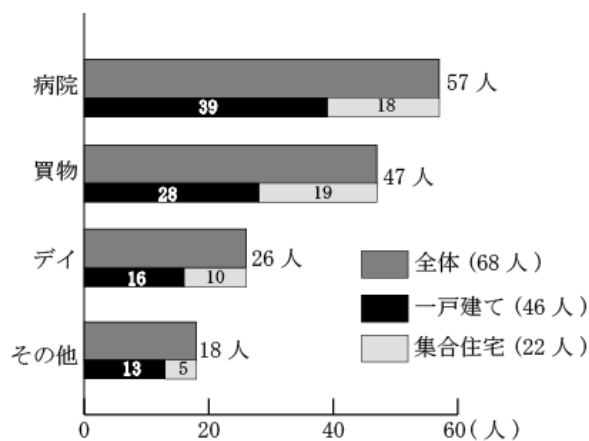
外出回数についてみると、「週に2～3回」が42.6%と最も多くなっている。



【図 5-8-1】 外出回数

(2)主な外出理由

主な外出理由は、「病院」が最も多くなっている。

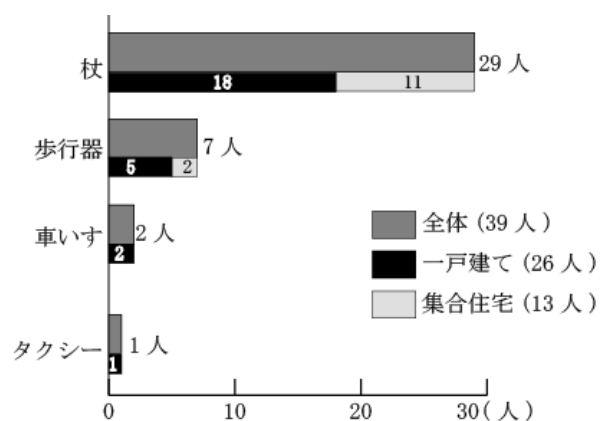


【図 5-8-2】 主な外出理由

(3)外出時に利用する福祉用具

外出時に利用する福祉用具は、杖が最も多くなっている。

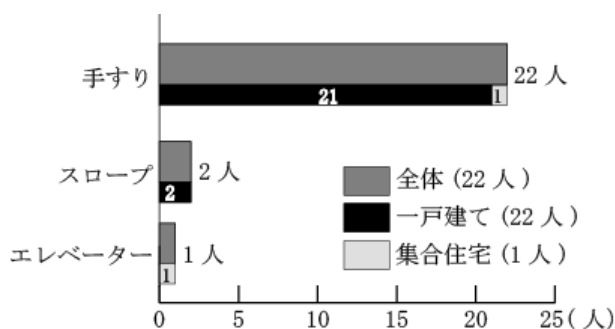
「杖は(転んだときのことを考えて)念のために持つ」「転ぶのが怖いので歩行器を使う」「外出時にふらつくが、杖は使わない。年寄りに見られるのはいや。」「近くでもタクシーで行く」などの意見があった。



【図 5-8-3】 外出時に利用する福祉用具

(4)玄関アプローチの福祉用具

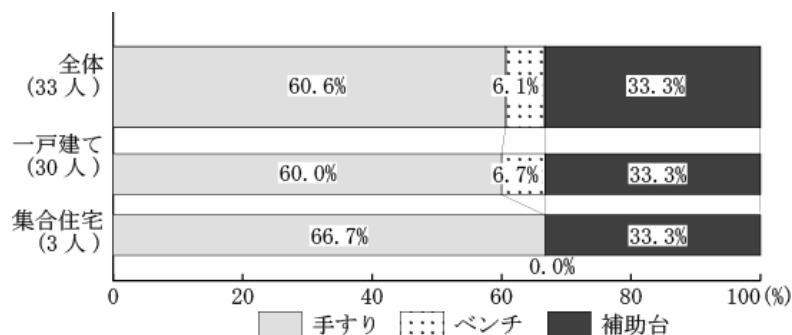
玄関アプローチの福祉用具についてみると、手すりが最も多く、22人が利用している。昇降機・スロープ・セニアカーの利用者はいない。その他として、「玄関にバスタチェアを使用して段差解消をしている」という意見があった。



【図 5-8-4】 玄関アプローチの福祉用具

(5)玄関まわりの福祉用具

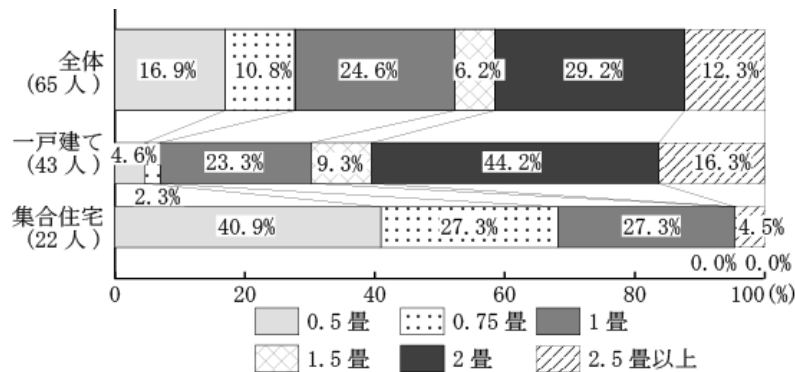
玄関まわりの福祉用具についてみると、「手すり」が60.6%となっている。「以前の家は50年住んでいたから慣れていたが今の家は慣れていないからアプローチが怖い」という意見があった。



【図 5-8-5】 玄関まわりの福祉用具

(6)玄関の広さ(畳)

玄関の広さについてみると、「2畳」が29.2%と最も多くなっている。「一戸建て」の方が「集合住宅」よりも広くなっている。

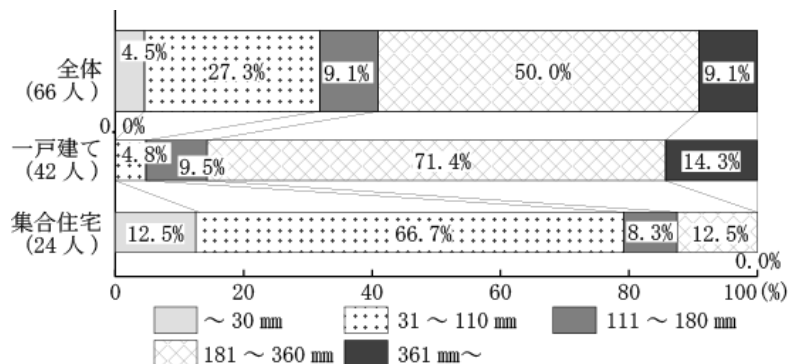


【図 5-8-6】 玄関まわりの福祉用具

(7) 上がりかまちの段差

上がりかまちの段差についてみると、「181～360mm」が50.0%で最も多くなっている。

「高齢者の居住の安定確保に関する法律」の「高齢者が居住する住宅の設計に関する指針」では、推奨レベルで110mm以下(接地階に属する玄関のものにあつては180mm、踏み段(奥行きが300mm以上で幅が60mm以上あり、かつ、1段であるものにあつては360mm以下)となっている。

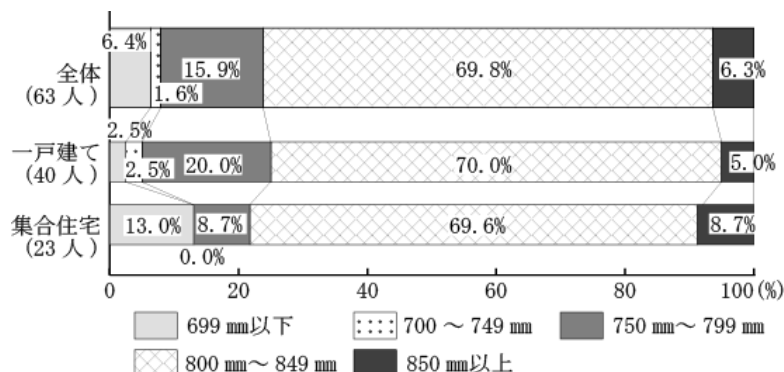


【図 5-8-7】 上がりかまちの段差

(8) 玄関扉の有効開口幅

玄関扉の有効開口幅についてみると、「700～749mm」が最も多く、69.8%となっている。

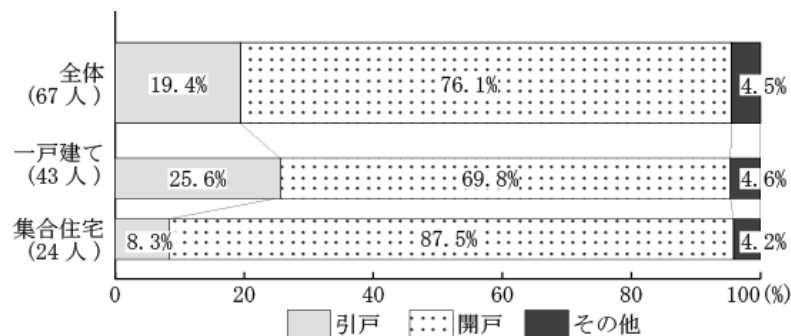
「高齢者の居住の安定確保に関する法律」の「高齢者が居住する住宅の設計に関する指針」では、基本レベルが750mm以上、推奨レベルは800mm以上となっている。



【図 5-8-8】 玄関扉の有効開口幅

(9) 玄関扉の形状

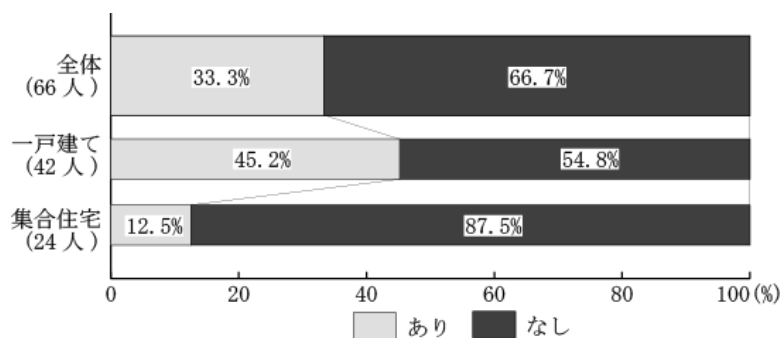
玄関扉の形状についてみると、「開戸」が76.1%と最も高くなっている。



【図 5-8-9】 玄関扉の形状

(10) 玄関まわりの手すりの有無

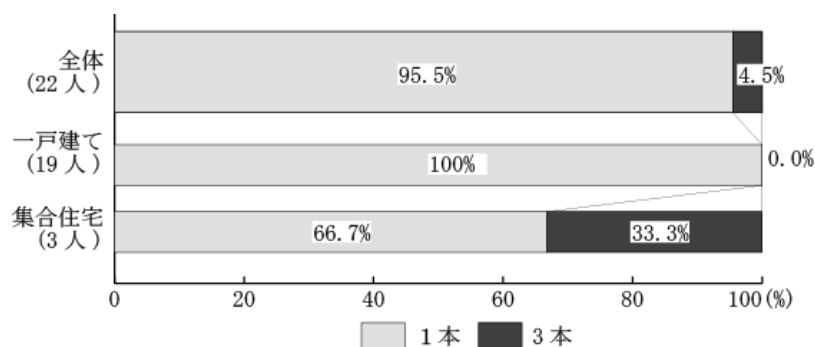
玄関まわりの手すりの有無についてみると、手すり「なし」が66.7%となっている。



【図 5-8-10】 玄関まわりの手すりの有無

(11) 玄関まわり手すりの本数

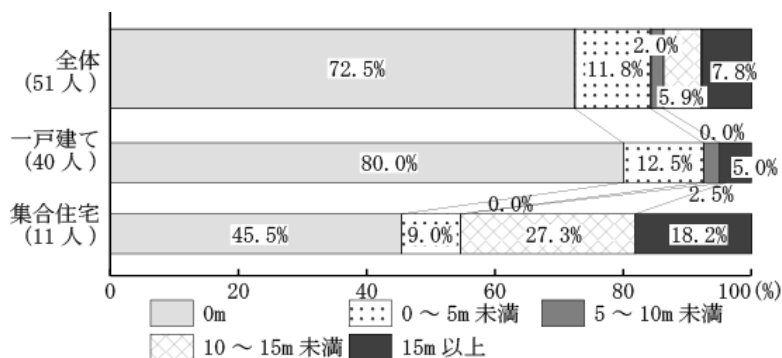
玄関まわりの手すりの本数についてみると、「1本」が95.5%となっている。



【図 5-8-11】 玄関まわりの手すりの本数

(12) 道路から敷地までの距離

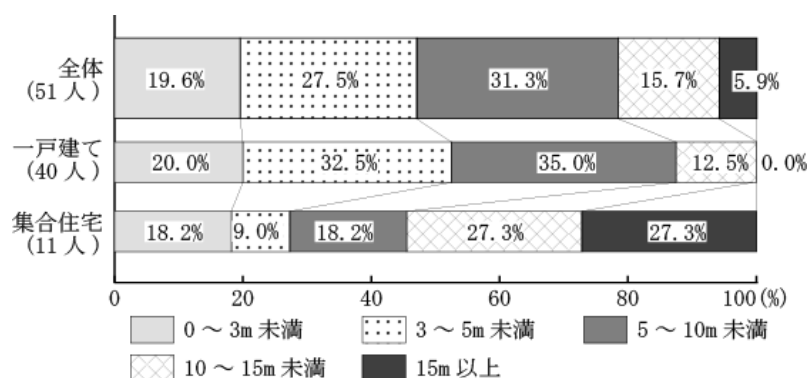
道路から敷地までの距離についてみると「0m」が72.5%となっている。



【図 5-8-12】 道路から敷地までの距離

(13) 敷地から玄関までの距離

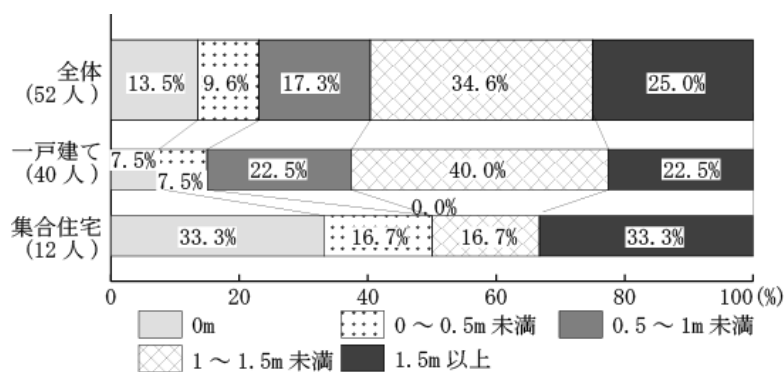
敷地から玄関までの距離についてみると、「5～10m」が31.3%と最も多くなっている。



【図 5-8-13】 敷地から玄関までの距離

(14) 道路から玄関までの高低差

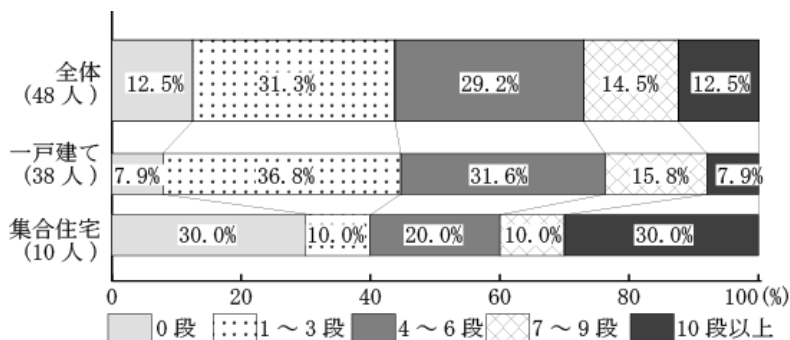
道路から玄関までの高低差についてみると、「1～1.5m 未満」が34.6%と最も多くなっている。



【図 5-8-14】 道路から玄関までの高低差

(15) 敷地から玄関までの階段数

敷地から玄関までの階段数についてみると、「1～3 段」が31.3%と最も多くなっている。

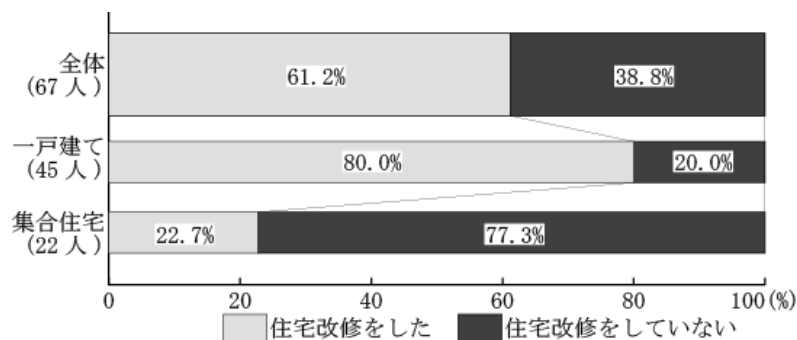


【図 5-8-15】 敷地から玄関までの階段数

9 住宅に関すること

(1) 住宅改修の有無

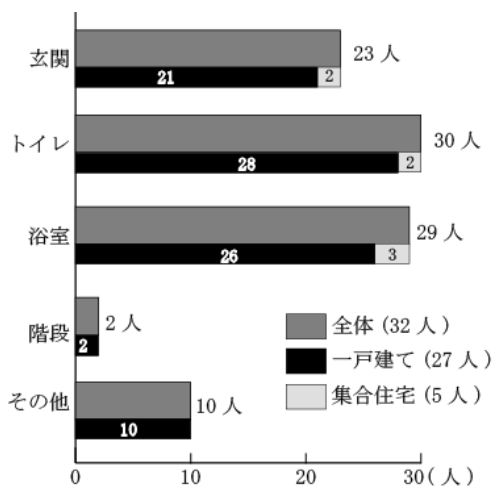
住宅改修の有無についてみると、全体の 61.2%が「住宅改修をした」としている。集合住宅では「住宅改修をしていない」が多い。



【図 5-9-1】 住宅改修の有無

(2) 住宅改修の場所

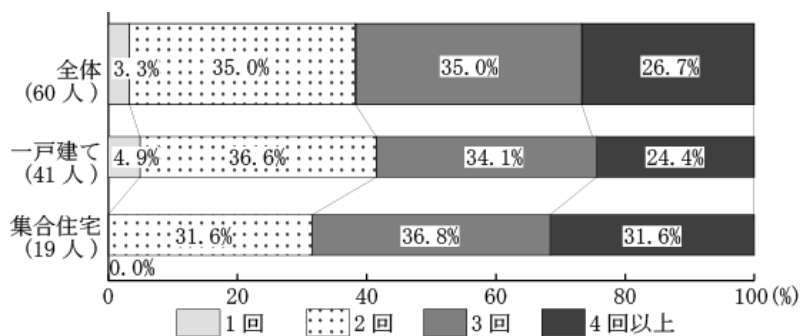
住宅改修の場所についてみると、「トイレ」が 30 人で最も多く、続いて「浴室」29 人となっている。



【図 5-9-2】 住宅改修の場所

(3) 結婚後の住宅の住替え回数

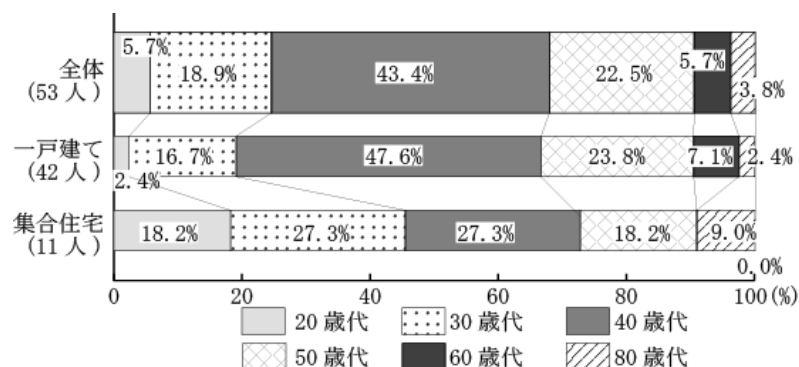
結婚してからの住替えた回数についてみると、「2 回」「3 回」が 35.0%と最も多くなっている。「集合住宅」の方が「一戸建て」よりも住替え回数が多い傾向にある



【図 5-9-3】 結婚後の住宅の住替え回数

(4)初めて持家を持った年齢

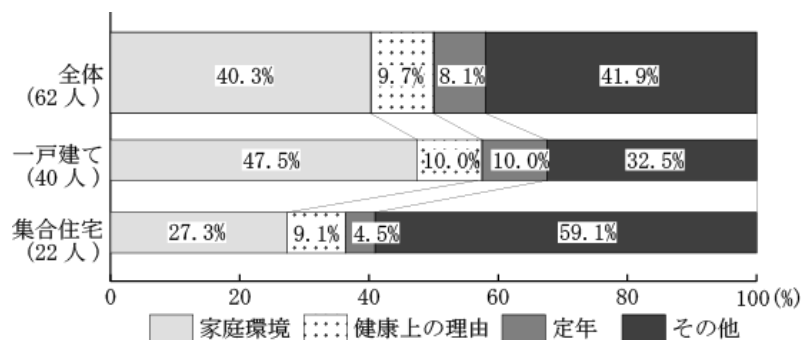
初めて持家を持った年齢についてみると、全体の43.4%が「40歳代」となっている。



【図 5-9-4】 初めて持家を持った年齢

(5)現在の住宅に変わった理由

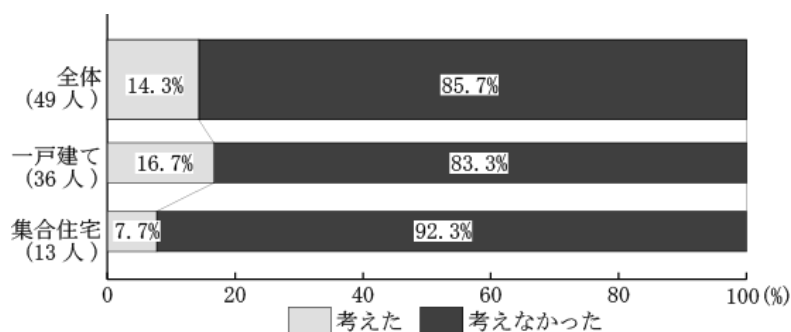
現在の住宅に変わった理由についてみると、「家庭環境の変化」が40.3%となっている。「その他」には、「お金がたまったら家を購入した」「公団住宅に当選した」などがあつた。



【図 5-9-5】 現在の住宅に変わった理由

(6)初めて持家を購入したとき老後について考えたか

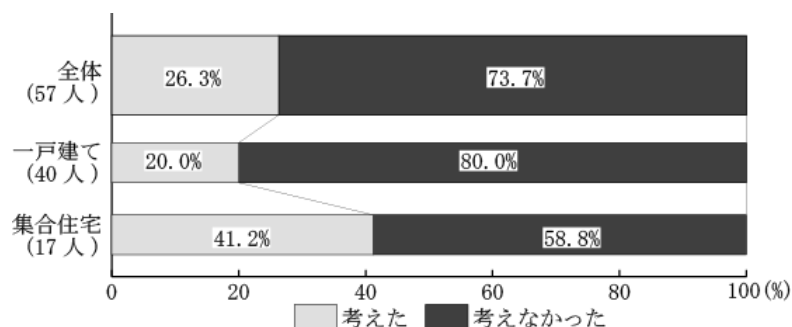
初めて持家を購入したとき老後について考えたかについてみると、85.7%が「考えなかった」としている。「考えた」には、「義母と同居していたため」などの回答があつた。



【図 5-9-6】 初めて持家を購入したとき老後について考えたか

(7)今の住宅に移ったときに老後について考えたか

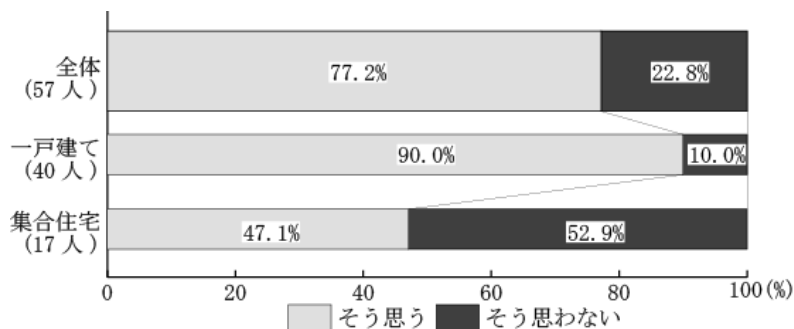
今の住宅に移ったときに老後について考えたかについてみると、全体の 26.3%が「考えた」としている。「集合住宅」(41.2%)の方が「一戸建て」(20.0%)よりも「考えた」が多い。



【図 5-9-7】今の住宅に移ったときに老後について考えたか

(8)家は財産だと思うか

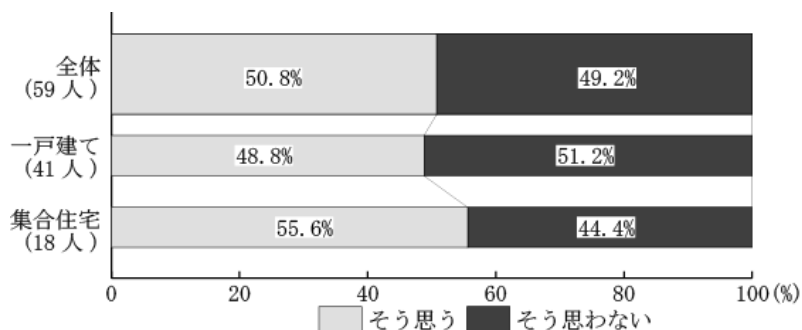
家は財産だと思うかについてみると、全体の 77.2%が「そう思う」としている。



【図 5-9-8】家は財産だと思うか

(9)住みにくくなったときは環境のよい家に住み替えたいと思うか

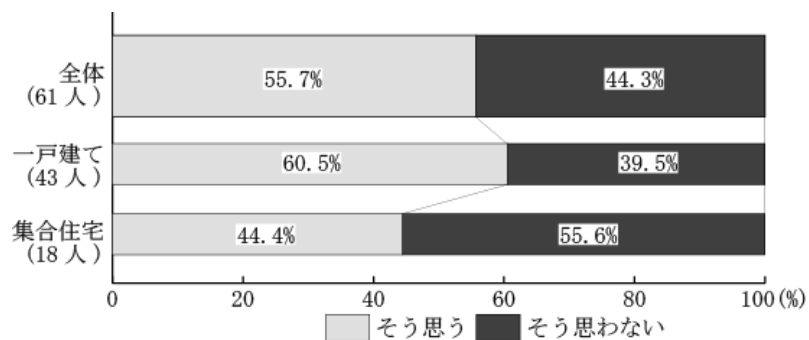
住みにくくなったときは環境のよい家に住み替えたいと思うかについてみると、全体の 50.8%が「そう思う」としている。「集合住宅」(55.6%)の方が「一戸建て」(48.8%)よりも「そう思う」が多い。



【図 5-9-9】住みにくくなったときは環境のよい家に住み替えたいと思うか

(10)たとえ住みにくくてもこの家に住みたいと思うか

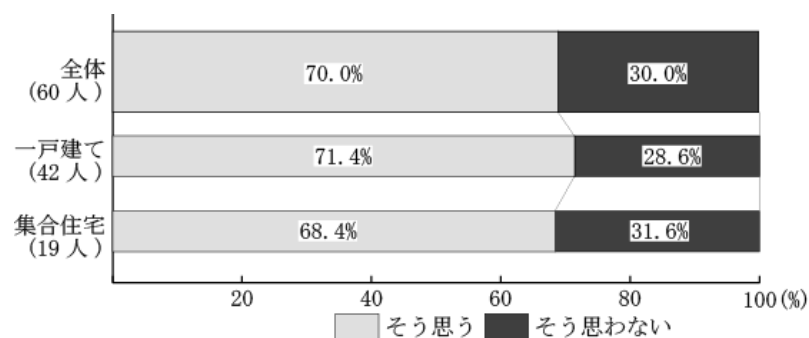
たとえ住みにくくてもこの家に住みたいと思うかについてみると、全体の 55.7%が「そう思う」としている。「一戸建て」(60.5%)の方が、「集合住宅」(44.4%)よりも「そう思う」の割合が多い。



【図 5-9-10】たとえ住みにくくてもこの家に住みたいと思うか

(11)たとえ住みにくくてもこの地域に住みたいと思うか

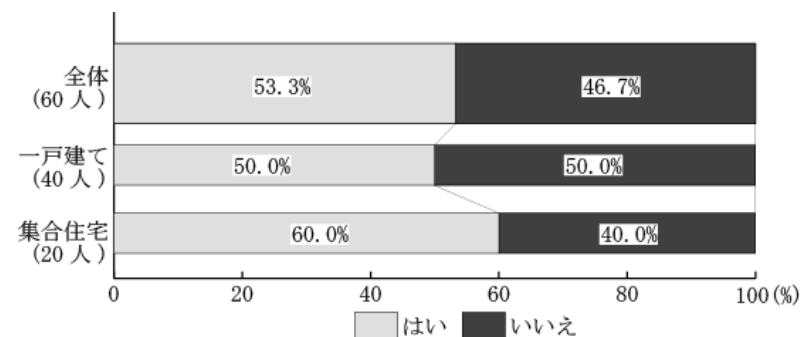
たとえ住みにくくてもこの地域に住みたいと思うかについてみると、全体の 70.0%が「そう思う」としている。「一戸建て」(71.4%)の方が、「集合住宅」(68.4%)よりも「そう思う」の割合が多い。



【図 5-9-11】たとえ住みにくくてもこの地域に住みたいと思うか

(12)寂しいと思うときはあるか

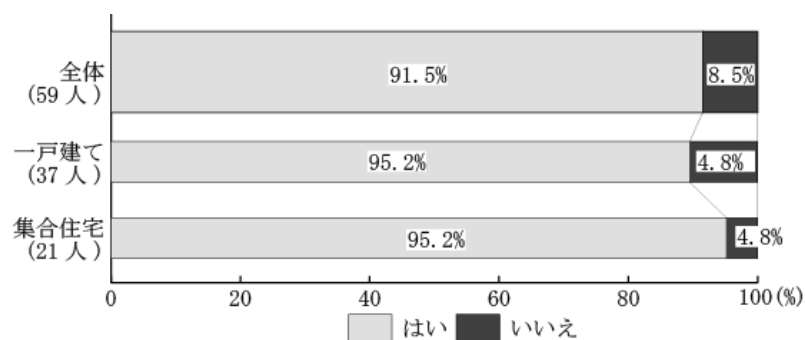
寂しいと思うときはあるかについてみると、全体の 53.3%が「はい」としている。



【図 5-9-12】寂しいと思うときはあるか

(13)気楽に感じるか

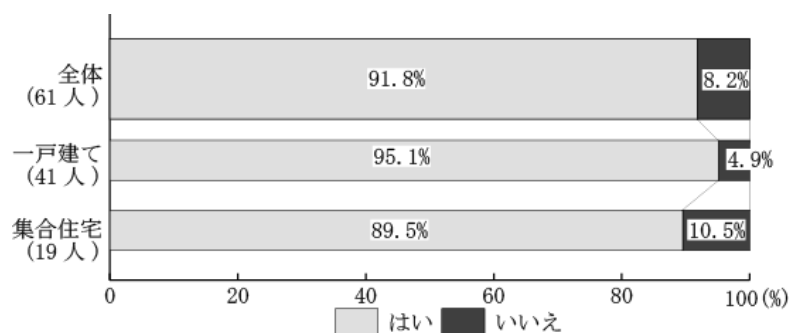
気楽に感じるかについてみると、「はい」が全体の 91.5%となっている。



【図 5-9-13】 気楽に感じるか

(14)別居家族の訪問は楽しみか

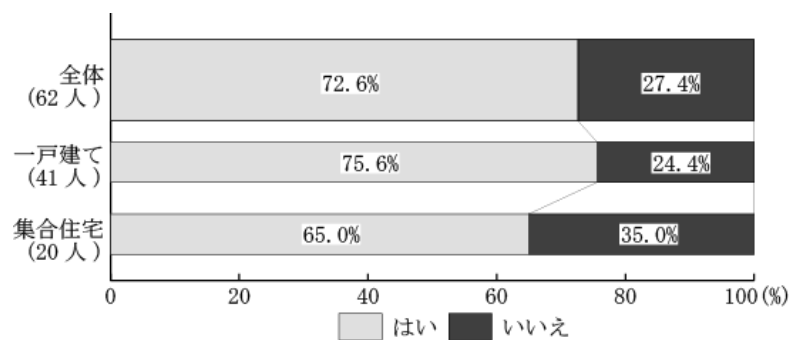
別居家族の訪問は楽しみかについてみると、「はい」が全体の 91.8%となっている。



【図 5-9-14】 別居家族の訪問は楽しみか

(15)将来に不安はあるか

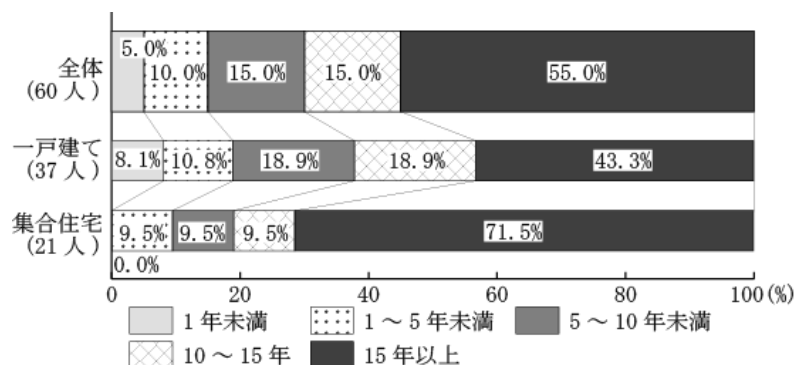
将来に不安はあるかについてみると、「はい」が全体の 72.6%となっている。



【図 5-9-15】 将来に不安はあるか

(16)現在の居住人数になった年数

現在の居住人数になった年数についてみると、「15年以上」が全体の55.0%となっている。

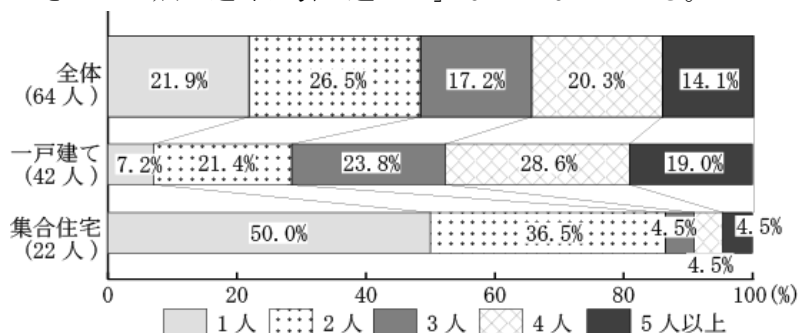


【図 5-9-16】現在の居住人数になった年数

(17)現在の家に最大何人が住んでいたか

現在の家に最大何人が住んでいたかについてみると、「2人」が全体の26.5%となっている。

「2人」や「1人」の回答では、「定年近くまで社宅に住み、50代後半で持家を購入した」や「身体が弱くなってきたので娘の近くに引っ越した」などとなっている。



【図 5-9-17】現在の家に最大何人が住んでいたか

謝辞

本調査にご協力いただきました要支援高齢者の皆様や聞き取り調査にご協力いただいた調査員に心より感謝いたします。

また本調査は、財団法人名古屋市長齢者療養サービス事業団の公益助成事業を受けて実施することができたことに多謝いたします。